

新潟県立歴史博物館年報

第 22 号

— 令和3年度 —



新潟県立歴史博物館年報

第22号

—令和3年度—

目次

I	管理運営の状況	1
1	沿革—開館までの経緯—	
2	施設の状況等	
3	運営方針	
4	組織図	
5	事務分掌	
6	予算	
7	平成3年度観覧者の状況	
8	ボランティア	
9	情報管理システム	
10	ホームページ	
11	メールニュース・SNS	
12	評価委員会	
13	新型コロナウイルス感染拡大防止への対応	
II	事業概要	21
1	学芸事業概要	
(1)	常設展示	
(2)	企画展示	
(3)	収集保管事業	
(4)	調査研究事業	
(5)	被災文化財の救済活動	
(6)	新潟県地域史研究ネットワーク	
2	交流普及事業概要	
(1)	講座	
(2)	体験プログラム	
(3)	視察・団体受け入れ状況	
(4)	出前授業	
(5)	職場体験	
(6)	高校生アカデミック・インターンシップ研修	
3	イベント	
4	博物館実習	
III	関係団体	67
1	新潟県博物館協議会	
2	新潟県立歴史博物館友の会	
IV	日誌抄	68
V	条例等	70
1	新潟県立歴史博物館条例	
2	新潟県立歴史博物館規則	

I 管理運営の状況

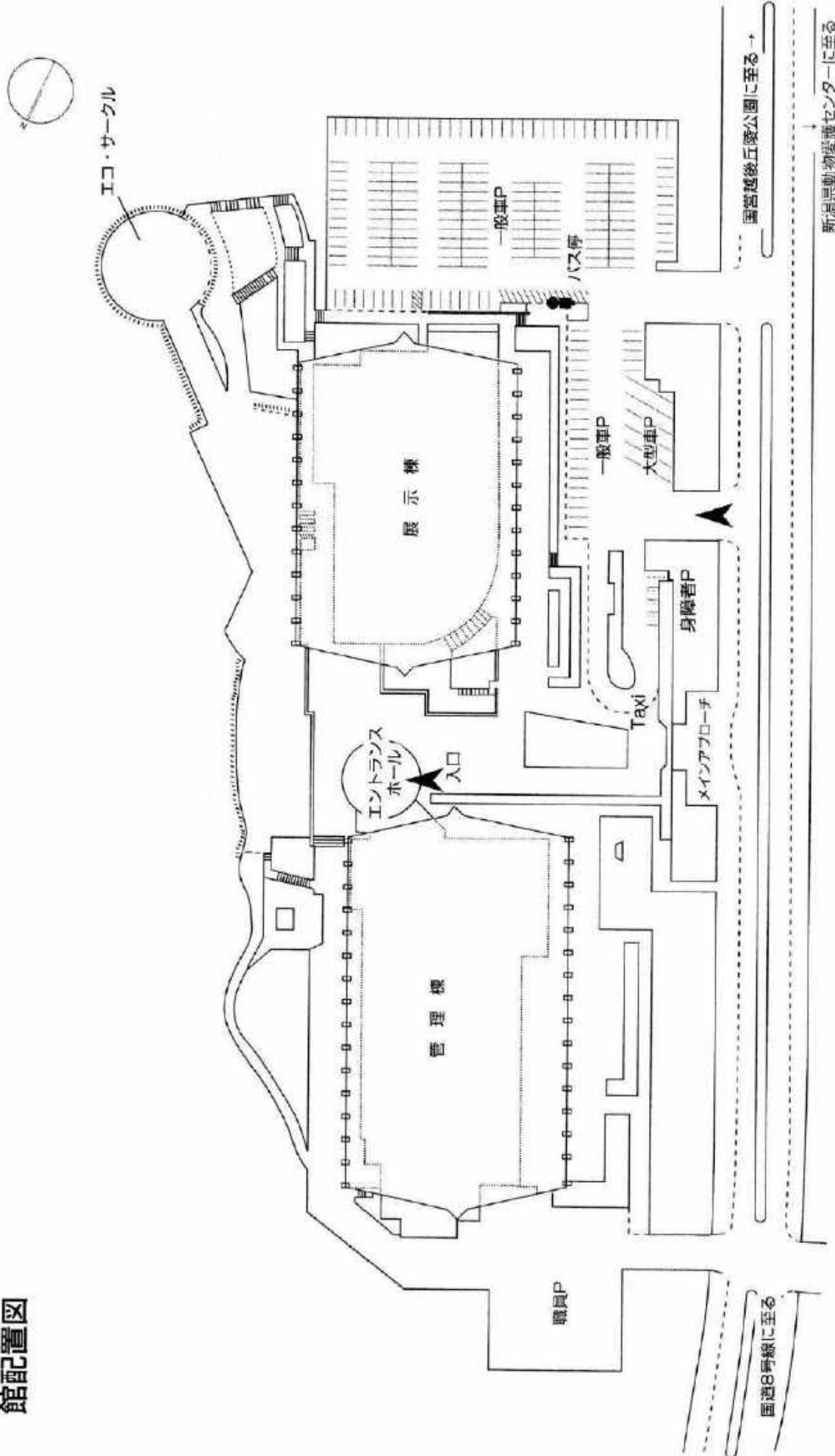
1 沿革－開館までの経緯－

- 昭和 60 年度 12 月 10 日 中越地区に社会文化施設を建設することを表明
- 昭和 62 年度 11 月 25 日 中越社会文化施設を長岡市に設置する基本方針を決定
- 昭和 63 年度 ・基本構想策定のための検討懇談会を設置
- 平成 3 年度 ・県の長期構想に掲げる「県立歴史民俗博物館」と「中越社会文化施設（縄文文化館）」の構想を一体の施設として整備する、とした基本構想を策定
- 平成 4 年度 ・基本計画検討委員会（委員 18 名）を設置
6 月 7 日 「新潟県歴史民俗文化館」（仮称）の建設基本構想を策定
- 平成 5 年度 ・展示収集委員会（委員 10 名）を設置
4 月 1 日 企画調整部企画課内に社会文化施設建設班を設置
2 月 7 日 建設地を長岡市関原町 1 丁目地内に決定
3 月 25 日 建設基本計画を策定
- 平成 6 年度 ・資料調査員（12 名）を設置
・有識者懇談会（5 名）を設置
11 月 1 日 展示基本設計契約
3 月 24 日 展示基本設計完了
3 月 31 日 建設用地の先行取得
- 平成 7 年度 4 月 20 日 建築基本設計契約
11 月 30 日 建築基本設計完了
1 月 18 日 展示実施設計委託
- 平成 8 年度 10 月 9 日 建築実施設計委託
1 月 31 日 展示実施設計完了
3 月 31 日 建築実施設計完了
- 平成 9 年度 4 月 1 日 企画調整部企画課内に社会文化施設建設室を設置
10 月 9 日 建築本体工事発注、展示制作発注
10 月 28 日 建築工事起工
- 平成 10 年度 4 月 21・23 日 県立歴史民俗文化館（仮称）の所管及び管理運営等について県三役（知事・副知事・出納長）説明
- 平成 11 年度 6 月 7 日 館の正式名称を「新潟県立歴史博物館」に決定
10 月 15 日 建築工事竣工
10 月 29 日 「博物館だより」創刊号発行
3 月 24 日 新潟県立歴史博物館条例議決
3 月 31 日 「博物館だより」第 2 号・『新潟県立歴史博物館研究紀要』創刊号発行
- 平成 12 年度 4 月 1 日 館の所管を企画調整部から環境生活部に移管
5 月 30 日 展示制作完了
7 月 20 日 「博物館だより」第 3 号発行
7 月 25 日 展示資料据え付け完了
7 月 28 日 竣工式。報道機関に公開
7 月 29・30 日 県民に対する内覧会（応募者約 2,000 名）
7 月 29 日 開館記念協賛事業として野外スペシャルコンサート「土取利行縄文鼓の世界」開催（新潟県立歴史博物館野外エコ・サークル特設ステージにて）
8 月 1 日 開館

2 施設の状況等

- | | | | |
|-----------|----------|---|-------|
| (1) 施設概要 | 場 所 | 長岡市関原町1丁目字権現堂 2247 番 2 | |
| | 敷地面積 | 50,009.36 m ² | |
| | 建築面積 | 12,101.62 m ² | |
| | 延床面積 | 10,841.37 m ² | |
| | 構造・階数 | 鉄筋コンクリート造 地上1階 地下1階 | |
| | 駐 車 場 | 外来（一般） | 184 台 |
| | | 大型バス | 5 台 |
| | | 身体障害者 | 4 台 |
| 職員 | | 48 台 | |
| (2) 設 計 者 | 基本設計 | (株)日本設計 | |
| | 実施設計 | (株)日本設計・新潟県建築設計協同組合特定企業共同体 | |
| | 展示設計 | (株)ムラヤマ | |
| (3) 請負者 | 建 築 | 植木・大石・小杉特定協同企業体 | |
| | 電 気 | 近藤電気(株) | |
| | 空 調 | 朝日・新潟施設特定企業共同体 | |
| | 衛 生 | (株)長岡総合設備 | |
| | ガ ス | 北陸ガス(株) | |
| | 昇 降 機 | (株)東芝新潟支店 | |
| | 外 構 建 築 | (株)植木組 | |
| | 外 構 電 気 | 近藤電機(株) | |
| | 外 構 衛 生 | (株)長岡総合設備 | |
| | 植 栽 | (株)ニューガーデン、(株)芳樹園、(株)宮川苑、(株)日建緑地
吉茂造園(株)、北越緑化(株)、グリーン産業(株)、(株)鈴木造園 | |
| | サ イ ン | 越後観光(株) | |
| | 室 内 標 識 | (株)サン企画 | |
| | 展 示 | (株)トータル・メディア開発研究所 | |
| | (4) 総事業費 | 122 億円 | |

館配置図



館内図



3 運営方針

平成 29 年 3 月 30 日、「新潟県立歴史博物館の運営方針（平成 29 年度～33 年度）」を策定した。以下、本文を掲載する。

1 策定の趣旨

現在、当博物館は「新潟県立博物館の運営方針（平成 24 年度～平成 28 年度）」を定め、資料収集・保管、展示等の諸活動を行っているが、今後ともよりよい博物館づくりを目指すためには、博物館の諸活動の目的を明確化・共有化し、広く県民に提示して不断に活動の検証と改善を行っていくことが引き続き必要である。そのため、今後 5 年間（平成 29 年度～平成 33 年度）を計画期間とした博物館活動の指針となる新たな「運営方針」を定める。

2 当博物館活動の基盤

(1) 博物館条例

当博物館は、歴史・民俗および縄文文化に関する県民の教養を高め、県民の学術・文化の振興に資する社会教育施設として平成 12 年 8 月に設置された。資料収集・保管、展示など様々な博物館活動を実施している。

(2) 上位計画

新潟県文化プラン（平成 29 年 3 月改訂版）では、基本目標として「文化で創る、心豊かな『ひと』、魅力ある『地域』…そして未来へ」を掲げ、「ふれる」「つたえる」「つなぐ」の 3 つの施策の方向性を設定し、さまざまな施策に取り組むこととしている。また、県は専門的・広域的な推進役を果たすものと位置づけられている。

(3) 当博物館の運営体制

当館は、開館当初は県文化振興財団に管理運営委託された。平成 18 年度、指定管理者制度の導入に伴う管理運営形態の検討の結果、県の直営とすることとされたが、同時に「指定管理者制度と同様の創意工夫」も求められている。

平成 20 年度には、それまでの諸計画を統合して「博物館運営方針」を定めた。平成 24 年度からはこれを 5 か年の計画として整理した。

さらには、博物館が行う博物館の諸活動の検証・評価を行うため、平成 18 年度からは博物館評価委員会が設置されている。

3 当博物館を取り巻く情勢

当博物館を取り巻く情勢として、主に次のものが挙げられる。

(1) 全般的な社会情勢

- ・長引く景気低迷や雇用不安など厳しい経済情勢が続くなか、国・地方の財政状況は厳しさを増している。
- ・情報通信技術の急速な発展と普及に伴って情報の受発信の在り方が変化してきている。
- ・余暇時間の増大と高齢化に伴って生涯学習機会への要請が高まっている。
- ・本県においては、全国に先行する人口減少が進むなか、県全体の活力低下が懸念されている。

(2) 博物館を取り巻く情勢

- ・経済状況、余暇の多様化などを反映して、全国的に博物館総数、及び一館あたり入館者数とも頭打ちの状況となっている。
- ・その一方で、生涯学習社会の進展とともに、博物館が利用者、地域住民の要請に応えた運営を行っていくことがますます必要となっている。
- ・本県においては、中越大震災からの復興への取組が進み、またその後も度重なる災害を経験するなかで、歴史資料を次世代へと引き継ぐ取組が求められている。

4 当博物館活動の現状

当館は、平成12年の開館以来、縄文を中心とした本県の歴史・民俗に関して、「収集・保管」、「展示」、「調査・研究」、「交流・普及」、「情報発信」の5つの機能を果たす活動を展開してきた。

具体的には、資料の収集・保存に努めるとともに、研究調査を館活動の根幹としつつ常設展示や年4回程度の企画展を実施してきた。また、館内での講座・体験活動や館外活動、きめ細かな団体案内・展示解説等の充実を図り、学校教育・生涯教育の一翼を担う場としても活用されている。

とりわけ近年は、企画展における各種団体との共催や協力、地域史研究ネットワーク、博物館ボランティアの活発化をはじめ、様々な面で地域連携に取り組んでいる。さらには国の科学研究費等外部資金の獲得による研究等の一層の充実にも努めている。

一方利用者数については、利用者総数（施設機能別（館内外）の利用者数合計）は年間10万人前後で推移している。観覧者数（常設展・企画展の観覧券発行数）はしばらく年間5万人台から6万人で推移していたが、近年は4万人台にとどまる年度もあり、やや漸減傾向にある。

平成23年度には、参事ポスト（にぎわい創出担当）および経営企画課の新設（管理課と交流普及課の統合）を内容とする組織改正を行った。

5 博物館に対する評価

(1) 外部評価委員会による評価

令和2年度の館活動に対する評価報告書では、次のような評価を受けている。

歴史博物館評価委員会 令和2年度評価報告書の概要

新型コロナの影響が年度全体にわたって及んだ最初の年であり、一言で言えば、活動を大きく制限される中でも、様々な工夫しながら危機に対応した様子が多方面で見受けられる。

特筆すべき点として、悪疫退散の妖怪が流行する中、常設展の一角における、県内の類似する伝説を記した文書の展示が挙げられる。また、SNSによる発信も積極的に行われ、その内容も単なる活動の告知にとどまらず、館が持つ知見や活動を県民にわかりやすく、親しみやすく発信しようという意思が多分に感じられるものであった。さらにホームページを英語のみならず諸外国語対応したり、英語による博物館紹介のバーチャルツアーを外部機関と連携して行ったりするなど、インバウンドへの意識も高い。

全体として、本年度の館の活動は、県民の方を向こうとする姿勢が貫かれたものといえよう。これらの活動の根底には、本県の歴史民俗、そしてそれを伝える博物館活動に関する高度な研究の蓄積があることを県民は忘れてはならないだろう。

他方、今年度より入場料の徴収方法が変更となり、来館者の動きが大きく変化した様子がうかがえる。

結果として館の中心的活動である展示（常設展、企画展）に対して、県民のアクセスがやや消極的になったようにも見受けられ、次年度以降注視したい。

本年度、館の活動としては高く評価できる点が多々あった一方で、様々な評価指標に照らすと、新型コロナの影響により、県民にそれが充分届かなかつたように見受けられる。本年度の様々な試みから得られた経験が、感染症収束後に実を結ぶことを期待したい。

6 博物館の基本理念

(1) 基本的な考え方

- 博物館の目的は「新潟県の歴史及び民俗並びに縄文文化に関する県民の教養を高め、県民の学術及び文化の発展に寄与する」ことにある。

この目的をよりよく達成するためには、これまで記載した現状・評価等を踏まえ、全職員が「博物館は利用者満足が起点」であることを常に意識し、博物館の基本的活動である資料収集・保存、展示、調査・研究等を着実に進める必要がある。そしてその成果を広く還元すべく、より多くの県民にご来館い

ただき、あるいは様々な博物館活動に触れていただくための創意工夫に努めることが不可欠である。

- また、地域の関係機関から頼られる拠点施設としての活動を充実するとともに、地域文化を発信する観光拠点としても認知されることにより、多面的機能を有し、かつ、県内外及び国際的にも開かれた博物館としての地位を確立することが必要である。
- これらの取組を着実に推進し、厳しい財政状況の中にあっても、県民から理解され支持される存在として発展していく必要がある。

(2) 当博物館の基本理念

これらの基本的な考え方にに基づき、博物館の基本理念を次のとおりとする。

○県民の営みの証である歴史資料を記録・整理・保存し、新たな歴史像※を県民とともに創造していきます。
 ○人々と連携しながら、現在から未来へ、地域から世界へと県の価値を発信していくことを使命とします。
 こうした活動を通して
 『より県民に愛され、利用され、“にぎわいのある博物館”』を実現します。

※「新たな歴史像の創造」

博物館の活動を通じて再発見される新潟県の価値や魅力が、新潟県の歴史についての新鮮なイメージとして、県民の皆さん一人一人の中で実を結んでいくこと

7 博物館活動の目標

この理念に基づいて活動を進めていくにあたっての成果指標として、博物館の利用者数、及び利用者の満足度を掲げる。

指 標

- 1 博物館利用者数
- 2 博物館利用者の満足度

指 標		現状値(令和2年度)		目 標
1 利用者数	①利用者総数 (政策プラン指標)	(単年度)	44,666 人	各指標を増加させる
		(前計画期間平均)	102,822 人	
	②観覧者数	(単年度)	40,843 人	
		(前計画期間平均)	52,830 人	
2 満足度 (単年度)	①来館者満足度	95%		各指標を維持・向上させる
	②企画展	95%		
	③講座等	講座・講演会	99%	
		体験コーナー	100%	
④来館者応対	-			

[各指標の数値について]

1-① 利用者総数

博物館が行う以下の活動・機能ごとの利用者を加算した数値

〔 常設展＋企画展＋講演会・講座＋体験コーナー＋その他イベント等＋
 館外活動（出前講座・授業、移動・巡回展） 〕

1-② 観覧者数

常設展及び企画展のチケット販売数＋無料観覧者・視察者

2-①～④ 満足度 利用者・参加者等のアンケート回答に基づく

8 博物館の活動方針

上の目標と併せて、博物館の使命達成と基本理念の実現に向けた活動を行っていくため、当博物館が有する機能や主な取組分野ごとに以下のとおり活動方針を定める。

(1) 収集・保管

- ・本県の歴史を明らかにするために欠かすことのできない資料の収集・整理に努めると共に、そのデータ化を推し進める。
- ・良好な資料保存環境を維持する。

(2) 展示

◇ 常設展示

- ・設備・機器・資料の適切な管理に努め、良好な見学環境を維持する。
- ・常設展示の十分な活用を推し進める。

◇ 企画展示

- ・調査研究の反映や収蔵資料の活用によって魅力ある企画展を実施する。
- ・集客を意識し、県民の関心を反映した企画展示に努める。

(3) 調査・研究

- ・本県の歴史系博物館の拠点として、質の向上を目指す。
- ・館活動の根幹である調査研究の成果の県民への還元に努める。

(4) 教育・普及

◇ 学校教育

- ・学校教育に一層活用される博物館を目指す。
- ・新潟県民としての自覚と誇りを持つ教育に貢献する。
- ・館内及び館外活動の充実を図る。

◇ 社会教育

- ・県民の知識・教養を高め、県民が豊かな社会生活を営むための機会や情報を提供する。
- ・館内及び館外での活動の充実を図る。

(5) 連携

◇ 学術面の連携

- ・県内各地の歴史・文化的価値の再発見と活用を支援する。
- ・幅広い団体とのネットワークを強化する。

◇ 地域づくりに向けた連携

- ・歴史を通じた県内各地の地域づくりに貢献する。
- ・近隣の施設や様々な団体との連携を深める。

(6) 情報発信

- ・当館の活動について、県民認知度を高める。
- ・本県の歴史・文化的魅力を県外・海外にアピールすることで、交流人口の増大への寄与を図る。

(7) 管理運営

- ・運営方針を館職員で共有し、方針を意識しながら博物館活動を進める。
- ・目標の実現に向けた効率的な運営を行う。
- ・来館者への安全・安心の提供に努めるとともに、来館者などの関心や目線に常に注意を向ける。

9 活動方針に基づいた取組の実施・進捗管理

上記の活動方針の達成を目指した博物館活動が確実に行われるよう、取組分野ごとの今後5年間の「主な実現方策」、及び5年後の到達目標となる「評価指標」を定める。(別表)

また、各年度の具体的な取組については、今後の社会情勢の推移、県民や利用者のニーズの変化、現実の館運営体制などに応じたものとする必要があるため、本計画の「活動方針」・「主な実現方策」のもと、

各年度において検討する。

こうした博物館活動の取組について、毎年度、館内での自己評価を行うとともに、評価委員会からの評価を受ける。これらを通じてPDCAサイクルによるマネジメントに取り組む。

活動の評価にあたっては、博物館の使命達成の観点から多面的に分析を行う。

10 更なる充実に向けての課題

当博物館が更なる充実した活動を行っていくには、上に掲げた活動方針の達成に併せて、次に記載するような課題に取り組んでいく必要がある。これらの課題は、外部要因に大きく依存するものや、博物館単独では解決が困難なものであるが、当館として可能な限りの進展を目指して取り組む。

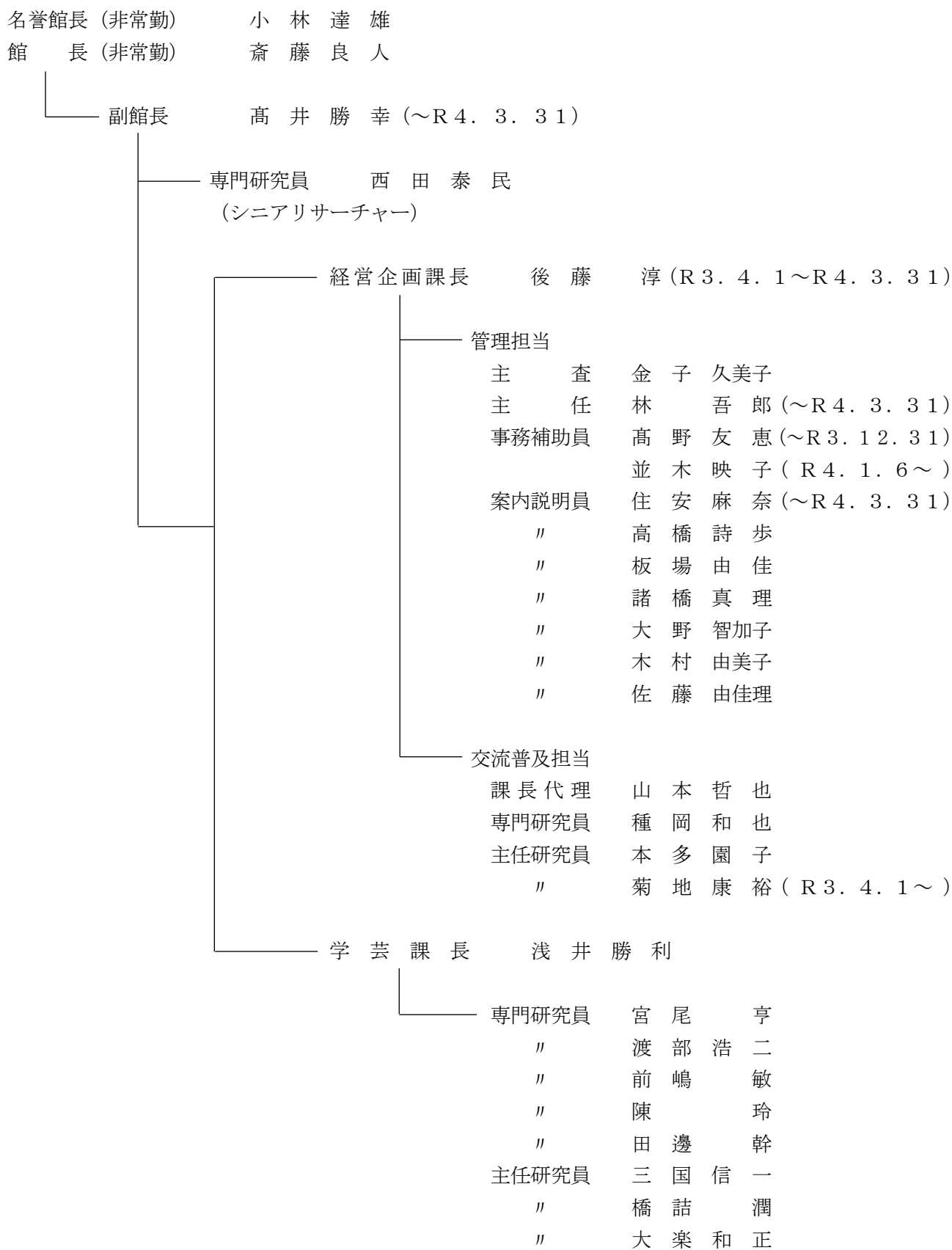
- ・ 博物館資料のデータベース化の推進
- ・ 施設・設備の大規模改修等による展示環境・資料収蔵環境の改善
- ・ アクセス改善やレストラン・ショップの継続的営業による来館者サービス向上
- ・ 博物館の人事・組織体制の充実
- ・ 外部団体や支援者との協働推進

新潟県立歴史博物館運営方針（平成29年度～平成33年度） 取組分野ごとの活動方針とその進捗管理

機能	取組分野	活動方針	主な実現方策	評価指標		
				項目	現状値 (H28)	目標値 (H33)
収集・保管	収集・保管	<ul style="list-style-type: none"> 本県の歴史を明らかにするために欠かすことのできない資料の収集・整理に努めることにも、そのデータ化を推進し進める。 良好な資料保存環境を維持する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料の収集の継続と収蔵資料の整理を推進する。 IPMによる環境管理を徹底する。 	1日録	1日録	
	常設展示	<ul style="list-style-type: none"> 設備・機器・資料の適切な管理に努め、良好な見学環境を維持する。 常設展示の十分な活用を兼し進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の適切な維持管理と定期的な資料更新を継続する。 より柔軟な展示と活用方法の工夫に努める。 	2件	2件以上	
展示	企画展示	<ul style="list-style-type: none"> 調査研究の反映や収蔵資料の活用によって魅力あふれる企画展を実施する。 集客を意識し、市民の関心を反映した企画展示に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 年4回程度の企画展の実施を目標とする。 入場者の満足度を高める。 	588人	500人	
	調査・研究	<ul style="list-style-type: none"> 本県の歴史系博物館の拠点として、質の向上を目指す。 歴史動向の最新である調査研究の成果の市民への還元を努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合・個別研究費などを有効に活用した研究活動を推進し、その成果を市民に還元する。 講座参加者の満足度を高める。 	7回	7回以上	
教育・普及	調査・研究	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育に一層活用される博物館を目指す。 新潟県民としての自覚と誇りを持つ教育に貢献する。 館内及び館外活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部研究費取付件数 学会発表等件数 論文等執筆件数 	4件(+3)	6件	
	学校教育	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育に活用される博物館を目指す。 新潟県民としての自覚と誇りを持つ教育に貢献する。 館内及び館外活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 県内小学校利用率 体験活動の新プログラム導入件数 体験コーナー参加者満足度 	31%	35%	
連携	社会教育	<ul style="list-style-type: none"> 市民の知識・教養を高め、市民が豊かな社会生活を営むための機会や情報を提供する。 館内及び館外での活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育機関への施設利用の増加。 体験学習・体験活動の新たなプログラムの開発・導入に努める。 	5件	1件以上	
	学術面の連携	<ul style="list-style-type: none"> 県内各地の歴史・文化的価値の再発見と活用を支援する。 幅広い団体とのネットワークを強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 市前講堂の参加者満足度 館員の講座・講演会の参加者満足度 ボランティアの活動延人数 	92%	90%	
情報発信	情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 歴史を通じて県内各地の形迹びくりに貢献する。 広層の施設や様々な団体との連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 市前講堂の参加者満足度 館員の講座・講演会の参加者満足度 ボランティアの活動延人数 	94%	90%	
	管理運営	<ul style="list-style-type: none"> 運営方針を館職員で共有し、方針を意識しながら博物館活動を進める。 目標の実現に向けた効率的な運営を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域史研究ネットワーク事業数 展示協力等他機関との連携事業 地域団体の活動への参加件数 	538人	500人	
			<ul style="list-style-type: none"> 新聞・雑誌・テレビ等に報道掲載された件数 館ホームページへのアクセス件数 全体収支比率 (評価指標の達成率) 	2件	2件以上	
			<ul style="list-style-type: none"> 新聞・雑誌・テレビ等に報道掲載された件数 館ホームページへのアクセス件数 全体収支比率 (評価指標の達成率) 	213/134/170件	200/100/150件	
			<ul style="list-style-type: none"> 新聞・雑誌・テレビ等に報道掲載された件数 館ホームページへのアクセス件数 全体収支比率 (評価指標の達成率) 	126/764件	100/000件	
			<ul style="list-style-type: none"> 新聞・雑誌・テレビ等に報道掲載された件数 館ホームページへのアクセス件数 全体収支比率 (評価指標の達成率) 	5%	(5%)	
			<ul style="list-style-type: none"> 新聞・雑誌・テレビ等に報道掲載された件数 館ホームページへのアクセス件数 全体収支比率 (評価指標の達成率) 	67%	(100%)	

注1) 評価指標の目標値は、館活動に投入されている現在のリソース(予算・人員等)が、計画期間において維持されることを前提とする。
 注2) 活動の評価にあたっては、その内容を合わせて、博物館の使命に照らして多面的に分析を行う。

4 組織図



5 事務分掌（令和3年4月1日現在）

名誉館長 小林 達 雄
 館 長 齋 藤 良 人
 副 館 長 高 井 勝 幸
 専門研究員（シニアリサーチャー）
 （にぎわい創出担当） 西 田 泰 民

経営企画課

	事務分掌	主任	副任
1	課の総括に関する事	後藤 課長	山本 課長代理 種岡 専門研究員 金子 主査
2	各課との連絡調整に関する事	〃	種岡 専門研究員
3	人事・服務・一般研修に関する事	〃	林 主任
4	公印の管理に関する事	〃	〃
5	課内会議に関する事	〃	種岡 専門研究員
6	文書主任の業務に関する事	〃	林 主任
7	館の防災・安全、避難訓練に関する事	〃	金子 主査
8	館運営に対する苦情処理に関する事	〃	林 主任
9	臨時職員の採用に関する事	〃	〃
10	観光関連産業等との連携・広報宣伝・誘客促進等に関する事	〃	山本 課長代理 種岡 専門研究員

経営企画課 管理担当

	事務分掌	主任	副任
11	職員の勤務割作成に関する事	金子 主査	後藤 課長
12	予算編成に関する事	〃	林 主任
13	予算執行管理（施設・設備の維持管理を除く）に関する事	〃	〃
14	給与・報酬・報償費・旅費に関する事	〃	〃
15	事務用消耗品（切手管理を含む）の調達に関する事	〃	〃
16	科学研究費等外部資金の経理に関する事	〃	〃
17	観覧料等の減免に関する事	林 主任	金子 主査
18	現金の出納・保管に関する事	〃	〃
19	案内説明員の研修に関する事	〃	〃
20	財産管理に関する事	〃	後藤 課長
21	施設・設備の維持管理に関する事	〃	〃
22	収入（観覧料・図録販売収入・土地建物使用料等）に関する事	〃	金子 主査
23	観光券契約・精算徴収に関する事	〃	〃
24	観覧者統計に関する事	〃	〃
25	備品の管理に関する事	〃	〃
26	公用車の運行に関する事	〃	〃
27	路線バス運行に関する事	〃	〃
28	事務用消耗品の在庫管理に関する事	高野 職員	金子 主査
29	文書の收受、発送に関する事	〃	〃
30	拾得物の管理に関する事	〃	〃
31	救護室、授乳室、ロッカー室の日常点検、整理整頓に関する事	〃	林 主任
32	その他の事務補助に関する事	〃	〃
33	観覧券・図録の販売、集計に関する事	住安案内説明員 高橋案内説明員 板場案内説明員 諸橋案内説明員 大野案内説明員	林 主任
34	入館者の受付及び整理に関する事		種岡 専門研究員
35	展示場における展示物等の説明及び監視に関する事		林 主任
36	展示物の操作及び体験活動に関する事		金子 主査
37	案内及び広報に関する事		渡部 専門研究員
38	その他博物館の展示場に関する事		
39	入館者の受付及び整理に関する事	木村案内説明員 佐藤案内説明員	林 主任
40	展示場における展示物等の説明及び監視に関する事		種岡 専門研究員
41	展示物の操作及び体験活動に関する事		金子 主査
42	収蔵資料の分類・整理に関する事		渡部 専門研究員
43	その他の事務補助に関する事		

経営企画課 交流普及担当

	事務分掌	主任	副任
1	広報の総括に関すること	山本課長代理	種岡専門研究員 本多主任研究員
2	誘客促進の総括に関すること	〃	種岡専門研究員
3	博物館の支持・支援団体の育成に関すること	〃	金子主査
4	常設展示の利用・案内説明員研修に関すること	〃	種岡専門研究員
5	博物館協会（日本博物館協会、県博物館協議会、東北美術館会議等）等との連絡・調整に関すること	〃	菊池主任研究員
6	年報発行の計画・調整に関すること	〃	種岡専門研究員
7	他館、社会教育関係機関、団体等との連携・企画及び調整に関すること	〃	本多主任研究員
8	企画展における開場式に関すること	種岡専門研究員	山本課長代理
9	学校教育との連携・企画及び出前授業の計画・調整に関すること	〃	本多主任研究員 菊地主任研究員
10	ボランティアの受入れ及び育成に関すること	〃	菊地主任研究員 橋詰主任研究員
11	館内ガイド発行の計画・調整に関すること	〃	山本課長代理
12	刊行物の管理に関すること	菊地主任研究員	本多主任研究員
13	発送業務（企画展後援依頼を含む。）に関すること	〃	本多主任研究員
14	館内又は館外講座・教室等の企画及び調整に関すること	〃	種岡専門研究員
15	サイノカミ等地区活動に関すること	〃	山本課長代理
16	体験プログラムの運営に関すること	〃	本多主任研究員
17	Web情報発信（館ホームページ、SNS、メールニュース等）に関する こと	本多主任研究員 菊地主任研究員	山本課長代理 林主任 大楽主任研究員
18	企画展関連広報（マスコミ対応）に関すること	本多主任研究員	後藤課長 菊地主任研究員
19	広報結果の集約に関すること	〃	種岡専門研究員
20	その他の情報発信（高校等）に関すること	〃	金子主査 後藤課長 菊地主任研究員
21	教育プログラムの企画・開発に関すること	〃	種岡専門研究員 菊地主任研究員 宮尾専門研究員

学芸課

	事務分掌	主任	副任
1	課の総括に関すること	浅井課長	宮尾専門研究員
2	課の予算編成及び執行管理に関すること	〃	〃
3	館内の各課との連絡調整に関すること	〃	〃
4	課員の勤務割作成に関すること	〃	〃
5	リニューアルに関すること	西田専門研究員	前嶋専門研究員 山本課長代理 後藤課長 林主任
6	外部評価委員会に関すること	西田専門研究員	山本課長代理 種岡専門研究員 金子主査
7	資料収集（購入・寄託・寄贈）に関すること	三国主任研究員	田邊主任研究員
8	資料の整理及び保管に関すること	〃	〃
9	資料の貸借に関すること	〃	〃
10	資料保存環境に関すること	橋詰主任研究員	三国主任研究員
11	資料管理システムの管理・運用に関すること	宮尾専門研究員	〃 浅井課長
12	写真・フィルム資料の整理及び保管に関すること	宮尾専門研究員	陳専門研究員
13	加入学会・共同図書購入に関すること	〃	〃
14	図書の整理及び保管に関すること	陳専門研究員	宮尾専門研究員
15	常設展示室に関すること	渡部専門研究員	大楽主任研究員
16	常設展示ロビー・講堂研修室・映像情報コーナー・図書閲覧コーナーに 関すること	〃	〃

17	常設展示室の展示替え計画に関すること	大楽主任研究員	渡部専門研究員
18	常設展示室の活用に関すること	〃	〃
19	個別研究・総合研究の調整に関すること	宮尾専門研究員	渡部専門研究員
20	研究活動評価に関すること	〃	〃
21	研究紀要の編集・刊行に関すること	橋詰主任研究員	〃
22	科研費等外部資金による研究事業に関すること	前嶋専門研究員	〃
23	新潟県地域史ネットワークに関すること	前嶋専門研究員	三国主任研究員
24	博物館実習の企画及び調整に関すること	〃	〃
25	企画展・巡回展の開催計画に関すること	田邊専門研究員	橋詰主任研究員
26	企画展示室の運用と管理に関すること	〃	〃

企画展担当

	事務分掌	主任	副任
27	【令和3年度】 (春) 博覧会の世紀 1851-1970	田邊専門研究員	山本課長代理 橋詰主任研究員
28	(夏) 日蓮聖人と法華文化	前嶋専門研究員	渡部専門研究員 種岡専門研究員
29	(秋) 四季の暮らし、小さなまつり	三国主任研究員	大楽主任研究員 田邊専門研究員 本多主任研究員
30	(冬) やきもの産地 新潟	宮尾専門研究員	西田専門研究員 菊地主任研究員
31	【令和4年度】(仮) (春) 巡回展	大楽主任研究員	山本課長代理 陳専門研究員
32	(夏) 村尻遺跡	宮尾専門研究員	橋詰主任研究員 種岡専門研究員
33	(秋) 生業絵巻尽	渡部専門研究員	前嶋専門研究員 本多主任研究員
34	(冬) 大河津分水通水100年	田邊専門研究員	三国主任研究員 菊地主任研究員

6 予算（令和3年度当初）

1 収入の部

（単位：千円）

項 目	金 額	備 考
事業収入	15,375	
歴史博物館維持管理費	289	
建物使用料	41	自動販売機建物使用料
雑入	248	自動販売機光熱水費
歴史博物館事業活動費	15,086	
歴史博物館使用料	14,902	観覧料
物品売払収入	184	図録等売払収入

2 支出の部

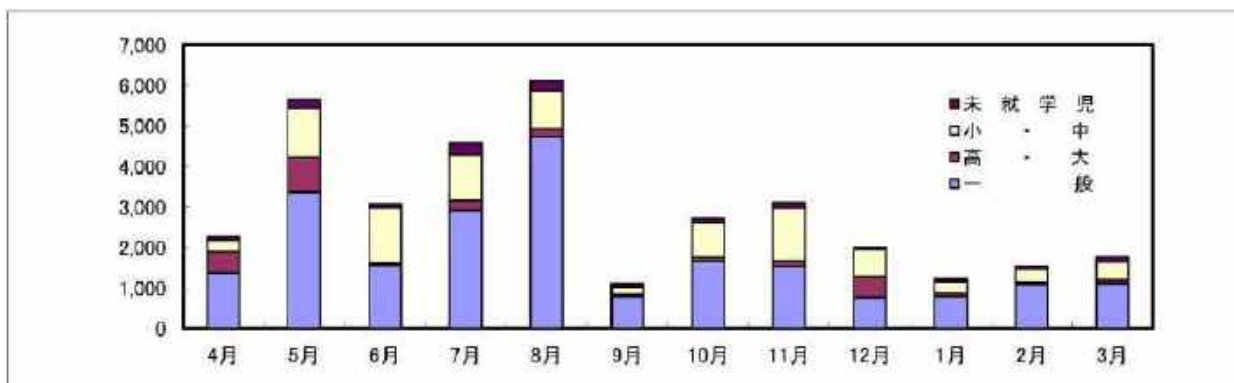
（単位：千円）

項 目（事業名）	金 額	備 考
歴史博物館事業費	165,942	
歴史博物館運営費	129,678	
人件費	21,326	館長・非常勤職員等給与費等
管理運営費	5,007	消耗品費・館リーフレット等印刷費・通信運搬費等
情報システム管理費	1,173	機器リース・保守料・消耗品費
維持管理費	94,523	施設設備保守管理委託・光熱水費等
資料保存管理費	6,989	資料くん蒸・環境調整
維持補修費	660	施設修繕費
歴史博物館事業活動費	33,138	
資料収集・保存事業	240	資料収集諸経費
調査研究事業	4,742	総合・個別調査研究費・基本文献整備費
常設展示事業	11,968	展示物展示替・保守点検費
企画展等展覧会開催費	16,188	企画展開催費（2回）・開催準備費
インバウンド対策充実事業	0	
歴史博物館交流普及事業費	3,126	
諸講座開催費	99	講師（謝金、旅費）・消耗品等
交流普及事業費	3,027	広告費・研究成果普及費等
歴史博物館施設設備整備費	6,190	企画展示室ウォールケース LED 照明改修工事

7 令和3年度観覧者の状況

(1) 月別・利用者別観覧者

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一 般	1,376	3,369	1,558	2,921	4,742	793	1,663	1,539	770	792	1,087	1,116	21,726
高 ・ 大	523	862	47	238	194	65	95	136	513	84	50	95	2,902
小 ・ 中	285	1,215	1,383	1,138	930	176	860	1,310	672	281	326	435	9,011
未 就 学 児	105	197	86	296	249	75	103	126	58	71	89	118	1,573
合 計	2,289	5,643	3,074	4,593	6,115	1,109	2,721	3,111	2,013	1,228	1,552	1,764	35,212



(2) 年間利用者別観覧者割合



(3) 企画展の状況

■ 春季企画展

「博覧会の世紀 1851-1970」 4月24日(土)～6月6日(日) 観覧者数 3,689人 (95人/日)

■ 夏季企画展

「日蓮聖人と法華文化」 7月17日(土)～8月29日(日) 観覧者数 4,483人 (115人/日)

■ 秋季テーマ展示

「四季の暮らし、小さなまつり—新潟県の年中行事—」

9月18日(土)～11月7日(日)

期間中総観覧者数 4,526人 (103人/日)

■ 冬季テーマ展示

「やきもの産地・新潟」

1月15日(土)～3月6日(日)

期間中総観覧者数 2,938人 (67人/日)

8 ボランティア

平成21年4月から募集、活動を開始した。令和3年度の登録数は24人。新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、9月の活動を中止とした。

【活動実績】(延べ人数)

- ・研修等 (56人)
- ・常設展展示替え、ケース移動 (11人)
- ・民俗資料整理 (64人)
- ・図書資料整理 (48人)
- ・考古資料整理 (24人)
- ・講座受付 (16人)
- ・体験活動補助 (18人)
- ・文書発送作業 (36人)

また、毎年夏に実施している中学生ボランティアは、応募がなかったため実施しなかった。

9 情報管理システム

クラウドによる資料管理システムを導入し、収蔵資料の管理を行っている。同システムでは、インターネット上に情報を公開する機能が備えられているため、これを利用して収蔵資料検索サービスをホームページ上に設置した。

10 ホームページ

館の公式Webサイトについては、従来は館内にWebサーバを設置して公開していたが、外部にレンタルサーバを借り、ドメインについては、既に各所で周知されていることなどを考慮しこれまでと同じものを引き続き使用することとした。平成25年度にホームページをリニューアルしている。

令和3年度のアクセス数の多いコンテンツは、1企画展示、2館内のご案内、3ご利用案内、4常設展示、5歴史博物館とは、などとなっている。訪問数は昨年度比7%ほど増加しており、テレビ番組による紹介などが効果的に働いていたものと思われる。

令和3年度ホームページのアクセス集計

令和3年度	訪問数	ユーザー数	閲覧者 1日平均
2021年4月	9,283	7,283	243
2021年5月	11,069	8,397	271
2021年6月	10,566	8,512	284
2021年7月	15,398	12,165	392
2021年8月	14,724	11,085	358
2021年9月	10,749	8,212	274
2021年10月	9,810	7,744	250
2021年11月	12,157	9,759	325
2021年12月	8,144	6,486	209
2022年1月	9,811	7,503	242
2022年2月	8,475	6,620	228
2022年3月	9,188	7,186	232
計	129,374	100,952	275.6

11 メールニュース・SNS

平成12年度より、インターネットのメールシステムを利用して希望者に館の情報などを提供するメールニュースを送付している。現在、メールニュースの登録アドレス数は155件であり、令和3年度中に送信したメール数は22件(+11)件であった。(※()は前年度比、以下同じ)

また平成26年度から公式Facebook、平成27年度から公式Twitterを開設。さらに、平成29年11月の試験運用を経て、平成30年3月からInstagramの本運用を開始した。令和3年度の投稿件数は、Facebookが357(-62)件、Twitterが404(-529)件、Instagramが356(-31)件である。広報担当(専任)が削減され、研究員の兼任により運営せざるを得なくなったことから投稿数は大幅に減少してしまった。その状況の中でも1日平均1回は投稿し、定期的な情報配信に努めている。その成果はフォロワー数の確実な増加に顕れていると思われる(前年度比Facebook3.8%増、Twitter9.8%増、Instagram5.8%増)。

12 評価委員会

令和3年度内においては、令和2年度の評価報告書作成の作業と提出、令和3年度の中途段階までの評価が実施された。

令和2年度の委員会構成は以下のとおり。

- ・委員長 田中咲子氏(新潟大学教育学部 准教授)
- ・副委員長 佐藤克己氏(柏崎市立二田小学校 教諭)
- ・委員 内藤一恵氏(内藤一恵建築設計事務所)
- ・委員 大塚清一郎氏(新潟日報 長岡支社長)
- ・委員 金山宏行氏((一社)長岡観光コンベンション協会 会長)
- ・委員 湯浅健次郎氏(新潟市會津八一記念館 学芸員)

令和3年度は、委員1名が交替し、以下の体制となった。(令和3年9月から)

- ・委員長 田中咲子氏(新潟大学教育学部 准教授)
- ・副委員長 山本未知雄氏(十日町市立松代小学校 校長)
- ・委員 内藤一恵氏(内藤一恵建築設計事務所)
- ・委員 大塚清一郎氏(新潟日報 執行役員長岡支社長)
- ・委員 金山宏行氏((一社)長岡観光コンベンション協会 会長)
- ・委員 湯浅健次郎氏(新潟市會津八一記念館 学芸員)

開催した評価委員会、検討会は以下のとおりである。

- 5月17日(月) 令和2年度第2回評価委員会
内容: 令和2年度評価について
- 7月16日(金) 令和2年度第2回検討会
内容: 令和2年度評価報告書について
- 10月18日(月) 令和3年度第1回評価委員会
内容: 令和3年度評価委員会スケジュールについて、
令和3年度事業中間報告について
- 3月7日(金) 令和3年度第1回検討会
内容: 令和3年度自己評価(中間)について

なお、8月17日(火)、県庁において、田中咲子委員長より県民生活・環境部長、文化振興課長および歴史博物館長に「令和2年度における館の自己点検に対する二次点検評価報告書」が提出された。

13 新型コロナウイルス感染拡大防止への対応

新型コロナウイルス感染症は、終息の見込みのないまま令和3年度を迎えたが、引き続き感染症対策を行いつつ、活動を行った。令和3年度の主たる経緯は以下のとおりである。

- ① 政府による緊急事態宣言、まん延防止等重点措置とは別に、新潟県独自に注意報、警報、特別警報を随時発出していたが、8月30日（月）に、それまで新潟市・長岡市・小千谷市を対象としていた特別警報を全県に拡大。それを受けて、9月3日（金）から9月16日（木）まで臨時休館とすることに決定（他の県立施設も一部を除きほぼ同様の対応）。8月31日にHP等で周知を図った。
- ② 県の感染症対策本部会議にて、9月17日（金）からの県立施設再開を決定。同15日にHP等で再開の周知を図った。
- ③ 企画展示室の人数制限は、企画展示室内の入室者数または企画展示室もぎりで入退出者数を確認しつつ、企画展示室内の観覧者数が100人を超えそうな場合に入室制限を行い、室内の人数をコントロールする方法で対応することとしたが、適用はなかった（年度当初は80人の設定としたが、室内状況として余裕が認められると判断し、夏季企画展の途中から制限人数を100人に引き上げた）。

【中止となった事業及び縮小開催等のあり方】※昨年度の再掲あり

- ・学校団体の受け入れは、基本として1クラス20人以上を超える場合、2グループに分けるなどの措置を講じ、案内時に極力密となることを避ける方策を採った。ただし「雪とくらし」コーナーは15人以上を超える場合とした。（令和2年度からの継続）
- ・学校団体等で行う体験プログラムのうち、火おこし体験は密にならざるを得ない活動のため中止とした。まが玉づくり体験は1回の体験で40人までに制限。ソーシャル・ディスタンスの維持、道具の消毒などを行ったうえで実施した。（令和2年度からの継続）
- ・9月3日（金）から同16日（木）の臨時休館期間中の体験プログラム、常設展示ワンポイント解説を中止とし、期間中の講座は延期して開催することとした。
- ・図書コーナー、ハンズオン系展示の使用の中止を継続。
- ・研修室にて開催の座学の講座（従来50人定員）は、18ある机1台に対し1人使用とし、定員18名での募集とした。ただし、申し込みが19名以上の場合は講堂に会場を変更して実施した（講堂は本来講堂映像上映があるため講座の開催は原則研修室としており、会場を講堂に変更するのは申し込み多数の場合の特例としている）。
- ・新潟県が、まん延防止等重点措置地域に指定された期間中（1月21日～3月6日）の体験講座は中止とした。
- ・常設展示ワンポイント解説の際、参加者から氏名（代表者）・住所・電話番号情報を徴して（個票への記載）実施した。（令和2年度からの継続）
- ・体験プログラムは、原則日曜日の13:30～15:30（15:00受付終了）に研修室にて行うこととし、室内の参加者人数が20人を超えないように調整しながら実施した。また、参加者から氏名（代表者）・住所・電話番号情報を徴して（個票への記載）実施した。（令和2年度からの継続）
- ・令和2年度は中止とした夏休み特別体験を「刺し子に挑戦」、「まが玉作り」に限定して実施した。
- ・体験プログラム「謙信・兼続に変身」「平安貴族に変身しよう」を、3月後半から令和4年度4月前半にかけての土曜日に、各1グループの申込制で限定開催した（1回につき家族等居住を同じくするなどのグループでの着回しを可とし、その後1週間置くことでウイルス不活性化の上、実施することとした）。
- ・学校団体の講堂映像利用は、人数制限を加えつつ可とした（1回に50%、75席を原則）。（令和2年度からの継続）
- ・学校団体等の昼食時の研修室・フリースペースの利用は、一度の利用人数を調整（20人～30人程度）

しつつ可とした。(令和2年度からの継続)

- ・国際博物館の日記念の無料観覧日は、密を避けるため広報を行わなかった。また、サイノカミもHP以外の広報を控えた。

【その他】(令和2年度からの継続)

- ・エントランスに検温器(手指消毒機能付き)を設置した。
- ・HPにて当館の感染症対策について公表、周知を図った。

II 事業概要

1 学芸事業概要

(1) 常設展示

ア 事業主旨

新潟県の歴史及び民俗並びに縄文文化に関する県民の教養を高め、県民の文化的・学術的活動を支援するため、これらについての展示を行う施設を公開して維持・管理すると共に、新たな知識の増進と資料の保護を目的として、展示更新・展示替えを随時行う。常設展示を維持・管理すると共に、資料の保護を主目的として、資料展示替えを行う。

イ 展示構成

常設展示は、歴史展示と縄文展示から構成されている。前者には「新潟県のあゆみ」「雪と暮らし」「米づくり」、後者には「縄文人の世界」「縄文文化を探る」の各展示室がある。

① 新潟県のあゆみ

古い時代から新しい時代へと時間に沿って、より良い未来をめざして努力した、新潟県の先人たちの姿を紹介する。以下の8つの項目で展示を展開している。

新潟のあけぼの	移動生活から定住へ
	米作りのはじまりと権力者の登場
古代の新潟	文字によるまつりごと
古代・中世の文化ステージ	(原則半年1回展示替)
中世の新潟	中世の新潟
	地頭と荘園
	戦国大名上杉謙信
近世の新潟	近世の越後と佐渡
近世・近現代の産物	交流する産物
	越後・佐渡産物くらべ
	現代に生きる越後・佐渡の産物
近世・近現代の人物	良寛と牧之
	新潟県が生んだ人々
近現代の新潟	近代の新潟
	新潟県的女性
	交通網の整備と大河津分水工事
	花開く文化
	戦争と県民
	地主王国新潟県
	新潟、今・未来

② 雪と暮らし

「自然との共生と克服」を視점에、雪による多大な影響を受けつつも、除雪方法・衣食住に独特の工夫をし、よりよい暮らしを確保しようと努力を続けた先人たちの姿を紹介する。1階部では、昭和30年代初頭の冬の高田（現上越市）の雁木通りと、荒物・雑貨屋と一文店、下駄屋の3軒の商店を復元している。2階部では、雪国の工夫を凝らした民具などを中心に、暮らしの様子を紹介している。

プロローグ	雪国へのいざない
雪国の町 高田の雁木通り	荒物・雑貨屋
	一文店
	下駄屋
雪国のくらし	町のくらし
	雪と民具
	雪国 点描
豪雪の姿	豪雪の町・村
	36・38 豪雪記録
雪国は今	冬の交通革新
	雪は邪魔？
エピローグ	昔の雪国と現代の雪国

③ 米づくり

「雪とくらし」展示室と同様に、「自然との共生と克服」を視点に、本来米作りに適さなかった自然条件を克服し、また1年を通して自然との共生を図りながら全国有数の米どころを実現させた人々の努力の様子を紹介している。

プロローグ	越後平野とはさ木
土づくりの努力	西蒲原三潟水抜き
	江戸時代の新田開発
	美田の誕生
協力と工夫の米づくり	米づくりの1年と祈り
	描かれた米づくり
	品種の改良
	米づくりとその周辺
	米づくりの道具
エピローグ	世界の食事風景

④ 縄文展示

世界的にも稀な、豊かな食料採集経済を営んでいた縄文人の暮らしについて、全国的・世界的な視野から紹介する。2つの展示室から構成される。「縄文人の世界」では、縄文人が四季の移り変わりに対応して、さまざまな技術を開発しながら暮らしていた様子を、実物大で復元、再現している。「縄文文化を探る」では、最新の考古学研究成果に基づき、実物資料などを用いながら縄文人の実像、その暮らしを紹介する。

プロローグ	縄文土器の文様世界
縄文人の世界	聖なる空間：竪穴住居
	冬の狩り
	春の採集
	夏の海
	秋の広場
縄文文化を探る	研究室へようこそ
	人とももの交流
	縄文工芸
	縄文人の住宅事情
	縄文人の食生活

	縄文の祈り
	火焰土器の世界
	縄文時代の人々
	縄文人の一生
	新潟県の遺跡
エピソード	自然との共生

ウ 音声解説器・ろう者用ガイド冊子

常設展示の観覧に供する音声解説器を用意し、無料で貸し出している。開館当初の総数 300 台。日本語・英語・ロシア語・中国語・韓国語の 5 カ国語があり、日本語は全台数で対応、英語・ロシア語は 180 台（A タイプ）、中国語・韓国語は 120 台（B タイプ）が対応。

令和 3 年度の音声解説器貸出件数は、1579 件（個人利用 851 件、団体利用 728 件）、観覧者数 35,212 人中約 4.5%の利用率であった。

また、音声解説器の利用が困難な、ろう者を主な対象とする冊子『《音声解説器・映像の音声などを文字で読む》新潟県立歴史博物館常設展示 展示解説』を平成 25 年度末に作成（150 冊）。無料で貸し出している。令和 3 年度の貸出は 2 件だった。

エ 常設展解説アプリ「新潟レキハク」

来館者個人のスマートフォン（Android、iOS）で常設展示解説が可能になるアプリ、「新潟レキハク」を整備し令和 2 年 4 月から運用を開始した。

貸し出しを行っている音声解説器と内容は同じで、来館者の位置に応じて、音声に加え、テキストと写真が画面に表示される。

また、従来の日本語、中国語、韓国語、英語、ロシア語に加えて、スペイン語の解説を追加した。

オ 常設展示の保守点検・補修

新潟県の歴史及び民俗並びに縄文文化に関する県民の教養を高め、県民の文化的・学術的活動を支援するに足る正確性や美観等を維持し、来館者の安全を確保するため、常設展示室（常設展示ロビー、講堂、映像情報コーナーを含む）の保守点検・軽微補修、音声解説器や照明機器の補修・補充等を行っている。

常設展示室は、来館者が展示物と至近で接触できるように設計され、展示内容を体感できることを特色としている。そのため、露出展示や通路を兼ねた実物大環境復元展示などが多数あり、消耗と破損が不可避となっている。

令和 3 年度は、7 月、2 月に総合的な点検を行い、露出展示や通路を兼ねた実物大環境復元展示などの清掃及び軽微補修を実施し、展示効果の維持と安全の確保を達成した。照明器具については、月 2 回、定期的に点検し、機器の故障や消耗に対応した。

また、縄文展示「縄文人の世界」入口のレリーフ部分の一部剥離が平成 29 年度に確認されたため、打音検査を引き続き行うとともに、接着補修を行った。

なお、音声解説器の交換部品が入手困難となり、今後故障機器の修繕は不可能になった。現在使用可能台数は A タイプ 148 台、B タイプ 101 台である。今後も使用台数が減少する可能性がある。

カ 資料展示替え

博物館の基本的機能である資料保存の観点から、年 2 回（上半期：4～9 月・下半期：10～3 月）の定期的な資料展示替えを行っている。特に展示環境の影響で劣化の進む可能性のある文書や絵画などの資料を中心に、常設展示の構成を変更しない範囲で資料展示替えを行っている。なお、文書や絵画などの資料展示では、照度環境 150lx 以下に設定し、適正な温湿度にケース内が保たれるように調整している。

令和 3 年度は、以下のコーナーで展示替えを行った。

① 新潟県のあゆみ

a 「古代の新潟」

「文字によるまつりごと」を、上半期は佐渡国正税帳（複製）などで、下半期は蔵ノ坪遺跡出土の木簡や墨書土器（いずれも複製）などで構成した。

b 「古代・中世の文化・交流」

「柿崎古墓」（剥取／上越市教育委員会寄託）の他に、上半期には木崎山遺跡の地鎮具（複製）などを、下半期には一遍上人絵詞伝（複製）、日蓮書状（複製）を展示した。

c 「中世の新潟」

「戦国大名上杉謙信」を、紀州本川中島合戦図屏風（複製）と上杉謙信画像（複製）などで構成した。また、甲越春秋、川中島合戦評判、甲越勇士鑑（いずれも実物）といった川中島合戦を題材にした江戸時代の出版資料を上半期・下半期とも入れ替えた。また、下半期の一部期間において「奥羽仕置と色部長真」（奥羽再仕置 430 年記念プロジェクト）として新規テーマ展示を構成した。

d 「近世・近現代の人物・産物」

産物の展示では、佐渡金銀山絵巻（実物）の場面変更や村上木彫堆朱（実物）の入れ替えを行った。また、人物の展示では「良寛・牧之」に関して、解説グラフィックを含む展示資料を上半期と下半期に変更した。「海外を見る眼」では、上半期・下半期で北夷談（複製）や新訂坤輿略全図（実物）などの資料を入れ替えた。

e 「近現代の新潟」

北越辰辰戦争関連資料（複製）、銀行券（複製）、小作争議と農民運動関連資料（複製）、満州関連資料（実物）などを上半期・下半期とも入れ替えた。

② 雪とくらし

「雪国のくらし」では、スキーなど雪遊びの道具（実物）などで構成した。

③ 米づくり

「描かれた米づくり」では、上半期 4～6 月に四季耕作図屏風（実物）と農耕欄間絵（複製）を展示し、7～9 月には「阿賀町の仕事着」（阿賀町郷土資料館所蔵）として新規テーマ展示を構成した。下半期には四季耕作図屏風（複製）と四季耕作図絵馬（複製）などを展示した。「米づくりとその周辺」では、下半期に「山口賢俊撮影写真に見る湿田での稲刈りと稲運び」として新規テーマ展示を構成した。

④ 縄文文化を探る

「新潟県の遺跡」では、平成 26 年度下半期以降、国指定重要文化財村尻遺跡出土品を紹介している。令和 3 年度は村尻遺跡出土の壺形土器、甕形土器など 4 点を展示した。

⑤ 常設展示替における資料の交換点数

令和 3 年度年間交換資料点数	89 点
うち、新規展示資料点数	14 点

キ 常設展示ロビー

常設展示室の中央に位置し、ここを基点にして「新潟県のあゆみ」「雪とくらし」「米づくり」「縄文人の世界」の 4 つの展示室に入ることができる。なお、平成 17 年度より青田遺跡出土の丸木舟（実物）を展示している。

また、上部には大型の特殊照明（ロビー映像）があり、4 面の大スクリーンで縄文時代をイメージした映像ソフト等を上映していたが、令和 2 年度以降、機器の故障のため上映中止となった。

ク 映像情報コーナー

映像ライブラリー、デジタル博物館、情報検索サービスから構成される。ただし、令和 3 年度においては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、使用を中止した（令和 4 年度継続中）。

① 映像ライブラリー

2台あったDVDが、平成28年度より機器の故障により1台となっていたが、令和元年度に新機器にした。以下の映像情報を選んで見ることができる。

- a ふるさとの芸能
- b ふるさとの行事
- c ふるさとの昔話
- d 伝統の技
- e 縄文文化
- f 中越・中越沖地震
- g 展覧会

② デジタル博物館

5台のパソコンで縄文・雪・米に関わるソフトを見ることができる。

- a 発見！縄文ワールド
- b 雪国くらし体験
- c なんでも米蔵

③ 情報検索サービス

平成28年度より、新規の館収蔵資料検索用パソコン1台を導入し、操作性が向上した。これにともない従来の「新潟県の文化財」、「県内外の遺跡」の検索は廃止した。

ケ 講堂映像

以下の3本の映像を講堂で上映している。令和3年度においては通年利用可としたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、換気時間確保のため利用があった後1時間の利用中止時間を設けて運用した。

① 「新潟県の歴史」

原始から現代にいたる新潟県のあゆみを、CGを交えた映像で紹介。 (上映時間約25分)

② 「ジオラマ縄文人の世界ができるまで」

新潟県立歴史博物館の縄文時代に関わる展示製作がどのように進められたのかをドキュメンタリー風に紹介。 (上映時間約22分)

③ 「奥三面 縄文の暮らし」

新潟県立歴史博物館縄文展示の製作に多くの指針を与えてくれた奥三面遺跡群。遺跡の様子とともに、奥三面に生きる人々の姿、豊かな自然を紹介。 (上映時間約23分)

上記3本の映像は定期上映を行っていたが、平成20年度より申し込み制に変更し、令和3年度は①「新潟県の歴史」56人、②「ジオラマ縄文人の世界ができるまで」25人、③「奥三面 縄文の暮らし」34人、延べ115人の観覧があった。

コ 常設展ワンポイント解説

常設展示室という「場」を活用し、その展示資料をきっかけに、研究員の調査研究活動による専門的知識・最新の情報をわかりやすく公開しながら、来館者との交流や新たな発見を引き出すとともに、来館者のニーズを把握して今後の展示運営に生かすために実施している(毎週土・日曜日の午後1時から)。平成28年度からは、中学生ボランティア活動及びサイノカミ活動重視の博物館としての姿勢を示すため、それぞれの活動日の解説は休止することとした。

令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から実施時間を15分以内に制限し、参加者の連絡先の提出を原則として継続中である。ただし、5月16日の無料観覧日は密を避けるため休止とした。令和3年度は中学生ボランティアの応募がなかったため従来の解説は行わなかったが、当初予定の日

に新たに「常設展見どころガイド」として実施した（次項参照）。また、9月前半は臨時休館により実施がなく、2月27日は担当者都合により中止となった。

以上のもと、令和3年度は89回実施した。参加者数は590人（平均6.63人）。

【ゲスト解説】

平成27年度より、常設展示ワンポイント解説において、他館からの学芸員など専門家によるゲスト解説を導入した。これは、利用者の興味をさらに惹く方策としての性格を与えとともに、他館の学芸員などによる解説で、より多くの専門的知識が公開され利用者の便に資するものである。ただし令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から実施しなかった。

サ 常設展示見どころガイド

令和3年度の中学生ボランティアは応募がなかったため、予定した6日間の常設展示室での解説活動に空白が生じることとなった。そこで、新たに「常設展示見どころガイド」を実施することとした。「雪とくらし」と「縄文人の世界」の環境復元展示の解説とし、15時から30分程度で実施した。当日受付で、10名定員とした。

6回実施し、参加者は25人だった。

期日	場所	担当	参加者数
7月18日(日)	縄文人の世界	橋詰	7
7月24日(土)	雪とくらし	渡部	3
7月25日(日)	縄文人の世界	宮尾	1
7月31日(土)	縄文人の世界	本多	6
8月1日(日)	雪とくらし	大楽	3
8月7日(土)	縄文人の世界	山本	5



実施日	担当	場 所		タイトル	人数
4月3日(土)	西田	縄文人の世界	入口	縄文時代、弥生時代の墓	2
4月4日(日)	浅井	新潟県のあゆみ	古代の新潟	把笏について	2
4月10日(土)	田邊	新潟県のあゆみ	近世の新潟	高田城址公園と桜	6
4月11日(日)	前嶋	新潟県のあゆみ	中世の新潟	『甲越春秋』について	5
4月17日(土)	陳	新潟県のあゆみ	近世・近現代の産物	「越後産物くらべ」の糸・イト・ito	5
4月18日(日)	大楽	米づくり	協力と工夫の米づくり	田植えの道具	5
4月24日(土)	宮尾	縄文文化を探る	出口	石皿をみる	6
4月25日(日)	三国	米づくり	協力と工夫の米づくり	ひな祭り	3
5月1日(土)	西田	縄文文化を探る	出口	縄文時代の縄／かごの材料	5
5月2日(日)	渡部	新潟県のあゆみ	近世・近現代の産物	佐渡金山を描いた扇面	20
5月8日(土)	田邊	新潟県のあゆみ	近代の新潟	江戸時代の大河津分水構想	3
5月9日(日)	山本	縄文文化を探る	出口	糞石	2
5月15日(土)	宮尾	縄文文化を探る	出口	石匙をみる	8
5月16日(日)	休止				
5月22日(土)	陳	新潟県のあゆみ	近世・近現代の産物	「越後産物くらべ」-越後の麻布と産地	6
5月23日(日)	大楽	米づくり	協力と工夫の米づくり	棚田の米づくり	4
5月29日(土)	三国	米づくり	協力と工夫の米づくり	菖蒲叩き	2
5月30日(日)	橋詰	縄文文化を探る	人とももの交流	天然ガラスのあれこれ	15
6月5日(土)	田邊	新潟県のあゆみ	近現代の新潟	上越線の全通	3
6月6日(日)	前嶋	新潟県のあゆみ	中世の新潟	上杉謙信と景虎	5
6月12日(土)	橋詰	縄文人の世界	秋の広場	いきものオリンピック、人間は勝てる？	6
6月13日(日)	渡部	新潟県のあゆみ	近世・近現代の産物	嘉祥(定)の儀式	8
6月19日(土)	浅井	新潟県のあゆみ	古代の新潟	新潟県は何地方か？	1
6月20日(日)	山本	新潟県のあゆみ	近現代の新潟	白山公園と博物館	9
6月26日(土)	大楽	新潟県のあゆみ	近世・近現代の産物	千歯抜き	5
6月27日(日)	宮尾	縄文文化を探る	出口	石鏃をみる	10
7月3日(土)	田邊	新潟県のあゆみ	近世・近現代の人物	私塾・長善館	6
7月4日(日)	三国	米づくり	協力と工夫の米づくり	根知の七夕飾り	5
7月10日(土)	西田	縄文人の世界	入口	貝塚	5
7月11日(日)	大楽	新潟県のあゆみ	近世・近現代の人物	カップとアイス	16
7月17日(土)	陳	米づくり	協力と工夫の米づくり	東蒲原のサシコモッコ	5
7月18日(日)	休止			(常設展見どころガイド)	
7月24日(土)	休止			(常設展見どころガイド)	
7月25日(日)	休止			(常設展見どころガイド)	
7月31日(土)	休止			(常設展見どころガイド)	
8月1日(日)	休止			(常設展見どころガイド)	
8月7日(土)	休止			(常設展見どころガイド)	
8月8日(日)	田邊	新潟県のあゆみ	近世・近現代の人物	私塾・長善館	3
8月14日(土)	西田	縄文人の世界	入口	縄文時代の漁	4
8月15日(日)	橋詰	縄文文化を探る	出口	北海道・北東北の縄文遺跡群	24
8月21日(土)	前嶋	新潟県のあゆみ	中世の新潟	越後を旅した僧侶	3
8月22日(日)	渡部	新潟県のあゆみ	近世・近現代の産物	塩づくりの技術	10
8月28日(土)	陳	米づくり	協力と工夫の米づくり	越後に刺し子はあったの？	2
8月29日(日)	浅井	新潟県のあゆみ	古代の新潟	国分寺と法華経	8
9月4日(土)				(休館)	
9月5日(日)				(休館)	
9月11日(土)				(休館)	
9月12日(日)				(休館)	
9月18日(土)	浅井	新潟県のあゆみ	古代の新潟	佐渡に流された人	6
9月19日(日)	山本	新潟県のあゆみ	近代の新潟	上越線全通記念博覧会と水族館	4
9月25日(土)	三国	企画展示室	入口	県内の七夕人形	5
9月26日(日)	西田	縄文人の世界	入口	縄文人の四季	11

実施日	担当	場 所		タイトル	人数
10月2日(土)	大楽	企画展示室	入口	サイノカミ行事	9
10月3日(日)	渡部	新潟県のあゆみ	近世・近現代の産物	佐渡金銀山	14
10月9日(土)	前嶋	新潟県のあゆみ	中世の新潟	御館の乱	4
10月10日(日)	宮尾	縄文文化を探る	出口	磨製石斧をみる	7
10月16日(土)	山本	新潟県のあゆみ	近世・近現代の人物	点字と新潟	6
10月17日(日)	三国	企画展示室	入口	小正月行事	9
10月23日(土)	陳	米づくり	協力と工夫の米づくり	湿田の稲の収穫	5
10月24日(日)	橋詰	縄文文化を探る	出口	展示品でめぐる北海道・北東北の縄文遺跡群	8
10月30日(土)	三国	企画展示室	入口	年中行事と境界	6
10月31日(日)	田邊	企画展示室	入口	片山翠谷と長岡城下のくらし	5
11月6日(土)	三国	企画展示室	入口	動画記録にみる年中行事	5
11月7日(土)	橋詰	新潟県のあゆみ	入口	旧石器時代の環境	11
11月13日(土)	大楽	米づくり	協力と工夫の米づくり	米山塔	5
11月14日(日)	渡部	米づくり	協力と工夫の米づくり	農耕絵巻	10
11月20日(土)	西田	縄文文化を探る	出口	縄文時代人の骨格	2
11月21日(日)	前嶋	新潟県のあゆみ	中世の新潟	川中島合戦評判	2
11月27日(土)	浅井	新潟県のあゆみ	近世・近現代の人物	東京オリンピックと2人の新潟県人歌手	8
11月28日(土)	宮尾	縄文文化を探る	出口	石棒をみる	18
12月4日(土)	田邊	新潟県のあゆみ	土づくりの努力	三潟水抜工事地主起請文	9
12月5日(日)	西田	縄文人の世界	入口	縄文時代の人々とサケ	9
12月11日(土)	山本	縄文文化を探る	出口	縄文人骨からわかること	2
12月12日(日)	宮尾	縄文文化を探る	出口	打製石斧をみる	5
12月18日(土)	三国	米づくり	協力と工夫の米づくり	正月にまつられる天神	5
12月19日(日)	前嶋	新潟県のあゆみ	中世の新潟	甲越勇士鑑	3
12月25日(土)	陳	新潟県のあゆみ	近世・近現代の産物	小千谷縮	4
12月26日(日)	橋詰	新潟県のあゆみ	入口	ニイガタにゾウがいたころ	9
1月8日(土)	渡部	新潟県のあゆみ	近世の新潟	虎勢道中記	6
1月9日(日)	大楽	米づくり	協力と工夫の米づくり	餅と団子	9
1月15日(土)	前嶋	新潟県のあゆみ	中世の新潟	奥羽仕置	7
1月16日(日)	サイノカミ				
1月22日(土)	浅井	新潟県のあゆみ	古代の新潟	謎の沼垂郡	2
1月23日(日)	田邊	新潟県のあゆみ	近現代の新潟	草莽隊のその後	5
1月29日(土)	陳	新潟県のあゆみ	近世・近現代の産物	西浜麻布	2
1月30日(日)	西田	企画展示室	入口	やきもの産地・新潟	12
2月5日(土)	宮尾	企画展示室	入口	火焰街道 2022	3
2月6日(日)	橋詰	新潟県のあゆみ	入口	日本列島にトラがいたころ	8
2月12日(土)	田邊	新潟県のあゆみ	近世・近現代の産物	お金荷の行列と「助郷」	12
2月13日(日)	前嶋	新潟県のあゆみ	中世の新潟	奥羽仕置	10
2月19日(土)	山本	縄文文化を探る	出口	貝塚とは何か	2
2月20日(日)	渡部	雪とくらし	入口	高田の雁木通り	7
2月26日(土)	西田	企画展示室	入口	やきもの産地・新潟	4
2月27日(土)	中止	(米づくり)	(協力と工夫の米づくり)	(年中行事と子どもの主体性)	
3月5日(土)	陳	米づくり	協力と工夫の米づくり	農耕絵巻	15
3月6日(日)	浅井	新潟県のあゆみ	近世・近現代の産物	月潟の獅子について	4
3月12日(土)	山本	雪とくらし	入口	コスギ	7
3月13日(日)	橋詰	縄文人の世界	入口	縄文人の世界で春さがし	15
3月19日(土)	大楽	米づくり	協力と工夫の米づくり	米のとぎ汁	5
3月20日(日)	田邊	新潟県のあゆみ	近現代の新潟	大河津分水と桜	5
3月26日(土)	前嶋	新潟県のあゆみ	中世の新潟	日蓮の書状	4
3月27日(日)	渡部	新潟県のあゆみ	中世の新潟	一遍上人絵伝	3

(2) 企画展示

ア 事業趣旨

新潟県の歴史及び民俗並びに縄文文化に関する県民の教養を高め、県民の文化的・学術的活動を支援するために、研究員による調査研究活動に基づく成果等をあらゆる企画展を開催している。また、リピーターを含め多数の人々に来館してもらうため、魅力ある展覧会等を積極的、継続的に開催している。

イ 主催事業

主催事業には、当館の企画による自主企画、他機関と共同で企画し主催する共同企画、及び他機関が企画する巡回企画がある。令和3年度は以下のとおり行った。

① 春季企画展 「博覧会の世紀 1851-1970」 巡回企画

会 期：4月24日(土)～6月6日(日) 39日間

主 催：新潟県立歴史博物館、新潟日報社、NST新潟総合テレビ

特別協力：長崎歴史文化博物館、株式会社乃村工藝社

監 修：橋爪紳也

観覧者数：3,689人

内 容：博覧会の歴史は1851年のロンドン万博に遡り、その後、欧米各地で開催されるようになり、日本においても明治以降、多種多様な博覧会が開催されてきた。本展では19世紀から20世紀の博覧会を俯瞰し、時代とともに変わってきた人々の価値観や他者へのまなざしを読み解く基本の巡回企画に、新潟県内で計画・開催された博覧会の様相も紹介する当館オリジナルの展示を加えた。

関連事業：講演会 「昭和25年の新潟県産業博覧会～長岡博の開催と戦災復興」

講師：田中洋史氏、安達良平氏（長岡市立中央図書館文書資料室）

日時：5月30日(日) 13:30～15:00

会場：講堂

参加者数：58人

講 座 国際博物館の日記念講座「博覧会と博物館」

講師：山本哲也（当館経営企画課課長代理）

日時：5月15日(日) 13:30～15:00

会場：講堂

参加者数：32人



② 夏季企画展 「日蓮聖人と法華文化」 合同企画

会 期：7月17日(土)～8月29日(日) 39日間

主 催：「日蓮聖人と法華文化」展実行委員会、新潟県立歴史博物館、山梨県立博物館、新潟日报社、NST新潟総合テレビ

観覧者数：4,483人

内 容：2021年は日蓮の生誕800年、佐渡入国750年という年にあたる。日蓮は、法華經の教えを広める中、幕府や諸宗派を批判したとして佐渡に配流されたが、そこで「開目抄」などの日蓮宗の根幹となる書物を多数執筆。赦免後には、身延山（山梨県身延町）で門弟の教導にあたり、その教えは弟子たちに受け継がれ、現在に伝わっている。本展覧会は、新潟県・山梨県という日蓮と縁の深い二県の博物館が連携して実施したもので、ゆかりの資料から日蓮の生涯を振り返るとともに、現在まで伝えられた法華文化を紹介した。

関連事業：講演会 「法華經の旅人」

講師：中尾 堯氏（立正大学名誉教授）

日時：7月18日(日) 13:30～15:00

会場：講堂

参加者数：77人

講演会 「日蓮伝承と霊場の形成—佐渡・越後・甲斐—」

講師：望月真澄氏（身延山大学教授）

日時：8月22日(日) 13:30～15:00

会場：講堂

参加者数：46人

備考：オンラインの画面上映による開催。



ウ テーマ展示

令和元年度より、「拡大常設展」という位置づけによって企画展示室を活用した展覧会活動を行っている。令和3年度は以下の2件実施。

① 秋季テーマ展示「四季の暮らし、小さなまつり—新潟県の年中行事—」

会 期：9月18日(土)～11月7日(日) 44日間

期間中常設展示総観覧者数：4,526人

内 容：家や村々で伝えられてきた小さなまつりは、季節ごとの祈りや楽しみとして伝承され、人と自然、地域、世代をつなぐ大切な場だった。社会が変化する中、季節のうつろいや人々のつながりを感じる大切な機会として、今その価値は見直されようとしている。本展示では、新潟県の暮らしの中で育まれてきた四季折々の年中行事に関する資料 約 250 点から、人々の季節の感じ方や神仏との関わり方について考えた。

関連事業：トークライブ「糸魚川市百川の小正月行事」

語り手：小林勝彦氏（百川鳥追い賽の神保存会）

聞き手：三国信一（当館主任研究員）

日時：10月10日(日) 13:30～14:30

会場：研修室

参加者数：19人

講 座「七夕と盆」

講師：三国信一（当館主任研究員）

日時：10月2日(土) 13:30～15:00

会場：講堂

参加者数：28人

講 座「日待と月待—石仏が語る信仰—」

講師：大楽和正（当館主任研究員）

日時：10月16日(土) 13:30～15:00

会場：講堂

参加者数：39人



② 冬季テーマ展示「やきもの産地・新潟」

会 期：1月15日(土)～3月6日(日) 44日間

期間中常設展示総観覧者数：2,938人

内 容：縄文土器の登場から、1万年以上も新潟県内では焼き物が作られ続けてきた。江戸時代後期から明治、大正にかけて県内において操業していた焼き物産地は、一時80カ所にもおよぶが、一方でその歴史や実際の製品はあまり知られていない。本展では当館への寄贈資料を中心に、焼き物産地としての新潟を紹介した。

関連事業：講 座 「越後地域近世近代窯跡の調査」

講師：西田泰民（当館専門研究員）

日時：12月11日(土)・2月2日(土) 13:30～15:00

会場：12月11日 研修室、2月2日 講堂

参加者数：12月11日 16人、2月2日 21人

備考：2回は同内容による。



エ 移動展覧会

移動展覧会は、館外にて当館の館蔵資料等を公開すべく開催先等とともに企画するもの。令和3年度は以下の展覧会を行った。

① アカデミック・インターンシップ研修成果展「山景」

会 期：①10月27日(水)～11月5日(金) ②11月5日(金)～11月12日(金)
③12月2日(木)～12月10日(金) ①～③計26日間

主 催：新潟県立歴史博物館

会 場：①新潟県立柏崎高等学校 ②新潟県立十日町高等学校松之山分校
③新潟県立新潟中央高等学校

内 容：新潟県教育委員会の主催事業「高校生アカデミック・インターンシップ研修」として、6人の高校生が参加。長野県出身の画家、原田泰治氏のピエゾグラフ（高精細複製画）をもとに展示内容の企画・製作したその成果を、研修生の通学校でも公開。



各校での展示の様子（左から柏崎高校、十日町高校松之山分校、新潟中央高校）

オ 共催事業

他機関が主催する展覧会に当館が共催するものである。令和3年度は以下のとおり行った。

① 新潟県立歴史博物館友の会展覧会「第18回マイ・コレクション・ワールド」

会 期：11月23日(火・祝)～12月26日(日) 30日間

会 場：新潟県立歴史博物館 企画展示室

主 催：新潟県立歴史博物館友の会

観覧者数：2,086人

内 容：市民コレクターからそのコレクションを出品していただき、広くコレクションという世界をご覧いただく展覧会。歴史などの題材による創作活動の成果も展覧。



② kid's 考古学新聞コンクール全国巡回展

会 期：11月23日(火・祝)～12月26日(日) 30日間

会 場：新潟県立歴史博物館 企画展示室

主 催：kid's 考古学研究所

共 催：NPO 法人むきばんだ応援団

観覧者数：2,086人

内 容：WEBサイト【全国子ども考古学教室】の実施する「kid's考古学新聞コンクール」の入賞作品を展覧。2020年度の第1回入賞作品に加え、2021年度の第2回入賞作品も併せての開催。新潟県内からは、第1回の最優秀賞(斐太歴史ガイドツアー新聞)、第2回の宝物みつけたで賞(かえんどきしんぶん)が展示された。



③ 火焰街道 2022

会 期：1月15日(土)～3月6日(日) 44日間

会 場：新潟県立歴史博物館 企画展示室

主 催：信濃川火焰街道連携協議会

期間中常設展示総観覧者数：2,938人

内 容：信濃川火焰街道連携協議会（新潟市、三条市、長岡市、魚沼市、十日町市、津南町）は、文化財を通じた地域振興と広域観光を推進している。その活動の一環として、日本遺産「なんだ、コレは！信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化」から火焰型土器など、器（うつわ）ばなれした造形のやきものを厳選して紹介した。



(3) 収集保管事業

ア 寄贈資料

寄贈者	件数	分野	資料名	点数
矢部 忠秋	1	歴史	記念硬貨・切手類 一式	1
小河 信久	1	民俗	袴、袴 (越後縮)	2
皆川 斉志	1	歴史	屏風 (平家物語図)	1
高野 三津夫	1	歴史	教科書	47
若井 幸一	1	歴史	馬医書	10
佐野 澄子	1	民俗	ウチカケ (イロウチカケ)	1
佐山 富栄	1	歴史	村山半牧先生山水画集	1
下村 宣子	1	歴史	学校教育関係資料	200
薦津 朝臣	1	歴史	唐箕	1
金井 正樹	1	歴史	戦前金融関係資料	67
中村 寛	1	歴史	故中村武軍隊手帳、満州国建国功労章など	5
菊入 三樹夫	1	民俗	紬布のジャケット	1
渡辺 則子	1	民俗	七夕馬、七夕舟	5
小林 守雄	1	民俗	蓑、せなこうじ、すっぺ、馬のくつ、牛のわらじ	10
石黒 智教	1	歴史	佐渡国関係古文書 一式	1
古川 武	1	民俗	塩水選用籠、塩水選用籠の木型、苗代鰻、田植杵など	11
渋谷 サチ子	1	民俗	被衣	2
清水 朝子	1	歴史	無名異焼、関原焼 (清水窯)	11
合計	18			377

イ 寄託資料

なし。

ウ 購入資料

資料名	点数
佐渡金銀山関係扇面	3
越後上杉家 大永5年 鷹書	1

エ 資料貸出

貸出先	件数	資料名	点数	目的
新潟市文化財センター	1	原遺跡 耳形土製品 (木村祐治氏寄託)	1	企画展「地味にすごい! 下越の縄文時代」の展示資料とするため
新潟市歴史博物館	1	酒井家文書、春日山城絵図、上杉十八将図	3	企画展「にいがたの中世」の展示資料とするため
苗場山麓ジオパーク振興協議会	1	星野洋治コレクション 見附市高稲場遺跡出土石器、南魚沼市上ノ台遺跡出土石器	27	研究会「晩氷期・細石刃文化の資源利用」の検討資料とするため
長岡市立科学博物館	1	星野洋治コレクション 壬遺跡出土資料	21	特別展「信濃川流域の縄文草創期・早期の土器文化」の展示資料とするため
長野市立博物館	1	上杉謙信并二臣像 (常安寺寄託)、上杉謙信并二臣像 (複製)	2	特別展「THE EXPO 善光寺～甲信越戦国物語」の展示資料とするため
合計	5		21	

オ 資料特別利用

利用者名	件数	資料名	点数	目的
(株) 小学館 サライ編集室	1	常設展示 縄文人の世界 夏の海 写真	1	『土偶を読む図鑑』に掲載のため
まちなかキャンパス長岡運営協議会	1	荒屋遺跡出土石器	1	まちなかキャンパス長岡令和4年度講座一覧及びホームページなどに画像掲載のため
文化庁 文化遺産国際協力室	1	佐渡金銀山絵巻の集合写真、『佐州金銀山之図』	2	「佐渡島金山」の説明資料等に掲載のため
新潟県教育庁文化行政課	1	佐渡金銀山絵巻の集合写真、『佐渡国金銀山敷岡稼方図』、『佐渡金銀山之図』	3	ユネスコへの世界遺産登録推薦書の図版として使用のため
学校法人 河合塾	1	北越雪譜	1	大学受験用テキストに掲載のため
長谷川孝	1	掘直寄像、鉄団影、鉄団号	3	「むらかみ偉人伝」掘直寄公のまちづくりイベントで使用のため
日経映像 制作部	1	正保越後国絵図（原本：新発田市立歴史図書館所蔵）	1	BS テレ東の番組内で使用のため
横浜市歴史博物館	1	小机城発掘調査時の西廓断面写真	1	小机城の発掘調査の現地説明会、調査速報展、イベント「お城 expo2020」で使用のため
後藤一雄	1	四季農耕図屏風	1	調査研究のため
秋山正道	1	人体解剖絵図	1	調査研究のため
新潟日報社	1	「西三川砂金山稼方図」	1	新潟日報社朝刊「未来のチカラ・佐渡編」掲載のため
(株) ディラナダチ	1	『甲越勇士鑑』のうち、小笠原長時の頁	1	歴史人 2021. 12 特集「戦国武田家三代」に掲載のため
(株) ABCアーク	1	天正年5月19日付武田勝頼軍役定書	1	歴史人 2021. 12 特集「武田勝頼」に掲載のため
(株) トラベルジップ	1	常設展示 縄文人の世界 秋の広場写真	1	長岡観光コンベンション協会運営の観光サイト『長岡観光ナビ』特集記事「火焰土器のエネルギーな造形から、長岡の縄文時代を紐解く」に掲載のため
(株) ユニフォトプレスインターナショナル	1	常設展示 縄文文化を探る 貯蔵穴写真	1	集英社発行『アジア人物史』に掲載のため
(株) 戎光祥出版	1	康永3年5月2日付長尾景忠打渡状、ほか	13	『図説 上杉謙信』に掲載のため
(株) コミュニティネット	1	直江状	1	ナレッジシート『関ヶ原の戦い編(仮)』に掲載のため
あらかわ地区まちづくり協議会	1	荒川保・奥山庄堺相論和与図、越後に来た地頭（展示パネル）	2	あらかわ地区まちづくり協議会広報誌のあらかわ版「歴史探訪」に掲載のため
(株) ロム・インターナショナル	1	常設展示 縄文ジオラマ写真、ほか	8	『地図でスッと頭に入る縄文時代』に掲載のため
(株) 横正機業場	1	越後土産初編	1	五泉織物工業協同組合のパンフレットに掲載のため
NHK首都圏局	1	山本家スクラップブック	1	NHKラジオ番組作製のための調査
速水敬喜	1	「北越官軍先方軍中日記」	1	地域史研究のため
(株) IDデザイン	1	常設展示 縄文人の世界、ほか写真	8	ホームページ掲載
和田竜哉	1	絵はがき：株式会社 六十九銀行、ほか	4	新潟日報おとなプラスに掲載のため
(株) ムーブ	1	五泉市薬師堂遺跡出土石器、ほか	2	『新潟県のトリセツ』に掲載のため
新潟市北区郷土博物館	1	光り物 刷物	1	「博物館だより」第26号に掲載のため
(株) アッシュ	1	北越雪譜、北越西山油田鉱場（笹川コレクション絵葉書）	2	『地図で読み解く初耳秘話 新潟のトリセツ』に掲載のため
(株) 宮帯出版社	1	(天正17年)5月3日付上杉景勝書状	1	『石田三成 一関ヶ原西軍人脈を形成した政治構造(仮)』に掲載のため
江戸の文化歴史を楽しむ会	1	常設展示室 縄文文化を探る 火焰土器の世界 写真	2	そうか市民大学講座で使用のため
学校法人 河合塾	1	北越雪譜	1	2021年度後期(高3・高卒生対象)「日本史写真資料集」に掲載のため
(株) コミュニケーションカンパニー	1	常設展示 縄文人の世界 秋の広場写真	1	『復元模型で見る日本の歴史』に掲載のため
(株) 少年写真新聞社	1	常設展示 縄文人の世界(秋の広場、冬の狩り)写真	2	『人と動物の日本史図鑑』(仮)に掲載のため
飛騨市美術館	1	イッポンゾリ写真	5	「山と生きるひだびと」の展示パネル

				に使用のため
(株) TBSスパークル	1	方言修行金草鞋八篇 越後街道之記	1	テレビ番組「美しい日本に出会う旅」にて紹介のため
義田孝裕	1	親鸞聖人御旧跡二十四輩参詣記	1	調査研究のため
(株) 北都	1	「正保越後国絵図」写真(部分) 原本:新発田市立歴史図書館所蔵	1	ポータルサイト「新潟文化物語」6月公開特集で紹介のため
(株) 静岡新聞社 S B S学苑本部	1	直江兼統書状(写)	1	講演会の広報に使用のため
(株) 戎光祥出版	1	鉄黒漆塗紺糸威異製最上胴具足(伝上杉景勝所用)	1	『歴史研究』692号に掲載のため
(株) 童夢	1	常設展示 縄文文化を探る 火焰土器の世界 写真	1	『47都道府県クイズ』に掲載のため
ワン・パブリッシング	1	越の風車 河童の図	1	『ムー』5月号に掲載のため
特定非営利活動法人山本元帥景仰会	1	山本五十六写真(寄託)	1	山本元帥景仰会機関誌『清風』第37号に掲載のため
(株) ユーキャン	1	(永禄4年)9月13日付上杉政虎感状	1	『古文書入門』講座 早わかりビジュアル資料集(増刷)に掲載のため
(株) コミュニティネット	1	上杉謙信画像、上杉謙信書状、大谷善継覚書	3	『2022年版 戦国手帳』、『戦国武将31日めぐりカレンダー(第2編)』に掲載のため
(株) 吉川弘文館	1	雑訴決断所牒	1	『南北朝内乱と京都』に掲載のため
豊田克彦	1	鉄黒漆塗紺糸威異製最上胴具足(伝上杉景勝所用)	1	調査研究のため
岩野邦康	1	森谷周野資料	1	調査研究のため
高橋一樹	1	大見水原文書、河村文書	2	調査研究のため
加茂市教育委員会	1	笹川コレクション絵葉書	3	「蒲原鉄道と七谷郷」の展示パネルに使用のため
開隆堂出版	1	ツヅレ	1	家庭科教科書に掲載のため
鳥取県立公文書館	1	九条頼経袖判下文	1	「新鳥取県史を活用したデジタル学習教材」に掲載のため
国立歴史民俗博物館、(株) 山川出版社	1	越後国荒川保与奥山庄絵図	1	「国立歴史民俗博物館展示資料デジタル教材(仮称)」に掲載するため
長岡市立図書館	1	越後文書宝翰集	1	「越後の至宝 越後文書宝翰集の世界」チラシに掲載のため
黒田基樹	1	千坂信高施行状、ほか	54	調査研究のため
米沢市上杉博物館	1	越後文書宝翰集「色部氏文書」巻9 豊臣秀吉差出検地定書案、ほか	7	情報ライブラリーソフト「奥羽仕置と上杉景勝(仮)」で公開のため
長岡新聞社	1	長尾景虎書状	1	長岡新聞11月付発行号に掲載のため
門口実代	1	五十嵐家の婚礼用具(寄託)	1	『講座日本民俗学』に掲載のため
田嶋悠佑	1	上杉十八将図	1	調査研究のため
NHK 報道局政経国際番組部	1	山本五十六関係写真(寄託)	15	番組制作のため
国立歴史民俗博物館	1	中条秀叟(房資)記録	1	「中世武士団一地域に生きた武家の領主」の展示図録・展示パネル・広報に使用のため
加須市教育委員会	1	兜(鉄黒漆塗紺糸威異製最上胴具足)	1	加須市埋蔵文化財調査報告書第15集に掲載のため
新潟県知事政策局広報公聴課	1	奥山庄・荒川保堺相論和与絵図、上杉謙信像、越後文書宝翰集	3	『新潟県のすがた』2022に掲載のため
(株) コミュニティネット	1	上杉謙信像	1	『戦国武将関係図編(仮)』、『北条五代年譜(仮)』、『城と武将の関係図(仮)』に掲載のため
新潟市歴史博物館	1	色部高長安堵申状並具書案、(天正11年)5月20日上杉景勝書状、春日山城絵図、上杉十八将図	3	「にいがたの中世」の展示図録、展示パネルに使用のため
杉並区立郷土博物館	1	代かき、稲架け写真(斉藤文夫氏撮影)	2	「米 田んぼからお家まで」の展示パネルに使用のため
長岡市立科学博物館	1	西倉遺跡出土土器(星野洋治コレクション)	26	『長岡市立科学博物館研究報告』第57号に掲載のため
小松澄子	1	English氏撮影戦後期県内写真	4	調査研究のため
合計	66		220	

カ 資料保管環境

① 生物調査

館内での文化財害虫の生息、館内への侵入状況を調べるため、館内各所に粘着トラップを250箇所、フェロモントラップを計17箇所（タバコシバンムシ用「ニューセリコ」10箇所、ジンサンシバンムシ用「パシニウム」3箇所、ヒメマルカツオブシムシ用「ヒメマルカツオブシムシルアー」3箇所、ノシメマダラメイガ用「ガチョン」1箇所）、ライトトラップを5箇所設置し、毎月調査を行った。通年での調査結果は下記の通りである。

発見月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
昆虫目	シミ目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ゴキブリ目	0	0	0	0	4	4	3	0	0	0	0	0	11
	シロアリ目	0	0	45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	45
	バッタ目	10	25	3	0	28	61	129	35	118	20	1	0	430
	チャタテムシ目	0	0	0	0	0	15	0	15	0	0	0	0	30
	甲虫目 カツオブシムシ	0	1	1	4	6	0	3	0	2	1	0	0	18
	甲虫目 キクイムシ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	甲虫目 ヒョウホンムシ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	甲虫目 シバンムシ	0	0	3	0	4	0	0	0	0	0	0	0	7
	甲虫目 その他	0	8	30	16	18	7	17	6	24	6	1	0	133
	ハチ目	0	4	14	4	4	0	1	0	0	0	0	0	27
	ハエ目 ユスリカ・蚊等	69	35	39	37	57	40	70	47	43	51	10	16	514
	ハエ目 コバエ等	15	22	26	26	21	16	37	11	15	14	9	8	220
	チョウ目	2	0	3	2	2	11	14	4	7	3	1	2	51
昆虫網その他	0	0	8	0	5	1	1	1	1	1	1	5	24	
唇脚網	オオムカデ目	1	0	1	0	0	1	0	3	0	0	0	0	6
	ゲジ目	2	10	19	6	16	9	15	10	14	5	1	0	107
	唇脚網その他	0	1	25	10	6	0	2	1	1	1	0	0	47
蜘蛛型網	クモ目	64	13	36	24	21	8	8	17	15	28	15	15	264
	ダニ目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	クモ型網その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ほか	その他ダンゴムシなど	0	0	0	46	6	0	0	0	0	0	0	0	52
		163	119	253	175	198	173	300	150	240	130	39	46	1,986

令和3年度の調査結果を下記のとおり総括する。

通年捕獲実績の害虫種別に見ると、文化財加害害虫としては、(1)シロアリ目、(2)甲虫目カツオブシムシが主要種としてあげられる。さらに(3)チャタテムシ目、(4)ゴキブリ目の捕獲も確認された。甲虫目についてはシバンムシの捕獲も確認された。その他の不快害虫としては、(1)バッタ目(カマドウマ・コオロギ)、(2)ゲジ目、(3)クモ目が主要種としてあげられる。捕獲数で最も多いグループは、バッタ目であった。

シロアリ目については、有翅虫発生時期に屋外で発生した有翅虫が出入り口周辺に侵入している状況であり、施設や文化財への影響はなかった。その他のチャタテムシ目、ゴキブリ目、甲虫目シバンムシについてもいずれも出入り口付近での捕獲であり、文化財への影響はなかった。

カツオブシムシについては、出入り口付近などで捕獲され、日常の目視点検においては成虫が主に出入り口付近の窓の下で発見されている。ただし、いずれも外部からの影響を受けやすい場所における発見であり、成虫出現時期にほぼ限定されるため、移動能力の高い成虫が外部から侵入したものと考えられる。目視点検で発見される度、閉館後に殺虫剤の散布を行った。こうした害虫の駆除を主な目的として、6月に展示室の什器・備品・環境復元展示の殺虫作業を行った。

バッタ目については、主にカマドウマであり、例年秋・冬の寒冷時期に越冬のために館内に侵入し、

捕獲が増加する季節性の害虫であった。そのため、それらの害虫駆除を主な目的として、12月末に館内殺虫作業を行った。

ゲジ目・ハチ目（オオクロアリ・ヒメアリなど）・クモ目・その他（ダンゴムシ、ゴキムシなど）は、捕獲されるポイントが出入り口周辺にほぼ限定されていて、大きな問題とはならなかった。

なお、ノシメマダラメイガについては、令和元年度にも常設展示室内で成虫2匹が捕獲されるなどしてきたため、文化財に影響を与えうる害虫としてフェロモントラップを用いたモニタリングを継続してきた。結果として、昨年度に引き続き本年度も館内での捕獲は確認されなかった。

② 空中浮遊菌（真菌）調査・付着菌調査

②-1 空中浮遊菌調査

特別収蔵庫および収蔵庫2・3の空中浮遊菌（真菌）を調査するため、ピンホールサンプラーで各室内空気を200L吸引し、PDA培地・M40Y培地で培養して真菌数を調査した。M40Y培地は乾燥を好むカビに適した培地である。PDA培地・M40Y培地ともに、5月・8月・12月の調査において特別収蔵庫前室の菌数がやや多かった。いずれも扉の開閉時に廊下から空気が流入したためと考えられ、季節傾向の影響や、企画展示の準備などにかかわる資料搬出入に伴ってこうした傾向が生じたと考えられる。

②-2 付着菌調査

特別収蔵庫および収蔵庫2・3の付着菌を調査するため、100cm²の床面を綿棒で拭き取り、それをPDA培地・M40Y培地で培養して真菌数を調査した。PDA培地・M40Y培地ともに、特別収蔵庫および収蔵庫2・3のいずれにおいても確認されないか、発見されても極わずかな菌数であった。

以上のように、特別収蔵庫前室の空中浮遊菌調査の結果以外は、年間を通じて少ない菌数である。また、付着菌の調査結果を見る限り、浮遊菌が落下し床に定着するような状況にはないと推定できる。こうした点から比較的良好な収蔵環境が維持されていると言える。調査結果は下記の通りである。

令和3年度 空中浮遊菌（真菌）調査・付着菌調査結果

PDA培地

測定箇所	5月10日		8月10日		12月13日	
	200L吸引培地	1m ² あたりの真菌数	200L吸引培地	1m ² あたりの真菌数	200L吸引培地	1m ² あたりの真菌数
特別収蔵庫前室	6	30	31	155	5	25
特別収蔵庫	0	0	4	20	0	0
収蔵庫2	0	0	0	0	0	0
収蔵庫3	1	5	0	0	1	5

M40Y培地

測定箇所	5月10日		8月10日		12月13日	
	200L吸引培地	1m ² あたりの真菌数	200L吸引培地	1m ² あたりの真菌数	200L吸引培地	1m ² あたりの真菌数
特別収蔵庫前室	31	155	59	295	19	95
特別収蔵庫	2	10	4	20	0	0
収蔵庫2	1	5	4	20	0	0
収蔵庫3	0	0	2	10	1	5

付着菌

採取箇所	5月10日		8月10日		12月13日	
	PDA培地	M40Y培地	PDA培地	M40Y培地	PDA培地	M40Y培地
特別収蔵庫前室	2	2	0	0	0	0
特別収蔵庫	0	0	0	1	0	0
収蔵庫2（1階右側）	0	0	0	0	0	0
収蔵庫2（1階左側）	0	0	0	0	0	0
収蔵庫2（2階）	1	1	0	3	0	1

③ 薬剤使用状況、館内殺虫、資料殺虫殺菌処理状況

館内及び資料から文化財害虫・菌を除去するため、以下のとおり館内殺虫および資料の殺虫殺菌処理を行った。

処理作業名	作業日	使用薬剤等	目的等
燻蒸室内燻蒸処理	4月12～15日	酸化エチレン・フルオロカーボン製剤（エキヒュームS）	新規収蔵資料および一時外に出していた資料を収蔵庫に収蔵するに際して、資料自体の虫害の防止、収蔵庫の環境維持のため殺虫・殺カビ処理を行う。
展示室殺虫作業	6月21日	ピレスロイド炭酸製剤（ブンガノン）	展示室の什器・備品・環境復元展示の殺虫のため
燻蒸室内燻蒸処理	8月17～19日	酸化エチレン・フルオロカーボン製剤（エキヒュームS）	新規収蔵資料および一時外に出していた資料を収蔵庫に収蔵するに際して、資料自体の虫害の防止、収蔵庫の環境維持のため殺虫・殺カビ処理を行う。
燻蒸室内燻蒸処理	10月11～14日	酸化エチレン・フルオロカーボン製剤（エキヒュームS）	新規収蔵資料および一時外に出していた資料を収蔵庫に収蔵するに際して、資料自体の虫害の防止、収蔵庫の環境維持のため殺虫・殺カビ処理を行う。
館内殺虫作業	12月29日	ピレスロイド炭酸製剤（ミラクソGX）	共用部の什器・備品の殺虫のため

④ 温湿度管理

館内の収蔵庫および企画展示室の温湿度について、各室の収蔵品や使用目的にあわせ、適正になるように努めた。とりわけ特別収蔵庫は年間を通して温度21～23度前後に制御し、湿度は60%前後になるように留意した。企画展示室は、調湿剤を使用しながら展示資料によって適正な設定温湿度を調整した。

⑤ 館内の空気環境管理

a イオンクロマトグラフ法空気環境測定

8月18日に収蔵庫1・収蔵庫2のイオンクロマトグラフ法(IC法)による空気環境の測定分析を行った。その結果、文化財に影響を与える酢酸、アンモニウムイオン成分は問題なかった。収蔵庫2については、昨年度までの調査では、ギ酸が東京文化財研究所の推奨値をわずかに越えていることが判明していた。しかし、本年度の調査では推奨値より低い数値であることが確認された。今後も経過を観察し、状況に応じ適切に対応する予定である。

令和3年度 イオンクロマトグラフ測定結果一覧（8月18日）

測定箇所	酢酸 ppb	ギ酸 ppb	アンモニア ppb
特別収蔵庫 1階中央	46.5	7.53	9.08
特別収蔵庫 1階左奥	35.8	5.72	9.08
特別収蔵庫 1階吸込口	40.2	6.06	8.54
特別収蔵庫 2階吹出口	36.3	5.46	8.06
収蔵庫2	42.7	6.44	16.00

b 活性炭フィルター交換

特別収蔵庫、収蔵庫2、収蔵庫3および企画展示室の適切な空気環境を維持するため、7月に活性炭フィルターを交換した。

(4) 調査研究事業

ア 事業主旨

新潟県の歴史及び民俗並びに縄文文化に関する県民の教養を高め、県民の文化的・学術的活動を支援するため、全国的・世界的視野から総合的に、資料に関する技術的及び専門的な研究を行っている。

なお、本事業は他事業と関連し、博物館事業全体を支えるものである。他事業に結実した成果は各項目を参照していただきたい。

イ 総合研究

博物館の事業活動に寄与するため、博物館内外の人材を集め、総合的な研究目的を掲げて行う研究である。令和3年度には、以下のとおり行った。

① 越後文書宝翰集の研究（3年計画の2年目）

代表者：前嶋 敏

新潟県の中世史を研究する上においてきわめて重要な資料である当館所蔵の国指定重要文化財「越後文書宝翰集」全44巻727通のうち、三浦和田氏文書・河村氏文書・小田切氏文書の刊行を目指して、史料の見直しを行う。

当該年度は3年計画の2年目にあたり、『越後文書宝翰集 三浦和田氏文書Ⅲ・河村氏文書・小田切氏文書』（矢田俊文・片桐昭彦・新潟県立歴史博物館編）を刊行した。

② 近世産業絵巻の研究（2年計画の1年目）

代表者：渡部浩二

近世以降に新たに誕生した「産業絵巻」（農耕、林業、捕鯨・水産、鉱山などの産業に関する一連の工程を描いた絵巻）の所在と概要を把握するとともに、制作の意図や受容者、社会背景などを明らかにし、それらを日本の絵巻文化史全体のなかに位置付ける。

本年度は産業絵巻成立事情を探り、近世の産業そのものに対する関心の高まる時期と、それに付随して制作された書物や絵画などに関する調査を行い、絵巻資料論の検討を進めた。なお、本研究の研究成果の一部は、令和4年度秋季企画展に反映される計画である。

ウ 個別研究

専門的業務に従事する研究員が日常的に研鑽を積み、また、博物館の事業活動に寄与するため、個別の研究目的を掲げて行う研究である。令和3年度には、各自の日常的な研鑽・調査とともに、以下のテーマ研究を行った。

① 新潟県域近世近代窯業址の研究（西田泰民）

近世近代の県内窯業について、かつて石川秀雄氏が著作にまとめたが、その後続く研究はない。また民芸運動の影響で集められた複数のコレクターの収集品は世代交代で散逸する危機にある。産業史として短期間ながらも勃興した新潟県内の窯業研究は重要でありながら、窯所在地すら不明となっている。前年度に続き、現地踏査を行い、窯業址の比定を進めた。あわせて館蔵品及び比定地採集品について蛍光X線分析を行い、各窯製品の元素組成を検討した。

② 陸奥及び越後出羽の初期城柵官衙遺跡の比較研究（浅井勝利）

陸奥と越後出羽の初期城柵官衙に関する今泉隆雄の提唱した「双子の城柵」論を検証し、『日本書紀』等により知られる日本海側の淳足・磐舟柵の実態について所在地の発見にかかる検討を行った。7世紀の初期城柵のみならず、その後の城柵官衙について、陸奥（太平洋側）と越後出羽（日本海側）とで異なった発展形態をもたらした可能性を探った。

③ 博物館における「障害者」の表象の研究（山本哲也）

「博物館と障害者」という視点に基づいた研究では、障害者の博物館利用が重視されてきたが、博物館の社会的包摂を考慮するにあたり、「障害者」の表象そのものを検討する重要性を提示した。その実践的活動のひとつとして令和3年度文化庁文化芸術振興費補助金（地域と共働した博物館創造活動支援事業）を得て、「守れ！文化財～モノとヒトに光を灯す～」事業（実行委員会中核館＝新潟県立歴史博物館）を実施した。

④ 考古資料展示の効用に関する研究（宮尾亨）

現代社会の中で考古資料が用いられる場面を検討するために、考古学研究以外の場面で用いられる考古資料に関するデータベース構築を行っている。そのデータベース更新を進めるとともに、個別事例の中でも展示の効用について検討した。考古資料によって説明される歴史的事象のとともに、現代における考古資料展示の効用について検討した。

⑤ 栃尾地域における養蚕、自家製の布づくりとその周辺（陳玲）

長く行われてきた養蚕について、昭和50年代まで盛んであった長岡市栃尾地域を対象に調査し、商品として流通しない規格外の繭を利用した糸づくりと機織りなど自家製の布づくりの詳細を聞き取り記録するとともに、関連する道具や残っていた素材の収集に努めた。その成果を踏まえ、この地域の衣生活の特色と歴史の変遷を検討した。

⑥ 近世下級武士の離縁に関する研究（渡部浩二）

新潟県内では近世社会の離縁そのものに関する研究が少ない。そこで桑名藩柏崎陣屋勤務の渡部勝之助が記録した約10年間におよぶ『柏崎日記』にある下級武士の離縁に関する実態の記述を通して、下級武士と大名・旗本との離縁手続きの違いなども検討した。近世社会の離縁に関する研究に資する個別具体的な下級武士の事例を提示するとともに、その身分的位置づけの端緒とした。

⑦ 中条氏一族文書の研究（前嶋敏）

新潟県中世史研究の深化を推し進めるために、当館所蔵の国指定重要文化財「越後文書宝翰集」（全44巻、727通、国指定重要文化財）は、越後地域に盤踞した18の武将の家に伝来した一大古文書群である。そのなかで中条氏文書（1巻12通）を対象に検討を行った。との日本に残る中世文書群にあって、特異な一体性を示す越後文書宝翰集の再評価に努めた。

⑧ 「横田切れ」復興にみる私塾長善館と地域（田邊幹）

未曾有の被害をもたらした明治29年（1896）の大洪水「横田切れ」への対応と復興にあたって、域指導者層における知識人ネットワークの実態を検討し、幕末維新期から明治時代かけて全国的に多く設立された私塾のなかで、越後の長善館を中核とした知識人ネットワークが地域社会に与えた影響を考察した。

⑨ 盆行事・葬送における植物の利用傾向－新潟県佐渡市をフィールドとして－（三国信一）

元来、植物の霊性については、常緑や大樹、または食用という要素に起因すると説明されがちであった。しかし、先駆樹木の研究により、先駆けて芽を出し急成長するような生態にも霊性が認識されてきたことが明らかとなった。新潟地域の盆行事や葬送においても先駆樹木が使われているが、越後と佐渡で樹種の傾向が異なっており、前者には東日本的傾向が、後者には西日本的傾向が、それぞれ確認されつつある。今年度の個別研究では、佐渡市の盆行事と葬送における先駆樹木等の利用事例を加えた。

⑩ 人と大地の物語の創出に向けた基礎研究（橋詰 潤）

地域の歴史や文化を語る遺産として扱われてきた文化財について、その地域の地形地質的成り立ちや自然とのかかわりも加え、人と大地の物語として総合的に扱うためジオパークの理念を実践する基礎的研究を開始した。本年度は文化遺産と自然遺産とを総合的に保全・活用するプログラムの開発に向けて、ジオパーク指定地域における人類と岩石鉱物資源とのかかわりを取り扱った事例収集を行った。

⑪ 食料資源の加工と流通をめぐる基礎的研究（大楽和正）

魚介・海藻類の水産物、山菜・きのこ類の林産物を対象とし、近世以降に地域の特産品とされた食料資源の情報を集成し、地域の特産品の社会的背景について個別具体的事例を通して考察した。本年度は『越後土産』『越後名産』などの近世史料や民俗調査報告書等を参照して水産物や林産物に関する情報を収集するとともに、現地で聞き取り調査を行った。

エ 科学研究費補助金等による研究

研究員それぞれの自由かつ柔軟な発想に基づく学術研究を、科学研究費補助金（以下、科研費と記す）等を得て公務として行っている。令和3年度に採択された研究課題は、以下のとおりである。

① 近世産業絵巻の基礎的研究

科研費 基盤研究 C1 (19K00969) 平成 31-33 年度（令和元-3 年度）

研究代表者：渡部浩二

② 史資料原本調査を中心とした中世文書群の伝来に関する研究

科研費 基盤研究 C1 (20K00953) 令和 2-5 年度

研究代表者：前嶋敏

③ 「越佐徴古館」構想の復元を通じた「横田切れ」水害被災地の復興

科研費 基盤研究 C1 (20K01133) 令和 2-5 年度

研究代表者：田邊 幹

④ 本州中央部の大規模遺跡の再検証に基づく更新世終末の動物資源利用行動の評価

科研費 基盤研究 C (20K01101) 令和 2-5 年度

研究代表者：橋詰 潤

⑤ 博物館から考える民俗学の実践的応用

科研費 基盤研究 C1 (18K01206) 平成 30-34 年度（平成 30 - 令和 4 年度）

研究代表者：大楽和正

⑥ 土器製作技術と植物混和材

科研費 学術変革 A (20H05812) 令和 2-6 年度

研究分担者：西田泰民

（研究代表者：阿部昭典 千葉大学大学院人文科学研究院 准教授）

⑦ 越後縄文人の食性変化と多雪化の関係を明らかにする研究

科研費 基盤研究 B1 (20H01344) 令和 2-5 年度

研究分担者：宮尾亨

（研究代表者：吉田邦夫 東京大学 総合博物館）

- ⑧ 最終氷期における中部高地の景観変遷と黒曜石資源開発をめぐる人間—環境相互作用
 科研費 基盤研究 B1 (19H01345) 平成 31-34 年度 (令和元-4 年度)
 研究分担者：橋詰潤
 (研究代表者：島田和高 明治大学博物館 学芸員)
- ⑨ 佐渡古浄瑠璃の研究基盤構築とデジタル化保存に関する総合的研究
 科研費 基盤研究 B (20H01230) 令和 2-6 年度
 研究分担者：大楽和正
 (研究代表者：田草川みずき 千葉大学大学院人文科学研究院 准教授)
- ⑩ 地域における歴史意識の形成過程に関する研究—由緒関係文書の原本調査を踏まえて—
 科研費 基盤研究 B1 (21H00570) 令和 3-5 年度
 研究協力者：前嶋敏
 (研究代表者：坂田聡 中央大学文学部教授)

オ 自主企画の学術研究出版物 (図録・紀要・報告書等)

- ① 『新潟県立歴史博物館研究紀要』第 23 号 (令和 4 年 3 月 25 日) A 4 判 160 頁 モノクロ・カラー 1,500 部
 編集 新潟県立歴史博物館
 発行 新潟県立歴史博物館
 [目次]
【研究ノート】
- | | |
|---|-------------------|
| 3D-RGB 計測情報を用いた縄文土器分類の展望 (宮尾 亨) | 1~18 頁 |
| 新潟県内近世近代窯業址について (2) (西田 泰民) | 19~37 頁 |
| 新潟県内の水族館に関する覚書 (3) —初代寺泊水族館の謎・その 1— (山本 哲也) | 39~50 頁 |
| えごをめぐる調査研究と実践—2020-2021 年の活動記録— (大楽 和正) | 51~70 頁 |
| 新潟県下布関係資料のアーカイブ化の試み | |
| —阿賀町郷土資料館所蔵の仕事着を事例に— (陳 玲) | 71~97 頁 |
| —「一之貝餅」と最後の織り手・剣持トシさんからの聞き取りを通じて— (陳 玲) | 99~113 頁 |
| 布づくりをめぐる生活誌 | |
| | 117~124 頁(一一~一八頁) |
| 佐渡金銀山絵巻に描かれた「阿蘭陀水突道具」について (渡部 浩二) | 147~160 頁(一~一四頁) |
- 【調査報告】**
- | | |
|----------------------|-----------|
| 関原焼清水窯発掘調査概報 (西田 泰民) | 115~122 頁 |
|----------------------|-----------|
- 【文献目録】**
- | | |
|--|-----------|
| 2021 年新潟県地域史関係文献目録 (新潟県地域史研究ネットワーク事務局) | 123~146 頁 |
|--|-----------|
- ② 『越後文書宝翰集 三浦和田氏文書Ⅲ・河村氏文書・小田切氏文書』(令和 4 年 3 月)
 A 4 判 76 頁 カラー 750 部
 編集 矢田俊文・片桐昭彦・新潟県立歴史博物館 (前嶋敏)
 発行 新潟県立歴史博物館
 [目次]
 はじめに
 図版編

三浦和田氏文書第六卷	8頁
河村氏文書	12頁
小田切氏文書	18頁
解説編	
河村氏文書・小田切氏文書について 前嶋 敏	30頁
各文書翻刻・解説	39頁
主要参考文献一覧	74頁

カ 専門書・専門誌への論文等その他年間執筆一覧

氏名	タイトル	出典	発行	発行日	頁
西田泰民	ストリートビューによる博物館バーチャルツアー	『博物館研究』56-9	日本博物館協会	8月25日	11~14頁
西田泰民	やきもの産地・新潟	『陶説』824	日本陶磁協会	2月1日	24~31頁
西田泰民	新潟県内近世近代窯跡調査2	『新潟県立歴史博物館研究紀要』第23号	新潟県立歴史博物館	3月25日	19~37頁
西田泰民	関原焼清水窯発掘調査概報	『新潟県立歴史博物館研究紀要』第23号	新潟県立歴史博物館	3月25日	115~122頁
西田泰民	元素分析による土器供給体制への予察	『中国江南の考古学』	中国文明起源プロジェクト	3月31日	207~212頁
浅井勝利	新潟県地方史研究の動向	『信濃』73-7	信濃史学会	7月20日	31~32頁
山本哲也	山本五十六の死、国葬、そして遺骨の長岡帰還を当時の新聞に見る	『清風』37	特定非営利活動法人山本元帥景仰会	4月18日	4~5頁
山本哲也	社会的包摂の視点で博物館とは何かを考える	『ミュージアム・データ』82	丹青研究所	11月15日	11~15頁
山本哲也	昭和初期における博物館の建築計画に関する講演録(2) 一團伊能「美術館に於ける陳列等に就て」一昭和4年の「博物館学」の新事例	『博物館学雑誌』47-1	全日本博物館学会	12月25日	85~104頁
山本哲也	新潟県内の水族館に関する覚書(3) 一寺泊水族館の謎・その1一	『新潟県立歴史博物館研究紀要』第23号	新潟県立歴史博物館	3月25日	39~50頁
宮尾 亨	講演録「津南シンポジウム XVI 火焰土器前夜の様相ー五丁歩土器の世界ーリコメントと講評」	『津南学』第10号	ほおづき書籍	12月28日	244~278頁
宮尾 亨	3D-RGB計測情報を用いた縄文土器分類の展望	『新潟県立歴史博物館研究紀要』第23号	新潟県立歴史博物館	3月25日	1~18頁
宮尾 亨	文化財画像の主成分分析と機械学習を活用した人文情報学の実践	『東風西声』第17号(九州国立博物館紀要)	九州国立博物館紀要	3月31日	76(55)~66(65)頁
陳 玲	津南町歴史民俗資料館のマワタムキを追って	『津南学』第10号	ほおづき書籍	12月28日	61~68頁
陳 玲	新潟県下布関係資料のアーカイブ化の試みー阿賀町郷土資料館所蔵の仕事着を事例にー	『新潟県立歴史博物館研究紀要』第23号	新潟県立歴史博物館	3月25日	71~97頁
陳 玲	布づくりをめぐる生活誌ー「一之貝紘」と最後の織り手・剣持トシさんからの聞き取りを通じてー	『新潟県立歴史博物館研究紀要』第23号	新潟県立歴史博物館	3月25日	99~113頁
渡部浩二	新潟県地方史研究の動向	『信濃』73-7	信濃史学会	7月20日	34~36頁
渡部浩二	佐渡金銀山絵巻に描かれた「阿蘭陀水突道具」について	『新潟県立歴史博物館研究紀要』第23号	新潟県立歴史博物館	3月25日	147~160頁(一~一四頁)
前嶋 敏	河村氏文書・小田切氏文書について	矢田俊文・片桐昭彦・新潟県立歴史博物館編『越後文書宝翰集 三浦和田氏文書Ⅲ・河村氏文書・小田切氏文書』	新潟県立歴史博物館	3月	37~46頁
前嶋 敏	【講演録】第1回新潟県考古学講演会パネルディスカッション 山城からみた魚沼の戦国時代	『津南学』第10号	ほおづき書籍	12月28日	279~295頁
田邊 幹	絵葉書と「歴史資料」ー大正十五年栃尾大水害の中心にー	『災害史研究とチラシ・ポスター・絵葉書の資料学』	新潟大学人文学附置地域文化連携センター	2月15日	15~22頁
三国信一	盆行事におけるタケニグサの利用	『高志路』421	新潟県民俗学会	8月17日	13~18頁
三国信一	新潟県胎内市中村浜の七夕飾り	『民具マンスリー』54-6	神奈川大学日本常民文化研究所	9月10日	15~20頁
三国信一	新潟県立歴史博物館所蔵の釜神について	『津南学』第10号	津南町教育委員会	12月28日	69~75頁
橋詰 潤	石川県鳳凰珠郡能都町真脇遺跡 XI 層出土土槍の研究	『地域と考古学 II』向坂綱二先生米寿記念論集	向坂綱二先生米寿記念論集刊行会	11月1日	21~32頁
大楽和正	「えご」をめぐる調査研究と実践ー2020ー2021年の活動記録ー	『新潟県立歴史博物館研究紀要』第23号	新潟県立歴史博物館	3月25日	51~70頁
大楽和正	盆供のエゴノリとテングサ	『高志路』421	新潟県民俗学会	8月17日	25~45頁

キ 調査報告書・辞典・参考書等への年間執筆一覧

氏名	タイトル	出典	発行	発行日	頁
山本哲也	コラム 海底に残された物流の形跡—新潟県名立沖の珠洲焼	『水中遺跡ハンドブック』	文化庁文化財第二課	3月31日	36頁
山本哲也	『守れ！文化財～モノとヒトに光を灯す～2021年度報告書』（編集・執筆）		「守れ！文化財～モノとヒトに光を灯す～」事業実行委員会	3月31日	総79頁
渡部浩二	高田藩の参勤交代	江戸と金沢を結ぶ“板橋”—中山道板橋宿を訪れた大名たち—	板橋区立郷土資料館	1月22日	77～80頁
渡部浩二	「越後国角田山妙光寺略縁起」、「日蓮大聖人御伝記」、「東遊記」	『日蓮聖人と法華文化』	「日蓮聖人と法華文化」展実行委員会	7月17日	168、182、184頁
前嶋 敏	『日蓮聖人と法華文化』（編集・執筆）		「日蓮聖人と法華文化」展実行委員会	7月17日	1～202
前嶋 敏	矢田俊文・片桐昭彦・新潟県立歴史博物館編『越後文書宝翰集 三浦和田氏文書Ⅲ・河村氏文書・小田切氏文書』（編集・執筆）		新潟県立歴史博物館	3月	総76頁

ク 一般書・一般雑誌・新聞等への年間寄稿一覧

氏名	タイトル	出典	発行	発行日	頁
西田泰民	石瀬のきんかさま	石瀬の街あるき	石瀬岩室史跡保存会	11月	1頁
西田泰民	県立歴史博物館冬季テーマ展示「やきもの産地・新潟」	新潟県考古学会連絡紙 131	新潟県考古学会	2月1日	4頁
西田泰民	長岡の近代窯跡をたずねて①	NIC ながおか通信:そいがあて2月号	新潟日報・長岡販売店グループ	2月15日	3面
西田泰民	長岡の近代窯跡をたずねて②	NIC ながおか通信:そいがあて3月号	新潟日報・長岡販売店グループ	3月15日	3面
山本哲也	長岡花火のチカラ—街が息を吹き返すために—	『リバーバンク・レポート』32	一般社団法人 地域ルネッサンス創造機構シンクタンク・ザ・リバーバンク	7月1日	14～15頁
宮尾 亨	村上原野の縄文造形と射程	縄文スパイラル・ノヴァ村上原野縄文造形作品集	猪風来美術館・猪風来	7月1日	85～86頁
宮尾 亨	ひとやすみのミュージアムに寄せて	ミュージアム Vol128	株式会社アム・プロモーション	3月25日	44～45頁
渡部浩二	北国街道をゆく江戸時代の巡拝者たち—「二十四輩巡拝」ルートについて	日本の歴史を描き直す—信越地域の歴史像	文学通信	9月30日	80～87頁
前嶋 敏	信仰でつながる身延山と佐渡	『中外日報』2021年8月25日号	中外日報社	8月25日	7面
前嶋 敏	二つの聖人像	『山梨日日新聞』令和3年10月23日号	山梨日日新聞社	10月23日	
前嶋 敏	川中島合戦を読み直す—永禄元年の争いの検討	日本の歴史を描き直す—信越地域の歴史像	文学通信	9月30日	216～221頁

ケ 学会発表等一覧

氏名	タイトル	学会・講演会名	会場	期日	備考
西田泰民	X線CTによる繊維土器の研究	日本文化財科学会ワーキンググループ	オンライン	9月18日	
山本哲也	趣旨説明及び総括	2021年度シンポジウム「守れ！文化財～モノとヒトに光を灯す～」	新潟県立歴史博物館	2月27日	
宮尾 亨	3D計測情報を用いた縄文土器分類の展望	考古文化財ディープラーニング研究会	新潟県埋蔵文化財センター	10月22日	
宮尾 亨	機械学習と考古学—生態系と人の自己家畜化—	考古文化財ディープラーニング研究会	新潟県埋蔵文化財センター	10月22日	
宮尾 亨	考古資料の三次元計測と活用の現状	考古文化財ディープラーニング研究会	新潟県埋蔵文化財センター	10月22日	
宮尾 亨	土器3D-RGBデータの深層学習クラスター解析による型式・年代分類基準の検証	考古文化財ディープラーニング研究会	新潟県埋蔵文化財センター	10月22日	
宮尾 亨	縄文土器 3D計測データによるクラスタリング解析モデルの検討	考古文化財ディープラーニング研究会	新潟県埋蔵文化財センター	10月22日	
宮尾 亨	縄文土器 3D計測データの復元箇所マスキング処理	考古文化財ディープラーニング研究会	新潟県埋蔵文化財センター	10月22日	
宮尾 亨	縄文土器3D-RGBデータの深層学習クラスター解析に向けたVoxel化および解像度の評価	日本情報考古学会第46回大会	オンライン	3月26・27日	
渡部浩二	佐渡金銀山絵巻に描かれた「阿蘭陀水突道具」について	資源・素材2021（札幌）—2021年度資源・素材関係学協会合同秋季大会—	オンライン	9月16日	
前嶋 敏	『日蓮聖人と法華文化』展 新潟会場の展示から	『日蓮聖人と法華文化』シンポジウム	山梨県甲府市遠光寺	9月18日	
田邊 幹	絵葉書と「歴史資料」—新潟県の絵葉書コレクションを事例として—	第12回「災害文化と地域社会形成史」研究会 災害史研究・歴史学研究と一枚摺・チラシ・絵葉書・コレクション・コレクター	オンライン	9月4日	
三国信一	秋季テーマ展示「四季の暮らし、小さなまつり—新潟県の年中行事—」解説	新潟県民俗学会有志見学会	新潟県立歴史博物館	10月24日	

三国信一	新潟県内の年中行事における子どもの主体性について	國學院大學伝承文化学会 令和3年第3回シンポジウム「再考・子どもの民俗世界」	オンライン	2月5日	
橋詰潤	小瀬ヶ沢洞窟遺跡出土のいわゆる「植刃」と関連資料の再検討	2021年度日本旧石器学会第19回総会・研究発表・シンポジウム	オンライン	6月19日	
大楽和正	海藻食「えご」食文化を守る・つなぐ・広める―博物館学芸員と越後えご保存会の取り組み―	日本民俗学会第916回談話会「地域博物館の「ネットワーク」」	オンライン	11月20日	

コ 高等教育機関（大学等）への年間講師派遣一覧

氏名	科目名	出講先
西田泰民	技術から見た歴史探究	長岡技術科学大学
西田泰民	文化財学概論	長岡造形大学
西田泰民	自然人類学	新潟県立看護大学
浅井勝利	博物館情報・メディア論	長岡造形大学
浅井勝利	地域から文化を考える	新潟大学
浅井勝利	新潟の風土と歴史	新潟薬科大学
浅井勝利	歴史と文化	長岡崇徳大学
山本哲也	博物館教育論	長岡造形大学
山本哲也	博物館教育論	新潟産業大学
山本哲也	博物館実習	國學院大學
渡部浩二	技術からみた歴史探究	長岡技術科学大学
渡部浩二	近世越後諸地域の歴史と社会	新潟大学
渡部浩二	新潟の風土と歴史	新潟薬科大学
前嶋 敏	技術からみた歴史探究	長岡技術科学大学
前嶋 敏	文化財学概論	長岡造形大学
前嶋 敏	新潟の風土と歴史	新潟薬科大学
田邊 幹	新潟の風土と歴史	新潟薬科大学
田邊 幹	地域文化論	長岡造形大学
田邊 幹	歴史と文化	長岡崇徳大学
三国信一	新潟の風土と歴史	新潟薬科大学
三国信一	日本の伝統芸能	新潟産業大学
橋詰 潤	新潟の風土と歴史	新潟薬科大学
大楽和正	文化財学概論	長岡造形大学
大楽和正	博物館資料保存論	長岡造形大学
大楽和正	日本の伝統芸能	新潟産業大学

サ ホームページによる研究内容の公開

浅井勝利：個別研究成果（新潟県内出土文字資料データベース）を公開

<http://member.nbz.or.jp/asai/index.html>

西田泰民：文部科学省科学研究費補助金 基盤研究B「日本における稲作以前の主食植物の研究」の成果を公開

<http://www.asahi-net.or.jp/~zh4y-nsd/starchhp/stitle.html>

個別研究成果を公開

<http://nbz.or.jp/archiveDB/>

宮尾 亨：文部科学省科学研究費補助金 基盤研究C「博物館における縄文食プログラム策定の基礎資料収集及び新分析法の開発」の成果を公開

<https://ameblo.jp/niigatarekihaku/>

<http://sites.google.com/site/torum01/jomon-foods>

シ 編集に参画した学術研究出版物（図録・紀要・報告書等）

- ① 『日蓮聖人と法華文化』（令和3年7月17日）
 A4判 201頁 カラー 2,000部
 編集 「日蓮聖人と法華文化」展実行委員会（担当：前嶋 敏）
 発行 「日蓮聖人と法華文化」展実行委員会
 [目次]
- | | |
|------------------------------------|------------|
| 日蓮—法華経の旅人—（中尾 堯） | 4頁 |
| 第一章 日蓮の思想と生涯 | |
| 第一節 日蓮の姿 | 16頁 |
| 第二節 法華経の諸仏・諸菩薩・諸尊 | 22頁 |
| 第三節 日蓮の生涯 | 46頁 |
| 1 開宗 | 46頁 |
| 2 法難と佐渡入国 | 48頁 |
| 3 佐渡での思索と弘通 | 52頁 |
| 4 身延山入山と門弟たち | 56頁 |
| 第二章 佐渡・越後・甲斐の日蓮法華 | |
| 第一節 佐渡の日蓮法華 | 64頁 |
| 1 日蓮の滞在と佐渡の寺院 | 64頁 |
| 2 法難の追体験と佐渡の寺院 | 66頁 |
| 第二節 越後の日蓮法華 | 70頁 |
| 1 六老僧・九老僧と越後の寺院
妙法寺宝塔について（平山育男） | 70頁
74頁 |
| 2 越後の日蓮法華寺院の展開 | 80頁 |
| 第三節 甲斐の日蓮法華 | 84頁 |
| 1 身延山久遠寺の展開 | 84頁 |
| 2 久遠寺末寺の興隆 | 90頁 |
| 3 富士川流域と富士北麓の寺院 | 92頁 |
| 4 日遠の活動と本遠寺 | 94頁 |
| 第四節 法華文化の継承 | 96頁 |
| 第三章 日蓮の伝承と霊場としての佐渡・越後・甲斐 | |
| 論考 | |
| 日蓮伝説と霊場の形成—佐渡・越後・甲斐—（望月真澄） | 128頁 |
| 佐渡と身延をつなぐもの—日蓮の書状をみる—（寺尾英智） | 140頁 |
| 展示資料解説 | 146頁 |
| 展示資料翻刻（抄） | 188頁 |
| 参考資料 | |
| 日蓮関係略年表 | 192頁 |
| 新潟県・山梨県本展出品寺院等分布図 | 195頁 |
| おもな参考文献 | 196頁 |
| 出品目録 | 198頁 |
- ② 『守れ！文化財～モノとヒトに光を灯す～2021年度 事業報告書』（令和4年3月31日）
 A4判 79頁 カラー 1,500部
 編集 「守れ！文化財～モノとヒトに光を灯す～」事業実行委員会（担当：山本哲也）
 発行 「守れ！文化財～モノとヒトに光を灯す～」事業実行委員会

〔目次〕

守れ！文化財 ―「永久ニ未完成スルコト」のもとで―「ごあいさつ」にかえて	1 頁
第1章 モノを活かす	
学校資料の保存と活用を考える3	
―京都府立豊学校でのワークショップ「学校史ミニ屏風：学びの歴史を物語ろう」―	4 頁
文化財活用ワークショップに取り組んで ～教員へのアンケートより～	18 頁
第2章 調べ、考え、そして学びを深める	
令和3年度 旧新潟県立高田盲学校の資料調査	26 頁
東京2020パラリンピックとその資料	30 頁
義足の動作モデル製作	36 頁
三重県立美術館企画展「美術にアクセス！―多感覚鑑賞のすすめ」視察報告	42 頁
第3章 試行錯誤の3年間―今後の展望	
日本における「障害」の展示―事業の経緯と「障害」の展示の整理―	52 頁
守れ！文化財～モノとヒトに光を灯す～ 展示案（20211022・20220307）	62 頁
シンポジウム「守れ！文化財～モノとヒトに光を灯す～」開催報告	66 頁
3年目を振り返り、そして4年目へ	70 頁
資料編	
シンポジウムチラシ	
ワークショップ「手から味わう お茶会」チラシ	

ス 研究協力一覧

協力者	協力事業	協力先	期間
西田泰民	「文化財科学」編集委員	日本文化財科学会	
西田泰民	長岡市文化財保護審議会委員	長岡市教育委員会	
浅井勝利	下割遺跡出土木簡調査	(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団	8月6日～23日
浅井勝利	菅田遺跡出土墨書土器調査	新発田市教育委員会	8月
浅井勝利	馬場・天神腰遺跡出土木簡調査	柏崎市教育委員会	9月
浅井勝利	丘江遺跡出土木製品調査	(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団	1月
山本哲也	博物館研究編集委員	日本博物館協会	
山本哲也	國學院大學博物館共同研究員	國學院大学博物館	
宮尾 亨	史跡整備委員会	十日町市教育委員会	令和3年度
宮尾 亨	史跡確認調査指導委員会	津南町教育委員会	令和3年度
渡部浩二	歴史の道八十里越調査保存整備検討委員会	只見町教育委員会	令和3年4月1日～令和5年3月31日
渡部浩二	世界遺産室客員研究員（石見銀山遺跡調査研究）	島根県教育委員会	令和3年4月～令和6年3月
渡部浩二	日本鉱業史研究会理事	日本鉱業史研究会	
前嶋 敏	中央史学会評議員	中央史学会	
田邊 幹	地域における歴史文化研究拠点の構築	人間文化研究機構	
橋詰 潤	新潟県考古学会役員	新潟県考古学会	
橋詰 潤	ジオパーク支援委員会委員	日本第四紀学会	
橋詰 潤	日本ジオパーク委員会委員	日本ジオパーク委員会	
橋詰 潤	白滝ジオパーク推進協議会国際黒曜石会議学術運営部会委員	白滝ジオパーク推進協議会	
橋詰 潤	黒姫山共同開発に対する学術調査委員会委員	糸魚川ジオパーク協議会	
橋詰 潤	日本第四紀学会選挙管理委員会委員	日本第四紀学会	4月1日～7月31日
橋詰 潤	新版地学辞典増補・編集委員会項目選定委員	地学団体研究会	2月～
三国信一	新潟県民具学会監事	新潟県民具学会	
大楽和正	日本民俗学会評議員	日本民俗学会	
大楽和正	日本民具学会評議員	日本民具学会	
大楽和正	新潟県民俗学会理事	新潟県民俗学会	
大楽和正	新潟県石仏の会事務局広報委員	新潟県石仏の会	
大楽和正	新潟県民具学会事務局	新潟県民具学会	

セ 展示等協力

協力者	協力事業	協力先	期間
山本哲也	企画展「寺泊水族館 90 年のあゆみ」	長岡市立寺泊水族博物館	8 月 7 日～11 月 2 日
山本哲也	企画展「博覧会の世紀 1851-1970」	長崎歴史文化博物館	10 月 2 日～11 月 28 日
田邊 幹	山本五十六記念館展示企画委員	特定非営利活動法人 山本元帥景仰会	令和 3 年 4 月 19 日～令和 5 年 4 月 18 日
田邊 幹	阪之上小学校伝統館運営委員	長岡市立阪之上小学校	4 月 1 日～3 月 31 日

ソ 講演等一覧

講演者	講演タイトル	講座名等	会場	期日
浅井勝利	新潟の温泉をひもとく	にしかん倫理法人会	巻支部建設会館	4 月 1 日
浅井勝利	淳足柵・磐舟柵造営の意義	埋蔵文化財センター講演会	埋蔵文化財センター	11 月 21 日
浅井勝利	古代の沼垂郡	東区歴史文化シンポジウム	東区プラザホール	2 月 12 日
宮尾 亨	縄土器土偶の魅力	日経セミナー JOMON を知る	日経ホール	10 月 1 日
宮尾 亨	火焰土器にみる縄文人の思考	長岡市倫理法人会モーニングセミナー	長岡グランドホテル	2 月 15 日
渡部浩二	歴史の道八十里越と石仏	新潟県石仏の会令和 3 年度総会公開講演会	ながおか市民協働センター	5 月 16 日
渡部浩二	佐渡鉢山絵巻から読み解く鉢山技術とその史料価値		日本銀行貨幣博物館	10 月 11 日
前嶋 敏	清傳寺文書について	『越後の願生寺安心事件-清傳寺文書群-』刊行記念講演会	セレモニーホール「飛燕」	10 月 11 日
前嶋 敏	御館の乱について	上越歴史語りの会講演会	上越市直江津学びの交流館	10 月 18 日
前嶋 敏	新潟県の至宝 越後文書室翰集の世界	「生誕 120 年・没後 30 年 反町茂雄文庫展」関連講演会	長岡市立中央図書館	12 月 5 日
前嶋 敏	武士の家系図	米山コミュニティセンター講演会	米山コミュニティセンター	12 月 21 日
前嶋 敏	奥羽仕置と上杉氏	上越歴史語りの会講演会	上越市直江津学びの交流館	1 月 24 日
田邊 幹	問題提起 北前船が変えたもの-交易のあり方、広域の視点から-	座談会「糸魚川市の北前船と廻船業-糸魚川における海の営みを追求する-」	糸魚川市民会館	6 月 12 日
田邊 幹	長岡藩銃卒の出陣日誌からみた長岡城攻防戦	古文書に見る長岡のすがた	長岡市中央公民館	11 月 23 日
田邊 幹	長岡藩銃卒の出陣日誌からみた長岡城攻防戦	古文書に見る長岡のすがた	長岡市立中央図書館	11 月 28 日
田邊 幹	山本五十六の国葬	長岡市ボランティアガイド研修会	長岡市中央公民館	12 月 18 日
田邊 幹	山本五十六の国葬-英雄になった山本五十六とその遺族-	ながおか学カフェ	まちなかキャンパス長岡	2 月 9 日
田邊 幹	中越大地震における文化財レスキュー	市町村等埋蔵文化財専門職員実務研修	オンライン	2 月 17 日
三国信一	先駆樹木とまじない	KYOTO STEAM OKAZAKI MARKET+ 「きっかけの発見」トーク・プログラム③「科学とまじない-願いを込める力」	ロームシアター京都	12 月 26 日
大楽和正	新潟県の歴史-食文化を中心に-	シニアカレッジ新潟	アトリウム長岡	7 月 12 日
大楽和正	新潟の食と民俗	新潟市文化財センター民俗講座	新潟市文化財センター	11 月 27 日
大楽和正	佐渡の食～海藻を食べるとのこと～	博物館カフェ特別講座	佐渡博物館	1 月 12 日

タ その他

氏名	内容	場所等	期日	備考
山本哲也	國學院大學大学院修士論文副査	國學院大學	2 月	

(5) 被災文化財の救済活動

ア 中越大震災・中越沖地震

平成16年10月23日の中越大震災以降、当館では地域貢献の一環として災害復興への一翼を担うべく、各市町村教育委員会や新潟歴史資料救済ネットワークと連携して、地域の資料の救済（一時預かり）を行っている。

新潟県中越大震災

所蔵者	資料	状態
(個人)	屏風	一時預かり継続中
(個人)	屏風・軸装品・古文書・焼物・漆器	一時預かり継続中
薬師堂(野田)	薬師如来像、薬師堂関連写真(乾板含)、薬師堂建築部材等	一時預かり継続中

新潟県中越沖地震

所蔵者	資料	状態
二田物部神社	狛犬、徳川朱印状ほか 約700点	一時預かり継続中
超願寺	古文書19通、什器13件	一時預かり継続中

イ 新潟・福島豪雨

平成23年7月の新潟・福島豪雨により、南魚沼市雲洞の雲洞庵が被災した。雲洞庵からの依頼により、古文書等を一時預かり、新潟歴史資料救済ネットワークと連携して吸水乾燥・クリーニングなどの処置を実施している。

(6) 新潟県地域史研究ネットワーク

県内歴史研究のセンター的役割を果たすため、県内の地域史関係者及び郷土史研究団体のネットワーク形成と、それに伴う関連情報の集約と発信を担う組織として、平成22年度末に「新潟県地域史研究ネットワーク」を立ち上げた。

令和3年度は、趣旨に賛同する25団体の協力を得て、以下の事業を事務局として実施した。

- ・SNS (Facebook、Twitter等) による情報の発信。
- ・「新潟県地域史研究ネットワークニュース」の発行(毎月、新潟県地域史に関する研究情報等を集約し、会員各団体に送付。)
- ・「新潟県地域史関係文献目録」(『研究紀要』に1年間の地域史研究に関する文献目録を掲載。)

2 交流普及事業概要

(1) 講座

当館研究員の「調査・研究」活動の成果を広く県民に普及する場として、また、県民の多様なニーズに即した生涯学習の場とするため、講座を開講している。館内講座・出前講座を合わせ、合計で1,624人の参加を得た。

① 館内講座

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により人数に制限を設けて実施したほか、9月の臨時休館中の講座を延期して開催した。また、2月の体験講座は中止とした。その結果、講演会・講座・体験型講座を計37回開催した。内容及び担当者・参加人数は下表のとおりであり、合計で716人の参加を得た。

	月 日	曜日	内容	担当者	人数
1	5月15日	土	国際博物館の日記念「博覧会と博物館」	山本 哲也	32
2	5月30日	日	企画展記念講演会「昭和25年の新潟産業博覧会 ～長岡博の開催と戦災復興～」	田中 洋史・安達 良平 (長岡市立中央図書館文書資料室)	58
3	6月5日	土	日本列島周辺の最古の土器	橋詰 潤	14
4	6月12日	土	地域の資料館へ行って 生活道具をウォッチング : 津南町歴史民俗資料館	陳 玲	6
5	6月19日	土	ここまで明らかになった新潟のえご	大楽 和正	15
6	6月26日	土	地域の資料館へ行って 生活道具をウォッチング : 新潟市北区郷土資料館	陳 玲	8
7	7月10日	土	地域の資料館へ行って 生活道具をウォッチング : 三条市下田資料館	陳 玲	10
8	7月18日	日	企画展記念講演会「法華経の旅人」	中尾 堯 (立正大学名誉教授)	77
9	7月24日	土	博物館のうらがわ探検ツアー	三国 信一	6
10	7月31日	土	石器鑑賞入門「石でつくられた道具たち」	橋詰 潤	17
11	8月4日	水	作ってみよう『本格まが玉』	山本 哲也	9
12	8月21日	土	自分の指のレプリカを作ってみよう①	山本 哲也	12
13	8月21日	土	自分の指のレプリカを作ってみよう②	山本 哲也	13
14	8月22日	日	自分の指のレプリカを作ってみよう③	山本 哲也	6
15	8月22日	日	企画展記念講演会「日蓮伝承と霊場の形成－佐渡・越後・甲斐－」	望月 真澄 (身延山大学教授)	46
	9月11日	土	氷河期の新潟県の人のからし (延期)	橋詰 潤	
16	9月18日	土	明治前期新潟の外国商人	西田 泰民	12
17	10月2日	土	七夕と盆	三国 信一	28
18	10月10日	日	トークライブ「糸魚川市百川の小正月行事」	三国 信一	19
19	10月16日	土	日待と月待－石仏が語る信仰－	大楽 和正	39
20	10月23日	土	はじめての『くずし字』－古文書を読む前に－①	本多 園子	9
21	10月23日	土	はじめての『くずし字』－古文書を読む前に－②	本多 園子	16
22	10月30日	土	女性天皇の歴史	浅井 勝利	28
23	11月13日	土	古文書講座～古文書読解のツボ～①	田邊 幹	15
24	11月20日	土	古文書講座～古文書読解のツボ～②	田邊 幹	14
25	11月27日	土	古文書講座～古文書読解のツボ～③	田邊 幹	16
26	12月4日	土	古文書講座～古文書読解のツボ～④	田邊 幹	16
27	12月11日	土	越後地域近世近代窯跡の調査 (1回目)	西田 泰民	14
28	12月18日	土	古文書講座～江戸時代を探る～前編	渡部 浩二	9
29	12月25日	土	古文書講座～江戸時代を探る～後編	渡部 浩二	13
30	1月8日	土	氷河期の新潟県の人のからし	橋詰 潤	28
31	1月29日	土	古文書講座～越後文書宝翰集を読み解く～前編	前嶋 敏	14
32	2月2日	水	越後地域近世近代窯跡の調査 (2回目)	西田 泰民	21
33	2月5日	土	古文書講座～越後文書宝翰集を読み解く～後編	前嶋 敏	11

34	2月12日	土	考古学と芸術と縄文土器	宮尾 亨	24
	2月19日	土	火焰土器の突起をつくる(中止)	宮尾 亨	
	2月26日	土	縄をつくる・縄文をつくる(中止)	宮尾 亨	
35	3月5日	土	映像鑑賞と解説『佐渡の文弥人形』	大楽 和正	16
36	3月12日	土	村上藩主松平直矩の鷹・鷹狩りと動物	渡部 浩二	24
37	3月26日	土	作ってみよう『本格まが玉』(春の部)	山本 哲也	1

② 出前講座

令和3年度は、15の市町村で計33回にわたり開催した。内容及び担当者・参加人数は下表のとおりであり、合計で914人の参加を得た。

	月日	曜日	会場	内容	担当者	人数
1	5月18日	火	米山コミュニティセンター	長岡藩の一兵士の日記にみる北越戊辰戦争	田邊 幹	16
2	5月22日	土	胎内市美術館	採集狩猟民の知識	西田 泰民	17
3	6月24日	木	小千谷市民会館	年中行事と人々の認識	三国 信一	23
4	6月28日	月	三条市中央公民館	はにわとどぐう・オリンピックとパンパク	宮尾 亨	70
5	7月1日	木	小千谷市民会館	新潟の石仏	大楽 和正	24
6	7月15日	木	上川西コミュニティセンター	双子の考古学	西田 泰民	50
7	7月18日	日	見附市今町公民館	尾張藩銃士隊士の北越戊辰戦争従軍日記	田邊 幹	45
8	7月21日	水	井栗公民館	えご食文化を語る	大楽 和正	15
9	7月22日	木	五泉市総合会館	火焰土器の鶏頭冠をつくる	宮尾 亨	16
10	7月27日	火	燕市中央公民館	戦国時代の女	前嶋 敏	25
11	7月29日	木	見附市中央公民館	作ってみよう(本格まが玉)	山本 哲也	17
12	7月31日	土	新発田市駅前複合施設 (イクネスしばた)	火焰土器の鶏頭冠をつくる	宮尾 亨	16
13	8月3日	火	出雲崎町中央公民館	はにわとどぐう・オリンピックとパンパク	宮尾 亨	25
14	8月30日	月	枇杷島コミュニティセンター	ハンコの歴史	浅井 勝利	12
15	9月27日	月	見附市ふぁみりあ	新潟の縄文文化	宮尾 亨	38
16	9月30日	木	新潟市生涯学習センター	近現代の災一信濃川の洪水一	田邊 幹	66
17	10月7日	木	新発田市生涯学習センター	明治英文旅行ガイドに見る新潟	西田 泰民	36
18	10月13日	水	新発田地区公民館	プラネタリウム誕生の歴史と未来	山本 哲也	13
19	10月20日	水	見附市中央公民館	戦国時代の女	前嶋 敏	20
20	10月20日	水	山通コミュニティセンター	氷河末期のハンターたち	橋詰 潤	16
21	10月23日	土	新津図書館	江戸時代の越後国絵図	渡部 浩二	38
22	10月26日	火	中島コミュニティセンター	世界の中の北越戊辰戦争	田邊 幹	18
23	11月4日	木	葛巻公民館	江戸時代の旅と越後の観光名所	渡部 浩二	18
24	11月5日	火	青葉台コミュニティセンター	河童が教えてくれた菓	大楽 和正	9
25	11月6日	土	あいぼーと佐渡	越後・佐渡の古代を語る ～東北史の視点から～	浅井 勝利	68
26	11月6日	土	深沢コミュニティセンター	長岡藩の一兵士の日記にみる北越戊辰戦争	田邊 幹	47
27	11月12日	金	佐々木コミュニティセンター	まつりの食文化	大楽 和正	9
28	11月16日	火	入広瀬公民館	長岡藩の一兵士の日記にみる北越戊辰戦争	田邊 幹	25
29	11月20日	土	剣野コミュニティセンター	縄をつくる	宮尾 亨	13
30	12月5日	土	根知地区公民館	七夕と盆	三国 信一	26
31	12月13日	月	市民交流施設 高田城址公園 オーレンプラザ	武士の家系図	渡部 浩二	31
32	2月5日	土	新発田市立歴史図書館	武器商人スネル関係書を読む	西田 泰民	22
33	3月5日	土	北谷公民館	はにわとどぐう・オリンピックとパンパク	宮尾 亨	30

③ サイノカミ

開館した平成12年度より、関原町サイノカミ有志の会と協働で、毎年小正月の時期の日曜日に新潟県の冬の民俗行事「サイノカミ」を実施している。これまでの実施期日、参加者数は以下のとおりである。

なお、令和2年度は当初1月17日に実施予定のところ、約1週間前の大雪の影響で2月に延期した。また、令和2・3年度は新型コロナウイルス感染症拡大予防のため当館HP以外の広報を行わず、参加者数は伸びなかった。

年度	期日	参加者数	年度	期日	参加者数
H12年度	H13年1月14日	230人	H23年度	H24年1月15日	750人
H13年度	H14年1月13日	750人	H24年度	H25年1月13日	750人
H14年度	H15年1月12日	620人	H25年度	H26年1月12日	500人
H15年度	H16年1月11日	520人	H26年度	H27年1月11日	500人
H16年度	H17年1月16日	800人	H27年度	H28年1月17日	650人
H17年度	H18年1月15日	760人	H28年度	H29年1月15日	500人
H18年度	H19年1月14日	780人	H29年度	H30年1月14日	600人
H19年度	H20年1月13日	800人	H30年度	H31年1月13日	700人
H20年度	H21年1月11日	500人	R1年度	R2年1月12日	800人
H21年度	H22年1月17日	700人	R2年度	R3年2月28日	200人
H22年度	H23年1月16日	500人	R3年度	R4年1月16日	240人



令和4年1月16日のサイノカミ

(2) 体験プログラム

新型コロナウイルス感染症が終息しない状況のため、昨年度に引き続き体験コーナー（常設展示室内の「雪とくらし」と「米づくり」の間にある20畳敷きの部屋）での実施を基本的に見合わせ、研修室を使用、当初は原則日曜日開催とした。ただし、サイノカミ実施日のほか、研修室使用の他の事業が入っている日は休止とした。なお、9月前半は「まが玉を作ろう」を予定していたところ、新潟県独自の新型コロナウイルス感染症拡大に伴う特別警報に当たっての臨時休館により中止となった。

また、令和2年度には新型コロナウイルス感染症により中止とした夏休み特別体験を実施した。

さらに、3月の土曜日に上記体験コーナーを使用しての試着体験（甲冑・平安貴族）を、家族を基本とする各1組限定の申し込み制で実施した（午前に甲冑、午後平安貴族で、令和4年度4月16日まで実施）。なお、当初2月初旬からの開始を予定したが、まん延防止等重点措置の適用を受け、また同措置の延長もあり2度の延期を経て3月12日からの開始となった。ただし、広報が開始間際になったせいか、最初の2日間分は申し込みがなく、当日受付も可としたものの参加者は得られなかった。

体験プログラム実施に当たっての新型コロナウイルス感染症の基本の対策は以下の通り。

- ・基本的に換気環境が確保できる研修室を会場とする（研修室の扉を開放し扇風機により常時換気）。
- ・一時の参加者在室人数を20人に制限。
- ・使用する道具は消毒して使用。
- ・手指消毒用アルコールを準備。また、手指消毒協力への声かけの実施。
- ・来館者カードを用意し、来館者の住所、氏名・人数等、感染者発生の際の連絡先を記入。

以上のもと実施した体験プログラムの内容・日時等は下記のとおりである。53回実施し、総計で811人の参加を得た。

- ① まが玉を作ろう（7回、計183人）
滑石を削り、縄文時代～古墳時代の人々が身につけていたまが玉を作る体験。
- ② 博覧会缶バッジを作ろう（2回、83人）
春季企画展「博覧会の世紀 1851-1970」にあわせ、展示資料の画像を使用して缶バッジを作る体験。
- ③ ミニペナントをつくろう！（4回58人）
博覧会などでもよくおみやげとして売られたペナントを、しおりやハガキとなるミニペナントとして製作する体験。
- ④ 縄文模様コロコロ体験！（6回、計110人）
縄文文様をオープン粘土につけて加熱し、土器のミニチュアを作る体験。
- ⑤ 織物模様プラ板ストラップを作ろう！（5回、計105人）
江戸時代の織物模様をプラスチックの板に写し、ストラップにする体験。
- ⑥ 紙芝居読み聞かせ（1回、10人）
紙芝居「長岡空襲 みちこのいのち 長岡空襲体験者・七里アイさんの証言より」と大型絵本「かわいそうなぞう」の読み聞かせ。
- ⑦ ミニ灯籠を作ろう（2回、計29人）
灯籠流しで使用するサイズよりも小さめの灯籠を作る体験。
- ⑧ 七夕 雛人形作り（5回、計48人）
秋季テーマ展示「四季のくらし、小さなまつり—新潟県の年中行事—」にあわせ、折り紙や半紙を使って、胎内市村松浜に伝わる七夕雛人形を作る体験。
- ⑨ ミニ石仏作り（5回、計41人）
滑石を彫ってミニ石仏を作る体験。
- ⑩ 切り紙で正月飾り（2回、計33人）
切り紙で正月飾りの「はかま紙」を作る体験。

⑪ 焼き物の模様でプラ板ストラップ（4回、計51人）

冬季テーマ展示「やきもの産地・新潟」にあわせ、伝統的に焼き物に描かれた模様をプラスチックの板に写し、ストラップにする体験。

⑫ 謙信・兼続に変身（3回、計5人）

上杉謙信や直江兼続の鎧（※模造品）を身に付けて、戦国武将に変身する体験。

⑬ 平安貴族に変身（3回、計2人）

桂・狩衣を着る体験。

⑭ 夏休み特別体験「刺し子に挑戦」「まが玉作り」（4回、計53人）

夏休みの4日限定で行う体験。1・4日目は「刺し子に挑戦 2回、11人」、2・3日目は「まが玉作り2回、42人」。なお、「刺し子に挑戦」は、歴博ボランティア企画として実施したものである。

月 日	曜日	体験プログラム	参加人数
4月4日	日	まが玉作り	35
4月11日	日	まが玉作り	21
4月18日	日	まが玉作り	28
5月2日	日	博覧会缶バッジを作ろう	78
5月9日	日	博覧会缶バッジを作ろう	5
5月16日	日	ミニペナントをつくろう！	7
5月23日	日	ミニペナントをつくろう！	14
5月30日	日	ミニペナントをつくろう！	21
6月6日	日	ミニペナントをつくろう！	16
6月13日	日	縄文文様コロコロ体験	17
6月20日	日	縄文文様コロコロ体験	16
7月4日	日	縄文文様コロコロ体験	33
7月11日	日	織物模様プラ板ストラップを作ろう！	32
7月18日	日	織物模様プラ板ストラップを作ろう！	19
7月25日	日	織物模様プラ板ストラップを作ろう！	12
7月28日	水	夏休み特別体験「刺し子に挑戦」	2
8月1日	日	紙芝居読み聞かせ	10
8月3日	火	夏休み特別体験「まが玉を作ろう」	9
8月5日	木	夏休み特別体験「まが玉を作ろう」	33
8月6日	金	夏休み特別体験「刺し子に挑戦」	9
8月8日	日	ミニ灯籠を作ろう	21
8月15日	日	ミニ灯籠を作ろう	8
8月22日	日	織物模様プラ板ストラップを作ろう！	29
8月29日	日	織物模様プラ板ストラップを作ろう！	13
9月5日	日	まが玉を作ろう	中止
9月12日	日	まが玉を作ろう	中止
9月19日	日	七夕 雛人形作り	5

9月26日	日	七夕 雛人形作り	10
10月3日	日	七夕 雛人形作り	9
10月24日	日	七夕 雛人形作り	16
10月31日	日	七夕 雛人形作り	8
11月7日	日	ミニ石仏作り	6
11月14日	日	ミニ石仏作り	2
11月21日	日	切り紙で正月飾り	12
11月28日	日	切り紙で正月飾り	21
12月5日	日	ミニ石仏作り	14
12月19日	日	ミニ石仏作り	9
12月26日	日	ミニ石仏作り	10
1月9日	日	縄文文様コロコロ体験	16
1月23日	日	縄文文様コロコロ体験	17
1月30日	日	縄文文様コロコロ体験	11
2月6日	日	焼き物の模様でプラ板ストラップ	16
2月13日	日	焼き物の模様でプラ板ストラップ	10
2月20日	日	焼き物の模様でプラ板ストラップ	3
2月27日	日	焼き物の模様でプラ板ストラップ	22
3月6日	日	まが玉を作ろう	26
3月12日	土	「謙信・兼続に変身」	0
3月12日	土	「平安貴族に変身」	0
3月13日	日	まが玉を作ろう	25
3月19日	土	「謙信・兼続に変身」	0
3月19日	土	「平安貴族に変身」	0
3月20日	日	まが玉を作ろう	24
3月26日	土	「謙信・兼続に変身」	5
3月26日	土	「平安貴族に変身」	2
3月27日	日	まが玉を作ろう	24

(3) 視察・団体受け入れ状況

観覧料等免除申請書（新潟県立歴史博物館規則第9条第1項に基づく第4号様式）や視察依頼書等、または電話により受け入れた視察・団体について、小学校（延べ115校4,216人）中学校（延べ39校1,784人）高校（延べ17校1,577人）特別支援学校（延べ10校152人）大学（延べ8校101人）、幼稚園・保育園（延べ4園136人）その他（延べ132団体1,299人）に分けて表に示す。人数はできる限り実際の数値としたが、実数が確認できず、申請書等の記載によるものも含まれる。なお、職場体験で館内見学・作業等を実施した学校団体、当館主催の日本博事業参加者を含む。

(小学校)

No	月	日	曜	団体	人数	案内	質問	観音	鑑賞	体験	備考
1	5月	1日	土	柏崎・内郷小職員	1	○	○				下見
2	5月	7日	金	三条・栄中央小6年	48	○	○			○	まが玉
3	5月	13日	木	燕・島上小6年	29	○	○				
4	5月	25日	火	見附・葛巻小6年①	31	○	○			○	まが玉
5	5月	28日	金	柏崎・内郷小6年	13	○	○				
6	5月	28日	金	小千谷・南小6年	20	○	○			○	まが玉
7	5月	29日	土	柏崎・日吉小職員	1	○	○				下見
8	6月	3日	火	長岡・栃尾東小6年	47	○	○			○	まが玉
9	6月	4日	水	長岡・栃尾南小6年	47	○	○			○	まが玉
10	6月	3日	木	長岡・宮本小5・6年	18	○	○				
11	6月	4日	金	見附・葛巻小6年②	30	○	○			○	まが玉
12	6月	3日	土	上越・上下浜小職員	1						視察
13	6月	4日	日	魚沼・湯之谷小職員	1	○	○				下見
14	6月	3日	火	長岡・和島小6年	31	○	○			○	まが玉
15	6月	4日	火	見附・葛巻小6年③	27	○	○			○	まが玉
16	6月	3日	水	刈羽・刈羽小6年	44	○	○				
17	6月	4日	水	長岡・日吉小6年	12	○	○			○	まが玉
18	6月	3日	水	上越・上杉小6年	15	○	○				
19	6月	10日	木	長岡・小国小6年	23	○	○			○	まが玉
20	6月	12日	土	三条・保内小職員	1	○	○				視察
21	6月	15日	火	三条・嵐南小6年①	62	○	○			○	まが玉
22	6月	15日	火	三条・西鶴田小6年	32	○	○			○	まが玉
23	6月	16日	水	三条・嵐南小6年②	32	○	○			○	まが玉
24	6月	16日	水	柏崎・日吉小6年	27	○	○			○	まが玉
25	6月	17日	木	長岡・宮内小6年	105	○	○				
26	6月	17日	木	長岡・太田小2～6年	18		○				
27	6月	17日	木	長岡・神田小4年	25	○	○			○	まが玉
28	6月	18日	金	加茂・加茂西小5・6年	23	○	○				
29	6月	18日	金	三条・嵐南小6年③	60	○	○			○	まが玉
30	6月	18日	金	長岡・栖吉小6年	74	○	○			○	まが玉
31	6月	23日	水	長岡・日越小6年	65	○	○			○	まが玉
32	6月	23日	水	燕・燕南小6年	40	○	○			○	まが玉
33	6月	24日	木	長岡・前川小6年	39	○	○			○	まが玉
34	6月	24日	木	長岡・下川西小6年	11	○	○			○	まが玉
35	6月	25日	金	柏崎・榎原小6年	26	○	○			○	まが玉
36	6月	25日	金	小千谷・片貝小6年	38	○	○			○	
37	6月	25日	金	三条・保内小6年	15	○	○			○	まが玉
38	6月	26日	土	東京・武蔵野市立第一小職員	4	○	○				下見
39	6月	26日	土	長岡・中島小職員	1	○	○				下見
40	6月	29日	火	柏崎・柏崎小6年	66	○	○			○	
41	6月	30日	水	柏崎・鯖石小5・6年	16	○	○				
42	6月	30日	水	長岡・脇野町小6年①	25	○	○				
43	6月	30日	水	長岡・脇野町小6年②	25	○	○				
44	7月	1日	木	長岡・豊田小6年	64	○	○			○	まが玉
45	7月	1日	木	見附・田井小6年	12	○	○				
46	7月	2日	金	長岡・黒条小5年	115	○	○			○	
47	7月	2日	金	弥彦小6年	97	○	○				
48	7月	6日	火	長岡・中島小6年	40	○	○			○	まが玉
49	7月	6日	火	長岡・新組小6年	19	○	○				
50	7月	7日	水	長岡・石坂小3～6年	23	○	○			○	まが玉
51	7月	8日	木	南魚沼・城内小6年	45	○	○			○	まが玉
52	7月	9日	金	加茂・石川小6年	44	○	○			○	まが玉
53	7月	9日	金	三条・栄中央小1年	38	○	○				
54	7月	10日	土	長岡・富留小職員	2	○	○				下見
55	7月	13日	火	三条・大面小6年	27	○	○			○	まが玉
56	7月	14日	水	柏崎・大洲小6年	17	○	○			○	まが玉
57	7月	21日	水	長岡・富留小6年	92	○	○				

58	7月	24日	土	東京都文京区籠籠町小職員	2	○	○				下見
59	7月	29日	木	東京都武蔵野市立第三小職員	5	○	○				下見
60	7月	30日	金	群馬・前橋・清里小職員	1	○	○				下見
61	8月	6日	金	柏崎・枇杷島小職員	1	○	○				
62	8月	26日	木	柏崎・剣野小6年	56	○	○				
63	8月	26日	木	新潟・金津小職員	3	○	○				下見
64	8月	27日	金	長岡・栖吉小2年	54	○	○		○		
65	9月	17日	金	新潟・金津小6年	44	○	○				
66	9月	22日	水	長岡市ランド・リールム(小)	10	○	○				
67	9月	29日	水	柏崎・二田小6年	27	○	○				
68	10月	2日	木	新潟・葛塚小6年①	50	○	○				
69	10月	2日	木	新潟・葛塚小6年②	49	○	○				
70	10月	6日	水	南魚沼・浦佐小6年	30	○	○			○	まが玉
71	10月	7日	木	南魚沼・三用小6年	11	○	○				
72	10月	7日	木	長岡・黒条小職員	1	○	○				
73	10月	13日	水	新潟・万代長峰小6年	67	○	○			○	まが玉
74	10月	14日	木	長岡・関原小6年	81	○	○				
75	10月	16日	土	東京・江戸川区・南小岩小職員	6	○	○				
76	10月	16日	土	長岡・豊田小職員	1	○	○				
77	10月	17日	日	長岡・豊田小職員	1	○	○				
78	10月	22日	金	長岡・豊田小3年	100	○	○				
79	10月	26日	火	村上・村上南小6年	52		○				
80	10月	26日	火	新潟・木戸小6年	81	○	○			○	まが玉
81	10月	29日	金	やすづか学園(小)	9		○				
82	11月	2日	火	新潟・葛塚東小6年①	62	○	○				
83	11月	2日	火	新潟・葛塚東小6年②	62	○	○				
84	11月	4日	木	十日町・松之山学園5・6年	9	○	○				
85	11月	4日	木	東京・武蔵野・第一小5年	21	○	○		○		
86	11月	5日	金	長岡・表町小6年	28	○	○			○	まが玉
87	11月	9日	火	長岡・希望が丘小3年	51	○	○			○	雪道具
88	11月	9日	火	胎内・中条小6年	76		○				
89	11月	9日	火	長岡・黒条小職員	1	○	○				
90	11月	10日	水	三条・大崎学園6年	93	○	○				
91	11月	11日	木	群馬・片品小6年	36	○	○				
92	11月	11日	木	妙高・新井中央小6年	62	○	○			○	まが玉
93	11月	11日	木	上越・清里小6年	23		○				
94	11月	11日	木	東京・武蔵野・第三小5年	87	○	○			○	まが玉
95	11月	12日	金	糸魚川・西海小6年	17	○	○				
96	11月	19日	金	長岡・十日町小6年	17	○	○				
97	11月	19日	金	南魚沼・城内小3年	51	○	○			○	雪道具
98	11月	24日	水	長岡・大島小3年	123	○	○			○	
99	11月	26日	金	長岡・小国小3年	25	○	○			○	雪道具
100	11月	30日	火	長岡・中島小3年	24	○	○			○	昔遊び
101	12月	3日	金	長岡・川崎小3年	48	○	○			○	
102	12月	14日	火	長岡・宮内小3年	76	○	○			○	雪道具
103	12月	15日	水	長岡・宮内小5年	86	○	○				
104	12月	16日	木	長岡・柿小3・4年	34	○	○			○	雪道具
105	12月	17日	金	長岡・千手小3年	62	○	○			○	昔遊び
106	1月	19日	水	小千谷・南小3年	12	○	○			○	雪道具
107	1月	20日	木	長岡・上組小3年	70	○	○			○	
109	2月	1日	火	長岡・日越小3年2ｸﾗｽ	47	○	○			○	
110	2月	2日	水	三島・出雲崎小3年	32	○	○			○	雪道具
111	2月	3日	木	長岡・岡南小3年	15	○	○			○	雪道具
112	2月	9日	水	長岡・日越小3年1ｸﾗｽ	28	○	○			○	
113	2月	23日	水	江戸川区・南小岩小5年	76	○	○			○	
114	2月	24日	木	小千谷・和泉小3年	19	○	○			○	雪道具
115	3月	10日	木	長岡・山古志小3・4年	6		○			○	昔遊び
合 計					4,216	108	114	1	11	48	

(中学校)

No	月日	曜	団体	人数	案内	質問	解器	聴感	体験	備考
1	4月14日	木	佐渡・南佐渡中3年	47	○	○				
2	4月21日	水	新潟・白南中3年	48						
3	4月22日	木	新潟・大江山中3年	60						
4	4月30日	金	三条・本成寺中職員	1	○	○				下見
5	5月12日	水	新潟・坂井輪中	66	○	○			○	まが玉
6	5月14日	金	新潟・月潟中2年	3	○	○				
7	5月18日	火	新潟・西川中3年	92						
8	5月21日	金	新潟・木戸中2年	27		○				
9	5月26日	水	三条・本成寺中1年	108			○		○	まが玉
10	7月6日	火	長岡・大島中2年	4						職場体験
11	7月7日	水	長岡・大島中2年	4						職場体験
12	7月7日	水	長岡・堤岡中2年	5						職場体験
13	7月8日	木	長岡・堤岡中2年	5						職場体験
14	7月9日	金	新潟・関屋中3年	27						
15	9月22日	水	長岡市リトル・ルーム(中)	10	○	○				
16	9月29日	水	長岡・西中2年	2						職場体験
17	9月29日	水	長岡・東中2年	6		○				
18	9月30日	水	長岡・西中2年	3						職場体験
19	10月1日	木	長岡・西中2年	2						職場体験
20	10月5日	火	新潟・小合中3年	23	○	○				
21	10月5日	火	阿賀野・水原中1年	30	○	○				
22	10月6日	水	新潟・内野中希望が丘分校	12	○	○	○		○	まが玉
23	10月7日	木	三条・第三中3年	106	○	○				
24	10月7日	木	新潟・松浜中3年	37	○	○				
25	10月29日	金	阿賀・三川中	21		○				
26	10月29日	金	ヤサづか学園(中)	13		○				
27	11月9日	火	福島・会津美里・新鶴中3年	40		○				
28	11月16日	火	東京・足立区・江北桜中2年	131		○	○	○		
29	11月19日	金	東京・足立区・第七中2年	134		○	○			
30	11月23日	火	東京・足立区・第一中2年	105		○				
31	12月2日	木	東京・足立区・伊興中2年	75		○	○			
32	12月2日	木	東京・足立区・入谷南中2年	140						
33	12月4日	土	東京・足立区・東島根中2年	129		○	○			
34	3月4日	金	県立直江津中等教育学校1年①	39		○				
35	3月4日	金	県立直江津中等教育学校1年②	37		○				
36	3月9日	水	胎内・築地中2年	32	○	○				
37	3月11日	金	五泉・五泉中2年①	64	○	○				
38	3月11日	金	五泉・五泉中2年②	64	○	○				
39	3月15日	火	燕・分水中	32		○				
合計				1,784	13	26	6	1	3	

(高等学校)

No	月日	曜	団体	人数	案内	質問	解器	聴感	体験	備考
1	4月16日	金	高田北城高校2年	246						
2	4月18日	日	北越高校職員	1	○	○				下見
3	4月20日	火	北越高校	204			○			
4	4月30日	金	新潟翠江高校1年	34					○	まが玉
5	5月2日	日	新潟商業高校職員	1	○	○				下見
6	5月19日	水	新潟商業高校2年1~4組	172						
7	5月19日	水	新潟商業高校2年5~8組	165						
8	7月16日	金	東京学館新潟高校3年①	71						
9	7月16日	金	東京学館新潟高校3年②	73						
10	10月19日	火	東京学館新潟高校2年	44						
11	11月5日	金	小千谷西高校1年	42						
12	11月26日	金	八海高校2年	33						
13	12月2日	木	新潟西高校	37						
14	12月9日	木	新井高校2年	79						
15	12月9日	木	新潟東高校2年①	124						
16	12月9日	木	新潟東高校2年②	164						
17	12月10日	金	新潟市立明鏡高校3年	87						
合計				1,577	2	2	1	0	1	

(特別支援学校等)

No	月日	曜	団体	人数	案内	質問	解器	聴感	体験	備考
1	4月2日	金	新潟市立東特別支援学校	4	○	○				下見
2	4月21日	水	新潟県立盲学校	21						加味ド
3	5月21日	金	長岡市立高等総合支援学校	53						
4	6月17日	木	小千谷市立総合支援学校小学部5・6年	6					○	まが玉
5	8月27日	金	新潟田代特別支援学校職員	3	○	○				下見
6	11月30日	火	長岡聾学校3年	5	○	○			○	昔遊び
7	12月2日	木	新潟田代特別支援学校高等部	29	○	○			○	まが玉
8	1月13日	木	長岡市立総合支援学校職員	1	○	○				下見
9	1月28日	金	長岡市立総合支援学校中部1年	25						
10	3月4日	金	県立長岡聾学校6年	5	○	○			○	まが玉
合計				152	6	6	0	0	4	

(大学)

No	月日	曜	団体	人数	案内	質問	解器	聴感	体験	備考
1	4月24日	土	長岡造形大学職員	2						視察
2	5月22日	土	長岡造形大学	15						
3	7月31日	土	長岡造形大学	13						
4	9月25日	土	長岡造形大学職員	1						
5	11月6日	土	長岡造形大学	16						楽譜鑑賞
6	11月28日	日	上越教育大社会コース	4						
7	1月21日	金	長岡・崇徳大学	47						
8	2月25日	金	学習院女子大学	3	○	○				
合計				101	1	1	0	0	0	

(幼稚園・保育園)

No	月日	曜	団体	人数	案内	質問	解器	聴感	体験	備考
1	7月15日	木	長岡・長生保育園年長	51	○	○			○	
2	7月16日	金	宮内中央こども園	40	○	○			○	
3	7月21日	水	冷水かがやきこども園	11						
4	9月29日	水	長岡・和光幼稚園年長	34						
合計				136	2	2	0	2	0	

(4) 出前授業

県内の小学校・中学校・高等学校・総合支援学校から出前授業の要請があり、延べ14校において、下表のように実施した。

	実施日	時間	学校人	学年	人数	担当	内 容 等
1	4月28日	8:50-10:40	巻総合高校	2	55+2(職員)	本多・種岡	縄文・まが玉
2	6月3日	9:00-15:00	長岡・阪之上小学校	5	58+2(職員)	田邊	前島神社及び朝日山古戦場にて戦争解説
3	6月7日	10:40-11:25	長岡市立総合支援学校中等部	2	13+8(職員)+5(保護者)	種岡	まが玉
4	6月14日	10:35-12:10	長岡・小国小学校	6	21+3(職員)	本多・菊地	北前船
5	7月20日	9:30-11:00	長岡・関原小	6	79+4(職員)	種岡・本多・菊地	まが玉
6	9月21日	13:45-15:00	長岡・寺泊小	6	38+2(職員)	種岡・菊地	まが玉
7	10月18日	10:45-12:35	柏崎・鏡が沖中	2	80+4(職員)	山本・菊地・種岡	講義「博物館とは」・まが玉
8	11月3日	10:00-11:30	新潟・鎧郷小親子	1	27+27(保護者)	菊地・種岡	まが玉
9	11月29日	13:30-14:45	三条・大崎学園	6	89+4(職員)	山本・本多・菊地	まが玉
10	12月1日	11:30-12:10	長岡・深沢小	3・4	13+2(職員)	本多・種岡	昔の道具体験
11	1月21日	9:50-11:55	県立巻高校	3	12+1(職員)	本多	縄文・まが玉
12	1月25日	10:40-12:15	長岡・栃尾東小	3	39+2(職員)	三国・菊地	昔の道具
13	1月26日	9:50-11:55	県立巻高校	3	12+1(職員)	本多	初めてのくずし字
14	3月18日	9:30-11:30	長岡・中之島中央小	6	56+2(職員)	菊地・種岡	まが玉

(5) 職場体験

県内の中学校より依頼があり、希望する生徒を受け入れた。受け入れた期日・学校・人数は下記のとおり、延べ7校24人だった。

No.	期 日	学校人(学年)	人数	体験内容
1	7月6日(火)	長岡・大島中2年	4人	まが玉体験補助、体験用具清掃、監視体験
2	7月7日(水)	長岡・大島中2年	4人	体験用具準備、まが玉体験補助、講義「博物館とは」、バックヤード見学
3	7月7日(水)	長岡・堤岡中2年	5人	体験用具準備、講義「博物館とは」、バックヤード見学
4	7月8日(木)	長岡・堤岡中2年	5人	まが玉体験補助、体験用具準備、監視体験体験
5	9月29日(水)	長岡・西中2年	2人	講義「博物館とは」、バックヤード見学、体験用具準備
6	9月30日(木)	長岡・西中2年	2人	拓本体験、体験用具準備
7	10月1日(金)	長岡・西中2年	2人	SNS体験、受付もぎり体験、監視体験

(6) 高校生アカデミック・インターンシップ研修

新潟県教育委員会の主催事業として平成30年度から実施している当事業に、平成31年度から当館も参加し、令和3年度は6名の生徒を受け入れた。詳細は以下のとおりである。

- ・目的 大学等進学希望の生徒に「大学等の向こうにある社会」を意識させ、大学研究室や研究機関などと連携し、将来進む可能性のある学問分野に関連した研究活動等を体験し、大学等への視野を広げ、学習意欲や進路意識を高め、探究する力・課題解決能力等を身につける。
- ・実施日 8月10日(火)～11日(水)
- ・参加者 新潟県内高校生6人
新潟中央高等学校(普通科)1年、新津高等学校(普通科)2年、
長岡高等学校(理数科)1年、十日町高等学校松之山分校(普通科)2年、
柏崎高等学校(普通科)2年2人
- ・内容 「学芸員の仕事を通して、博物館の役割を考える」をテーマに、学芸員とは何か、博物館の意義とは何かを理解してもらうことをめざし、研修プログラムを作成した。具体的な研究実践は、バックヤードの見学等を通じて博物館の役割を認識してもらった上で、展示企画、展示制作を体験してもらった。展示候補の原田泰治氏のピエゾグラフ(高精細複製画)の作品をもとに、企画書を各自で作成し、それを3人ずつ2グループに分かれて各1本計2本の企画書に再編。その後全員による話し合いでさらに再構成し、「山景」というテーマを決定した。原田泰治作品は本来、春・夏・秋・冬・香川シリーズの構成であるが、それを敢えて崩し、テーマ設定により作品の見方に発見をもたらすことを意図した。
その上でテーマにふさわしい6点を選び、それをどのように展示するのが効果的か、意見を出し合いながら展示計画をたて、実際に展示作業を行った。パネルの執筆・作成を行い、企画展示室前ロビーの壁面に、作品位置の決定からピクチャーレールへのフックの取り付け、ワイヤの設置と作品の吊り下げ、キャプション、パネルの設置等、基本的にすべて研修生の手にて展示を完成させた。
- ・成果 研修成果の発表として、当館の企画展示室前ロビーにて8月11日(水)から10月14日(木)まで展示した。また、柏崎高等学校(10月27日～11月5日)・十日町高等学校松之山分校(11月5日～11月12日)・新潟中央高等学校(12月2日～12月10日)にて、同作品を移動展覧会として展示した。
研修生は12月27日(月)に新潟県自治会館で行われた事後報告会で研究の成果を発表し、個人の研修成果は『令和3年度高校生アカデミック・インターンシップ研修報告書』(新潟県教育委員会発行)に掲載された。



3 イベント

[主 催]

(1) キッズ歴史研究作品展

期日：11月23日(火・祝)～12月26日(日)

会場：企画展示室

観覧者数：2,086人

内容：小中学生の夏休みなどにおける歴史に関する研究を募集。個人2人3件と関原小学校6年生の製作土器作品を展示した(「第18回マイ・コレクション・ワールド」「kid's考古学新聞コンクール全国巡回展」と同時開催)。



(2) 日本博事業「縄文の世界を歩く&おもしろ歴史体験 英語・手話でふれる縄文文化」

期日：11月23日(火・祝)＝手話、1月10日(月・祝)＝英語

会場：常設展示室・研修室

参加者数：11月23日＝19人、1月10日＝20人(うち外国人5人)

内容：常設展示の「縄文人の世界」を研究員が案内。それを英語通訳または手話通訳により鑑賞してもらう。また、あわせてまが玉づくり体験も実施。



- (3) 2021年度シンポジウム「守れ！文化財～モノとヒトに光を灯す～」
期日：2月27日(日)
会場：講堂、オンライン併用
参加者数：会場 16人、オンライン 15人
内容：新潟県立歴史博物館が中核館となっていて行っている事業のこれまでの成果を報告。パネルディスカッションでは、課題を抽出し検討を加えた。
- (4) 原田泰治氏追悼展示
期日：3月11日(金)～4月20日(水)
会場：企画展示ロビー
内容：3月2日に逝去された画家・原田泰治氏を追悼し、平成16年度に諏訪市より新潟県に寄贈されたピエゾグラフ(高精細複製画)作品から「宿根木」(佐渡)を展示。

[共 催]

- (1) えごリンピック 2021
期日：5月15日(土)
会場：アオーレ長岡・市民交流ホールB・C
主催：越後えご保存会
参加者数：150人
内容：地域の食文化を楽しみながら、守り、広め、次世代に継承、地域社会の発展に貢献することを目的として、4年に1度のえごの祭典「えごリンピック 2021」を開催。えご漁師のトークイベントやパネル展示を実施。
- (2) まちなかキャンパス長岡 こども大学「“どきドキせつき” 縄文時代探求」
期日：8月7日(土)、8月14日(土)、8月21日(土)
会場：新潟県立歴史博物館、馬高遺跡周辺、山下遺跡周辺、まちなかキャンパス長岡
主催：まちなかキャンパス長岡運営協議会
内容：遺跡を発掘して出土品を調べる考古学について、そもそも遺跡はどうやって見つけるのか、長岡市内を歩くことで、遺跡の見つけ方を学ぶ講座を開催。当館研究員が講師となって実施。
- (3) 新潟県民俗学会「令和3年度新潟県民俗学会有志見学会及び秋の談話会」
期日：10月24日(日)
会場：新潟県立歴史博物館 企画展示室・講堂
主催：新潟県民俗学会
参加者数：13人
内容：秋季テーマ展示「四季の暮らし、小さなまつり—新潟県の年中行事—」の見学及び秋の談話会として研究発表を実施。
- (4) 展覧会「第18回マイ・コレクション・ワールド」
期日：11月23日(火・祝)～12月26日(日)
会場：新潟県立歴史博物館 企画展示室
主催：新潟県立歴史博物館友の会

観覧者数：2,086人

内容：友の会会員や一般市民コレクターから募ったコレクションを展示するもの（津南町なじょもん友の会の交流展示もあり）。計13件の出品を得た（「キッズ歴史研究作品展」「kid's 考古学新聞コンクール全国巡回展」と同時開催）。

(5) 「kid's 考古学新聞コンクール全国巡回展」

期日：11月23日(火・祝)～12月26日(日)

会場：新潟県立歴史博物館 企画展示室

主催：kid's 考古学研究所

共催：NPO法人むきばんだ応援団

観覧者数：2,086人

内容：Webサイト【全国子ども考古学教室】において、2020年度にスタートしたシリーズ企画「kid's 考古学新聞コンクール」の入賞作品を紹介（「キッズ歴史研究作品展」「第18回マイ・コレクション・ワールド」と同時開催）。

(6) 映画上映会「LIGHT UP NIPPON—日本を照らした奇跡の花火—」

期日：12月19日(日)

会場：新潟県立歴史博物館 講堂

主催：新潟県立歴史博物館友の会

参加者数：10人

内容：東日本大震災発生5か月後、被災した各地に花火が上がった。会場は笑顔に包まれ、花火のチカラが人々を元気づけられることを証明した。コロナ禍で各地の花火大会が中止となる中、花火のチカラを再確認する意味で上映した。

(7) 展覧会「火焰街道2022」

期日：1月15日(土)～3月6日(日) 44日間

会場：新潟県立歴史博物館 企画展示室

主催：信濃川火焰街道連携協議会

期間中常設展示総観覧者数：2,938人

内容：信濃川火焰街道連携協議会（新潟市、三条市、長岡市、魚沼市、十日町市、津南町）は、文化財を通じた地域振興と広域観光を推進している。その活動の一環として、日本遺産「なんだ、コレは！信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化」から火焰型土器など、器（うつわ）ばなれした造形のやきものを厳選して紹介した（冬季テーマ展示「やきもの産地・新潟」と同時開催）。

[協力]

(1) 信濃川火焰街道連携協議会

期日：令和3年度

内容：長岡市・十日町市・津南町・新潟市・三条市・魚沼市で構成する地域おこしを目的とした協議会への協力。小林達雄名誉館長が顧問となっている。

4 博物館実習

9月27日(月)から10月7日(木)まで、博物館実習生を受け入れた。受入大学及び人数は、長岡造形大学(3人)、新潟大学(1人)、東北芸術工科大学(1人)、富山大学(1人)、金沢学院大学(3人)、都留文科大学(1人)、神奈川大学(1人)、奈良大学(2人)の8大学13人である。

内容は以下のとおり。

- 9月27日(月) オリエンテーション、防災訓練参加、館の概要、企画書に関する検討・提案(課題提示)、博物館と情報(課題提示)、博物館の役割・学芸員の業務
- 9月28日(火) 館内案内、資料保存(IPM)、課題調査
- 9月29日(水) 考古資料について(資料の取り扱い・点検)、展示の設計と設営、課題調査
- 9月30日(木) 民俗資料について(資料の取り扱い・点検)、文化財レスキューについて、課題調査
- 10月1日(金) 歴史資料について(資料の取り扱い・点検)、課題調査
- 10月2日(土) 休日(自主調査日)
- 10月3日(日) 博物館教育について(体験プログラムの開発)、体験プログラム実践、体験プログラム運営・観覧者行動調査
- 10月4日(月) 常設展示・資料展示替え
- 10月5日(火) キャプション・解説パネル作成、AV機器の取り扱い、課題調査
- 10月6日(水) 周辺施設について(経営・連携など)＝馬高縄文館、博物館教育について、課題調査・発表最終調整
- 10月7日(木) 課題発表(情報・企画書)、実習まとめ

Ⅲ 関係団体

1 新潟県博物館協議会

平成12年8月1日加盟。県内の博物館の連絡体であって、博物館の健全な発展を図り、もって教育・学術及び文化の発展に寄与することを目的に研修会、研究紀要の発行等の事業を実施している。当館・斎藤良人館長が副会長となっている。

2 新潟県立歴史博物館友の会

平成12年8月1日の新潟県立歴史博物館の開館と同時に発足。

役員は、会長：鈴木重彦氏、副会長：小林昌二氏、星野紀子氏、川口伊麻里氏、近藤道弥氏、理事8人、監事2人で構成。

令和3年度は、令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響で、研修旅行等通常行っている事業の多くが中止せざるを得ない事態となった。

(1) 展覧会

「第18回マイ・コレクション・ワールド」
期日：11月23日(火・祝)～12月26日(日)
会場：新潟県立歴史博物館企画展示室
入場者数：2,086人

(2) 映画上映会

「LIGHT UP NIPPON—日本を照らした奇跡の花火—」
期日：12月19日(日)
会場：新潟県立歴史博物館講堂
参加者数：10人

(2) 博物館整備事業（芝刈り）

第1回 6月19日(土)
第2回 7月24日(土)
第3回 8月28日(土)
第4回 9月25日(土)

(3) 会報の発行

No.19 4月30日発行

(4) 20周年記念誌の編集

(5) 理事会の開催

第1回 8月7日(土)
第2回 3月17日(木)



V 日誌抄

令和3年

- 4月23日(金) 春季企画展「博覧会の世紀 1851-1970」マスコミ向け内覧会実施
- 4月24日(土) 春季企画展開幕(～6月6日)
- 4月25日(日) 縄文ジオラマオンライン解説(4月29日、5月1日、5月5日にも実施)
「歴博DE婚活」イベント(ソラヒト日和主催、6月27日、10月17日、12月12日、
3月19日にも実施)
- 5月15日(土) 共催事業「えごリンピック2021」(主催:越後えご保存会、於:アオーレ長岡)
- 5月16日(日) 国際博物館の日記念無料観覧日
- 5月17日(月) 令和2年度第2回評価委員会(於:研修室)
- 5月28日(月) 「えごリンピック2021」開催記念パネル展示(～10月26日、於:講堂脇壁面)
- 5月30日(日) 春季企画展記念講演会「昭和25年の新潟県産業博覧会～長岡博の開催と戦災復興」開催
(於:講堂)
- 6月22日(火) 常設展示室燻蒸作業により臨時休館
- 6月28日(月) 防災訓練実施
- 7月16日(金) 夏季企画展「日蓮聖人と法華文化」マスコミ向け内覧会実施
- 7月17日(土) 夏季企画展開幕(～8月29日)
- 7月18日(日) 夏季企画展記念講演会「日蓮伝承と霊場の形成—佐渡・越後・甲斐—」開催(於:講堂)
常設展見どころガイド「縄文人の世界 雪とくらし はココが面白い」実施
(以後、8月7日までの土日に実施)
- 7月28日(水) 夏休み特別体験「刺し子に挑戦」
- 8月3日(金) 夏休み特別体験「まが玉」(8月5日も実施)
- 7月31日(土) 『新潟県立歴史博物館年報』第21号—令和2年度— 発行
(PDFデータをホームページ上で公開)
- 8月10日(火) 高校生アカデミック・インターンシップ研修(～8月11日)
- 8月11日(水) 高校生アカデミック・インターンシップ研修展示「山景」
(～10月14日、於:企画展示室前ロビー)
- 8月22日(日) 夏季企画展記念講演会「日蓮伝承と霊場の形成—佐渡・越後・甲斐—」開催(於:講堂)
- 9月3日(金) 8月30日の新潟県全県下への特別警報拡大を受け、新型コロナウイルス感染症拡大予防
対策として、臨時休館に入る(～9月16日)
- 9月18日(土) 秋季テーマ展示「四季のくらし、小さなまつり—新潟県の年中行事—」
マスコミ向け内覧会実施
- 9月18日(土) 秋季テーマ展示開幕(～11月7日)
- 9月24日(金) にいがた ぐるっとミュージアム!参加(～2月28日)
- 9月27日(月) 博物館実習(～10月7日)
防災訓練実施
- 10月18日(月) 令和3年度第1回評価委員会(於:研修室)
- 10月24日(日) 令和3年度新潟県民俗学会研究会有志見学会及び秋の談話会開催
(於:企画展示室・講堂)
- 10月27日(水) 移動展覧会・アカデミック・インターンシップ研修成果展「山景」
(～11月5日、於:柏崎高等学校)
- 11月5日(金) 移動展覧会・アカデミック・インターンシップ研修成果展「山景」
(～11月12日、於:十日町高等学校松之山分校)

- 11月23日(火・祝) 友の会主催展覧会「第18回マイ・コレクション・ワールド」
「Kid's 考古学新聞コンクール全国巡回展」「キッズ歴史研究作品展」開幕
(於：企画展示室、～12月26日)
日本博事業「縄文の世界を歩く&おもしろ歴史体験 手話で見る縄文文化」
- 12月2日(木) 移動展覧会・アカデミック・インターンシップ研修成果展「山景」
(～12月10日、於：新潟中央高等学校)
- 12月19日(日) 友の会主催映画「LIGHT UP NIPPON—日本を照らした奇跡の花火—」上映会 (於：講堂)

令和4年

- 1月8日(土) 環境広場さっぽろ2021バーチャルツアーに参加。
- 1月10日(月・祝) 日本博事業「縄文の世界を歩く&おもしろ歴史体験 英語で見る縄文文化」
- 1月14日(金) 冬季テーマ展示「やきもの産地・新潟」マスコミ向け内覧会実施
- 1月15日(土) 冬季テーマ展示・信濃川火焰街道連携協議会主催展覧会「火焰街道2022」開幕
(於：企画展示室、～3月6日)
ミニ展示「奥羽仕置と色部長真」開幕 (於：常設展示室、～2月13日)
- 1月16日(日) サイノカミ実施
- 2月21日(月) 防災訓練実施
- 2月27日(日) 「守れ！文化財～モノとヒトに光を灯す～」2021年度シンポジウム
(「守れ！文化財～モノとヒトに光を灯す～」事業実行委員会〔中核館・新潟県立歴史博物館〕主催、於：講堂、オンライン併用)
- 3月11日(金) 原田泰治氏追悼展示 (3月2日逝去、企画展示ロビー、～4月20日)
- 3月25日(金) 『新潟県立歴史博物館研究紀要』第23号発行

VI 条例等

1 新潟県立歴史博物館条例

(平成12年3月31日)
新潟県条例第10号

(設置)

第1条 新潟県の歴史及び民俗並びに縄文文化に関する県民の教養を高め、県民の学術及び文化の発展に寄与するため、新潟県立歴史博物館（以下「博物館」という。）を長岡市関原町1丁目字権現堂に設置する。

(事業)

第2条 博物館は、次に掲げる事業を行う。

- (1) 新潟県の歴史及び民俗並びに縄文文化に関する資料（以下「資料」という。）の収集、保管及び展示を行うこと。
- (2) 資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- (3) 資料に関する情報の提供を行うこと。
- (4) 資料の利用に関し必要な説明、助言等を行うこと。
- (5) 新潟県の歴史及び民俗並びに縄文文化に関する講演会、講習会、研究会等の開催その他の交流及び普及に関する活動を行うこと。
- (6) 前各号に掲げるもののほか、博物館の設置の目的を達成するために必要な事業

(観覧料)

第3条 博物館の常設展示室に展示されている資料を観覧しようとする者は、別表第1に掲げる観覧料（以下「観覧料」という。）を納めなければならない。

(特別観覧料)

第4条 展覧会その他の特別の催しを観覧しようとする者は、知事が別に定める特別観覧料（以下「特別観覧料」という。）を納めなければならない。

第5条 削除

(平19条例81)

(研修室等の使用の許可)

第6条 博物館の研修室又は講堂を使用しようとする者は、知事の許可を受けなければならない。許可を受けた事項を変更しようとするときも、同様とする。

2 知事は、次の各号のいずれかに該当するときは、研修室又は講堂の使用を許可しないことができる。

- (1) 公の秩序又は善良の風俗に反するおそれがあると認めるとき。
- (2) 博物館の施設又は設備を損傷するおそれがあると認めるとき。
- (3) 前2号に掲げる場合のほか、博物館の管理上支障があると認めるとき。

3 知事は、博物館の管理上必要があると認めるときは、第1項の許可に条件を付することができる。

(使用許可の取消し等)

第7条 知事は、前条第1項の許可を受けた者（以下「施設使用者」という。）が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、その許可を取り消し、又はその使用を制限し、若しくは停止することができる。

- (1) 不正の手段により使用の許可を受けたとき。
- (2) 前条第2項各号のいずれかに該当するに至ったとき。
- (3) 前条第3項の規定により使用の許可に付した条件に違反したとき。
- (4) この条例又はこの条例に基づく規則の規定に違反したとき。

(施設使用料)

第8条 施設使用者は、別表第2に掲げる施設使用料（以下「施設使用料」という。）を納めなければならない。

2 施設使用料は、前納とする。ただし、知事は特別の理由があると認めるときは、後納させることができる。

(観覧料等の免除)

第9条 知事は、必要があると認めるときは、観覧料、特別観覧料又は施設使用料の全部又は一部を免除することができる。

(平19条例81・一部改正)

(観覧料等の不還付)

第10条 既に納めた観覧料、特別観覧料及び施設使用料は、還付しない。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(平19条例81・一部改正)

(委任)

第11条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理に関し必要な事項は、規則で定める。

(平17条例72・旧第12条繰上)

附 則

この条例は、平成12年8月1日から施行する。

附 則(平成17年条例第72号)

この条例は、平成18年4月1日から施行する。

附 則(平成19年条例第81号)

この条例は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成26年条例第16号)

(施行期日)

1 この条例は、平成26年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 改正後の別表第2の規定は、この条例の施行の日以後に使用の許可を受ける者について適用し、同日前に使用の許可を受けている者については、なお従前の例による。

附 則(平成28年条例第24号)

この条例は、平成28年4月1日から施行する。

附 則(平成31年条例第10号)

(施行期日)

1 この条例は、平成31年10月1日から施行する。

(経過措置)

2 改正後の別表第2の規定は、この条例の施行の日以後に使用の許可を受ける者について適用し、同日前に使用の許可を受けている者については、なお従前の例による。

別表第1(第3条関係)

(平19条例81・平26条例16・平28条例24・平31条例10・一部改正)

区 分	観 覧 料	
	個 人	団 体 (20人以上の団体に限る。)
高等学校の生徒 中等教育学校の後期課程の生徒 大学の学生 高等専門学校 その他これらに類する者	200 円	1 人につき 160 円
その他(学齢に達しない者並びに小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校の前期課程並びに特別支援学校の小学部及び中学部の児童及び生徒を除く。)	520 円	1 人につき 410 円

別表第2（第8条関係）

（平26条例16・平31条例10・一部改正）

区 分		使用時間	施設使用料
研修室	全面使用	午前9時から正午まで	3,970円
		午後1時から午後5時まで	5,340円
		午前9時から午後5時まで	9,320円
	片面使用	午前9時から正午まで	1,990円
		午後1時から午後5時まで	2,670円
		午前9時から午後5時まで	4,650円
講 堂		午前9時から正午まで	11,200円
		午後1時から午後5時まで	15,000円
		午前9時から午後5時まで	26,200円

2 新潟県立歴史博物館規則

(平成 12 年 7 月 18 日)
(新潟県規則第 129 号)

(趣旨)

第 1 条 この規則は、新潟県立歴史博物館条例（平成 12 年新潟県条例第 10 号。以下「条例」という。）の施行に伴い、新潟県立歴史博物館（以下「博物館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間)

第 2 条 博物館の開館時間は、午前 9 時 30 分（研修室及び講堂については、午前 9 時）から午後 5 時までとする。

(休館日)

第 3 条 博物館の休館日は、次に掲げる日とする。

(1) 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日（以下「祝日」という。）に当たるときは、その直後の平日（日曜日及び祝日以外の日をいう。）

(2) 12 月 28 日から翌年の 1 月 3 日までの日

(開館時間又は休館日の変更)

第 4 条 前 2 条の規定にかかわらず、知事は、必要があると認めるときは、開館時間若しくは休館日を変更し、又は臨時に休館することができる。

(平 18 規則 27・一部改正)

(観覧券等の交付)

第 5 条 博物館の長（以下「館長」という。）は、条例第 3 条の規定による観覧料若しくは条例第 4 条の規定による特別観覧料を納めた者又は条例第 9 条の規定により観覧料若しくは特別観覧料を免除された者に対し、観覧券を交付するものとする。

(平 18 規則 27・平 20 規則 16・一部改正)

(研修室等の使用手続)

第 6 条 条例第 6 条第 1 項の規定により、博物館の研修室又は講堂（以下「研修室等」という。）の使用又は使用の変更の許可を受けようとする者は、別記第 1 号様式による申請書を館長に提出しなければならない。

2 館長は、前項の規定による申請書の提出があった場合において、研修室等の使用又は使用の変更が許可されたときは、申請者に通知するものとする。

3 前項の規定により使用又は使用の変更の許可の通知を受けた者（以下「施設使用者」という。）は、研修室等を使用するときは、同項の規定による通知書を係員に提示しなければならない。

4 施設使用者は、研修室等の使用の取消しをしようとするときは、別記第 2 号様式による届出書を館長に提出しなければならない。

(平 18 規則 27・一部改正)

(施設使用者の遵守事項)

第 7 条 施設使用者は、次に掲げる事項を守らなければならない。ただし、第 3 号及び第 4 号に掲げる事項については、館長の承認を受けたときは、この限りでない。

(1) 使用目的以外の目的に使用しないこと。

(2) 使用する権利を他の者に譲渡し、若しくは担保に供し、又は使用する研修室等を他の者に使用させないこと。

(3) 現状を変更しないこと。

(4) 前 3 号に掲げるもののほか、館長が定める事項

(平 18 規則 27・一部改正)

(観覧料等の免除)

第 8 条 条例第 9 条の規定により、観覧料及び特別観覧料（以下この項において「観覧料等」という。）を免

除することができる場合及びその額は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校の前期課程並びに特別支援学校の小学部及び中学部の児童及び生徒が教育課程に基づく教育活動として観覧する場合 当該児童及び生徒の引率者の観覧料等の全額
 - (1) の 2 県内に所在する高等学校、中等教育学校の後期課程、高等専門学校及び特別支援学校の高等部の生徒が教育課程に基づく教育活動として観覧する場合 当該生徒及びその引率者の観覧料等の全額
 - (2) 児童福祉法(昭和 22 年法律第 164 号)第 7 条第 1 項に規定する児童福祉施設のうち、児童養護施設、障害児入所施設、児童発達支援センター及び児童自立支援施設に入所し、又は通っている者(以下「入所者等」という。)が当該施設の活動として観覧する場合 当該入所者等及びその引率者の観覧料等の全額
 - (3) 身体障害者福祉法(昭和 24 年法律第 283 号)第 15 条に規定する身体障害者手帳(以下「身体障害者手帳」という。)の交付を受けた者が観覧する場合 その者の観覧料等の全額
 - (4) 療育手帳制度要綱(昭和 48 年 9 月 27 日付け厚生省発児第 156 号厚生事務次官通知)に規定する療育手帳(以下「療育手帳」という。)の交付を受けた者が観覧する場合 その者の観覧料等の全額
 - (5) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(昭和 25 年法律第 123 号)第 45 条に規定する精神障害者保健福祉手帳(以下「精神障害者保健福祉手帳」という。)の交付を受けた者が観覧する場合 その者の観覧料等の全額
 - (6) 車いす等の補装具を使用している障害者基本法(昭和 45 年法律第 84 号)第 2 条第 1 号に規定する障害者(以下「補装具を使用している障害者」という。)の介助者が観覧する場合 当該介助者(障害者 1 人につき 1 人に限る。次号から第 9 号までにおいて同じ。)の観覧料等の全額
 - (7) 身体障害者手帳に第 1 種身体障害者(身体障害者に対する旅客鉄道株式会社等の旅客運賃の割引について(昭和 57 年 1 月 6 日付け社更第 4 号厚生省社会局長・児童家庭局長通知)に規定する第 1 種身体障害者をいう。)として記載されている者の介助者が観覧する場合 当該介助者の観覧料等の全額
 - (8) 療育手帳に第 1 種知的障害者(知的障害者に対する旅客鉄道株式会社等の旅客運賃の割引について(平成 3 年 9 月 24 日付け児発第 811 号厚生省児童家庭局長通知)に規定する第 1 種知的障害者をいう。)として記載されている者の介助者が観覧する場合 当該介助者の観覧料等の全額
 - (9) 精神障害者保健福祉手帳に障害等級 1 級(精神保健及び精神障害者福祉に関する法律施行令(昭和 25 年政令第 155 号)第 6 条第 3 項に規定する障害等級 1 級をいう。)として記載されている者の介助者が観覧する場合 当該介助者の観覧料等の全額
 - (10) 第 3 号から第 5 号までに規定する者又は補装具を使用している障害者が団体(それらの者が 20 人以上であるものに限る。)として観覧する場合において当該団体に随行する医療担当者(医師、看護師等をいう。)が観覧するとき 当該医療担当者(2 人以内に限る。)の観覧料等の全額
- 2 条例第 9 条の規定により、施設使用料を免除することができる場合及びその額は、次に掲げるとおりとする。
- (1) 博物館の設置の目的の達成に資するものとして県が後援し、又は賛助する事業(営利を目的としないものに限る。)を行うために使用する場合 施設使用料の全額
 - (2) 新潟県の歴史又は民俗に関する研究活動又は普及活動を行うことを目的とする団体が当該目的のために使用する場合(営利を目的としない場合に限る。)施設使用料の 2 分の 1 に相当する額
- 3 前 2 項に定めるもののほか、知事は、公益上必要があると認めるときは、観覧料、特別観覧料又は施設使用料の全部又は一部を免除することができる。
- (平 14 規則 146・平 19 規則 15・平 20 規則 16・平 23 規則 39・平 24 規則 19・平 28 規則 26・令 2 規則 24・一部改正)
- (観覧料等の免除手続)

第 9 条 前条第 1 項の規定による免除(同項第 1 号、第 1 号の 2、第 2 号又は第 10 号に係るものに限る。)を受けようとする者は、あらかじめ別記第 3 号様式による申請書を館長に提出しなければならない。

2 前条第1項の規定による免除（同項第3号から第9号までに係るものに限る。）を受けようとする者は、これらの規定のいずれかに該当することを示す身体障害者手帳その他の書類を館長に提示しなければならない。ただし、館長が当該書類を提示する必要がないと認めるときは、この限りでない。

（平14規則146・平18規則27・平20規則16・一部改正）

附 則

この規則は、平成12年8月1日から施行する。

附 則（平成14年規則第146号）

この規則は、平成14年10月1日から施行する。

附 則（平成18年規則第27号）

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則（平成19年規則第15号）

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成20年規則第16号）

この規則は、平成20年4月1日から施行する。ただし、第8条第1項第2号の改正は、公布の日から施行する。

附 則（平成23年規則第39号）

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（平成24年規則第19号）

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成28年規則第26号）

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（令和2年規則第24号）

この規則は、令和2年4月1日から施行する

別記

第1号様式（第6条関係）

研修室等 使用 許可申請書 使用変更

新潟県知事 様

年 月 日

住 所 〒

氏 名

（法人又は団体にあつては、
名称及び代表者の氏名）

電 話

担当者

下記のとおり研修室等 を使用をしたい ので申請します。
の使用の変更をしたい

なお、使用に際しては、新潟県立歴史博物館条例及びこれに基づく規則に従います。

記

区 分		使 用 の 内 容 (使用の変更の場合は、変更前の内容)	変 更 す る 内 容
使用する施設 及び使用日時	研 修 室	<input type="checkbox"/> 全面使用 <input type="checkbox"/> 片面使用 年 月 日 時から 年 月 日 時まで	<input type="checkbox"/> 全面使用 <input type="checkbox"/> 片面使用 年 月 日 時から 年 月 日 時まで
	講 堂	年 月 日 時から 年 月 日 時まで	年 月 日 時から 年 月 日 時まで
使用の目的 (催事の名称)			
使用予定人員		人	人
参加料の有無		有 (円) 無	有 (円) 無
施設使用料の 免除申請		<input type="checkbox"/> する (理由:新潟県立歴史博物館規則第8条第2項第 号該当) <input type="checkbox"/> しない	
※施設使用料	円	※使用 条件	
※免除額	円		
※納付する額	円		

注 ※印欄は、記入する必要はありません

第2号様式（第6条関係）
（平18規則27・旧第3号様式繰上）

研修室等使用取消届出書

新潟県知事 様

年 月 日

住 所 〒

氏 名

（法人又は団体にあつては、
名称及び代表者の氏名）

電 話

担当者

下記のとおり研修室等の使用の取消しをしたいので届け出ます。

記

使用許可通知の年月日 及 び 番 号	年 月 日 第 号			
使用許可を受けた 施設及び使用日時	研 修 室	<input type="checkbox"/> 全面使用 年 月 日 年 月 日	<input type="checkbox"/> 半面使用 月 日 月 日	時から 時まで
	講 堂	年 月 日 年 月 日	日 日	時から 時まで
許可を受けた使用目的 （ 催 事 の 名 称 ）				
使用の取消しの理由				

第3号様式（第9条関係）

（平18規則27・旧第4号様式繰上、平20規則16・一部改正）

観覧料等免除申請書

新潟県知事 様

年 月 日

住 所 〒

氏 名

（法人又は団体にあつては、
名称及び代表者の氏名）

電 話

担当者

下記のとおり 観覧料 特別観覧料 の免除を受けたいので申請します。

記

申 請 の 理 由	新潟県立歴史博物館規則第8条第1項第 号該当
観 覧 年 月 日	年 月 日 時 分頃から 時 分頃まで
対 象 及 び 人 数	生徒 人 医療担当者 人 入所者又は通所者 人 引率者 人 合 計 人
観覧の際の責任者の氏名	
その他参考となるべき事 項	

新潟県立歴史博物館年報 第22号

—令和3年度—

令和4年7月15日発行

編集 新潟県立歴史博物館
発行

〒940-2035

新潟県長岡市関原町1丁目字権現堂2247番2

TEL 0258(47)6130

FAX 0258(47)6136

HP <http://nbz.or.jp/>

メールアドレス office@nbz.or.jp

**Annual Report
The Niigata Prefectural
Museum of History**

No. 22